6571 15.4.1

緑丘

1970 No. 74
45年度 第2号

小樽高商
二代校長

伴房次郎先生書簡集(下)

小樽商大
同窓会誌

サッポロビールは
最初のうまさが持続する

サッポロビールが90年の歴史のうちに育て上げた名酵母M2。それが純粋なうまさをつくります。いやなニガ味やくどさがありません。だから何杯飲んでもうまさが持続。一度ぜひ ほかのビールと飲み比べて下さい。

味は本場の――――――ミュンヘン・サッポロ・ミルウォーキー

小樽高商
二代校長

伴房次郎先生書簡集(下)

緑丘

全国版

(通巻)No. 74号
(45年度 第3号)

(「緑丘」編集部)
〒662 兵庫県西宮市清水町
1の16 蓑目英三内
(緑丘会大阪支部)
大阪市北区梅田八番地
新阪急ビル8階
サッポロビール㈱ 内

1日·2日の小さな旅に出ましょう

洞爺
登別

ホテル(政府登録)
万世閣

洞爺万世閣 5－2171
登別万世閣 4－2266

札幌案内所25－8570・チェーンホテル＝定山渓グランドホテル

国土綜合開発に貢献するKYC

〈KYC本社社屋〉

KYC
建設機械はこのマーク

営業品目
砕石プラント
バッチャープラント
アスファルトプラント
クラッシャー
バッチャースケール
コンクリートミキサー
ベルトコンベヤー
設備コンベヤー

KYC 建設機械の総合メーカー
光洋機械工業株式会社

取締役社長　奥村正美（昭17卒業）

本社　大阪市北区南同心町1丁目31番地　TEL大阪 358－3521(大代表)
事業所　大阪　TEL大阪358-6531(代表)・東京　TEL東京294-1281(代表)
仙台　TEL仙台 25-4441(代表)・福岡　TEL福岡 43-6461(代表)
札幌　TEL札幌 26-5171(代表)・名古屋　TEL名古屋262-0251(代表)
広島　TEL広島 43-2261(代表)・鹿児島　TEL鹿児島 6-1650(代表)

伴房次郎先生金婚式祝賀会

昭和29年4月8日
於　椿　山　荘

緑丘会員一同を代表して柳瀬伊蔵氏（第一回卒業）の祝辞

（左）伴先生御夫妻・先生の御挨拶は含蓄の深いものであった
（右）同窓生が心をこめてお祝した記念品の贈呈
受けらるる先生御夫妻

日本が生んだ世界のワイン

数かずの国際ワインコンクールで四〇個以上のメダルを受賞

ハチキャノンワイン

ゴールド〈赤・白〉720㎖——600円
シルバー〈赤・白〉720㎖——400円
スター〈赤・白〉720㎖——300円

ゆたかなコク、まろやかな舌ざわり合同酒精が、ワインの本場フランスボルドー地方の流れをくむ伝統ある日本でただひとつのワインづくりの殿堂〈牛久シャトー〉で丹念につくりあげた最高級の正統派ワインです。

skin dew

朝と　お休み前に
5分間だけさいてください
スキン・デューに含まれた
天然の成分コラゲンが
あなたのお肌に
栄養としめり気を与え
1日中うるおいをたもちます

Paris London New York Tokyo
Helena Rubinstein
ヘレナ・ルビンスタイン化粧品
取締役社長　加地幸一（大12.卒）

（左上）越後獅子の踊りに興ぜらるる伴先生御夫妻

（右上）越後獅子を踊るお河童髪の古関豊子さん（当時８才）
＜花柳流・古関周蔵氏令嬢＞

（中）左から　苫米地先生御夫妻、伴先生御夫妻、大野先生御夫妻
（三校長を中心に一同乾杯）

（下）和気靄々の会場風景

昭和二九年

一〇四、越崎清二一宛

小樽市緑町三ノ四

（端書　一月二五日）

拝啓、一昨二十日午後カラ新年初雪ガ降リ出シ昨日モ終日止マズ今朝モ尚続キ珍ラシキ大雪ニナリマシタ。時ニハ北海道ノ吹雪ヲ思ハセル光景ヲ呈シ寒イコト々々々。昨夜ハ床ノ中モ安カラズ朝ヲ待チテ火鉢ニ寄リ度イト願ヒマシタ。何分八十一歳ノ高令ト云ウ意識ガ伴ウ上ニ頃日叟身ニ変調ヲ覚ヘマスノデ稍不安ヲ感ジマス。頭ガトモスルトフラツキマス。アレカコレカト原因ヲ考ヘテマスガ、気温ノ一寸シタ変化ガ響ク為メカト思ハレマス。血圧ハ低イカラ溢血ノ心配ハナイ筈デ寧ロ貧血ニ近イノデス。診察ハ受ケテマセン。按摩ガ良イカトモ思ヒマス。今日マデノ長寿ガ既ニ意外デアルシ、多少ハ仏法モ心得居リ、格別未練ハ無イ筈デ其ノツモリデモ居リマスガ、時期ヲ限ラレテハ面白ク有リマセン。ソレモ終戦直後カラ二十四年御地ヘ参リシ頃ハ絶望的デ、寧ロ解決ヲ望ム気持デシタガ、不安焦燥ノ中ニモ世ノ中ハ幾分ヅヽ明クナリ日本ノ前途ニ希望モ見ヘ、個人トシテノ身上ニモ厳冬去リテ春ノ萠シガ見ヘ微温カラ暖気ヲ覚ヘル様ニナルト、地獄行ハ今シバシトノ願ガ下心ニ起リマス。諸方カラ受ケタル、又今モ受クル好意芳情ヲ思ヘバ、感謝ノ情胸ニ満チ溢レ乏シキ身ニ過ギタル仕合ハセト思ウ故、今更申分ナク尚ホ此上ヲ望ムハ過分慮外トヨク承知シテマス。実際世ニモ稀ナル幸福者ト難有ク思ヒマス。此一条ヲ告白シマスガ、此告白ニモ自惚ガ交ルカモシレント自省ヲ要スルカモ知レン。筆ノ勢デ妙ナコトニナリマシタガ真情デハ有リマス。大正元年小樽ニ赴任シタ時カラ今日ノ境遇ナド夢ニモ思ハヌコトデシタ。

遙カニ寄セラレタ珍味モ愈オシマイニ近ズキマシタ。昨日一家ニ分チマシタ。今日ノ茶受ニ名々ガ頂クノガ最後デス。幸ヒ寒サノ為メ味ガ変ラズ、時々来客モアリ自慢ニテ出シテ喜ビヲ別チモスルコトガ出来マシタ。引続キ幾年毎度ノ御芳情重ネテ御礼ヲ申上マス。ソノ為メニ此端書ヲ書キ出シテ妙ナ事ヲ書キマシタ。

卒業後、はじめて職を奉じた株式会社新宮商行の当時の役員諸氏はすべて他界されてしまったが、偶々終戦直後の食糧難の当時、私が銭函工場勤務であったこと、家内の老母が秋田県出身であることから飯鮨を造る桶を手離さずにあったことなどが、図らずも先生との奇縁の発端となった。先生の端書通信はあまりにも有名であるが、校正にあたってよくもこれ丈けの文字が納まっていたものかと判断に苦しむばかりである。送った当人の方が端書に盛られた先生のご心情にどれ程感激を覚えたことであったか。小宅ご一泊の折、不図『私は弱い者の味方だよ』と云はれた言葉が忘れ難い。

今日二十五日ハ昭二組ノ新年会ニ招カレテ夕方老妻ト共ニ出席シマス。雪深ク空気ハ冷イガ車ニ迎ヘラレテ行キマス。楽シキ会デス。幾人集マルカナート思ヒツヽ出カケマス。

一〇五、小貫武宛

（端書　一月二九日）

拝啓、先日ノ会合ハ甚ダ愉快デ有リマシタ。隔テナク遠慮ナク言動出来ルノデ、気分ガ自然ニ湧キ出ルノデス。両人ガ御招ニ預リ恐縮デス。夫レ夫レノ人柄ガワカリ、大ニ有益ナリト老妻モ喜ンデマス。送迎トモ例ノ如ク御世話ニ相成、特ニ御礼申上マス。御注意ガ行届クコト敬服、又感謝之至リデス。只今御封書拝見シマシタ。例ノ文句ヲ書ケトノ御注文承知シマシタ。直下ニ一諾アルノミデス。併シ近来ハ字ヲ書キマセンシ、生来字ガ下手デ苦手デスカラ、実行ハ容易デナイノデス。御承知置キヲ願ヒマス。気ガ向クト却テ乗気ニナリ、巧拙ヲ忘レテ書キナグルコトモ有リマス。第一生命ノ社長故矢野恒太ト云フ人ハ臨紙泣ト三字ヲ判ニシテ用イタト云フコトヲ聞イテ居マス。

一〇六、小貫武宛

（端書　二月一三日）

拝啓、先夜ハ難有御礼申上マス。御迎ヘニ始マリ、碁席デハ何カト御配慮ヲ被リ恐縮至極デス。古関氏ト久振ニ同車シテ其ノ為メ浪人一人ヲ救ヒ得タリト存ジマス。甚好都合デシタ。同時ニ耳ニ入リシ消息ハ只今往来スル唯一人ノ老先輩ノ子息ニ関スル、芳シカラザル情報デ、他日老人ノ驚キト悲哀ガ思ワレ気ノ毒デナリマセン。不肖ノ子ハ無キニ如カズト考ヘラレマス。

星ケ岡ノ料理ハ茶料理トカ申スモノラシク、後デ味フト一段ノ風味デス。隣席ノ苦先生ハ朝来多忙ニテ昼食ノ暇ナク大ニ空腹ニテ、台上ニ出ル品々ヲ直様平ゲラレ小生モ之ニ倣ヒテ健啖シマシタ。食器ハ勿論、各室其他建築物ヲ鑑賞スル眼ハ有リマセンガ、板倉氏吹聴ノ趣ハ確カニ事実ナリト存ジマス。隅々マデ行届キタル構造ニハ、金ニ糸目ヲツケテハナリマセンカラ、全体ノ経費ハ莫大ト思ヒマス。大会社デスラモ経営ニ行キ悩ム社会ノ状況ヲ尻目ニ、庭ノ石マデ骨董趣味ヲ滲ミ込マセタ趣向ニハ驚クノ外アリマセン。確カニ別世界ヲ作リシモノデス。東京ナレバコソ、思ヒ付ク人モ利用スル人モ有ルノデセウ。小生近来郷愁ノ傾アリ、大ニ寂寥ヲ感ジマス。人口幾万ノ伏見市ニ、昔ノ知人友人殆ンド全ク絶ヘテ、通信スベキ人モ有リマセン。八十年ノ間ニ彼等ハ世波ニモマレ、生活ニサイナマレテ、其跡ヲ留メザルニ至リシモノト考ヘラレマス。小生ハ幸ニ賑カナ会合ニ列シテ他ヲ忘レテ楽ムコトガ出来マス。

前段の昭二会への御礼状に対するお言葉とお愉びには只々感謝あるのみ。
後段は私が何か掛紙をおねだりしたことの様です。恐縮汗顔の至り。

「唯一人の老先輩の子息云々」については註記を差しひかえますが、先生は大変心配せられておりました。
当時の緑丘会十日会は故板倉氏の発案で各クラスの有志が愉んで苦慮し趣味を生かし、場所を変へて先生をお迎へしたものでした。先生のお楽しみが浮き出て参ります。

一〇七、服部兵吾宛

（端書　二月二三日）

名古屋市中川区花池町二ノ五六　　東京都大田区田園調布二ノ四〇発

拝啓　来五月ノ三十年記念会ニハ熱海ヘ御参会ノ予定ノ由新年ノ賀状デ拝見シマシタガ是非顔ヲ見セテ下サイ。小生ハ昨年カラ約束シ古関高浜両氏等ニ面会ノ節ハ幾度モ其話ヲシテ当日ヲ楽シンデ居マス。先般ノ大雪以来寒気強ク閉口シマシタガ昨今漸ク暖気ガ近ヨリ来レル心地シテ又一冬ヲ凌ギ得タリト喜ビマス。近頃ノ小生ハヨク睡ルノニ驚キマス。昔カラ老人ノ睡ルコトハ知ッテマシタ。ヒヤカシタリ笑ッタリシタモノデスガ、自身ニ経験シテ其道理ガワカリマシタ。生気ヲ保存スルニ必要ナルガ為デス。同時ニ思考力ガ衰ヘテ無心ニ近キ状態ニナリマス従テ又世間ニモ疎クナル次第デス。小樽ニテ面接セシ頃トハ貴君ノ御身ノ上モ変リ一家ノ事情モ同ジカラズ如何ナル御様子カト思ヒ浮ビマス。小生ハ大分ニ老衰シテ恥シク思フ位デスガ卒業生ノ諸君ハ大目ニ見テ呉レルノデ嬉シイデス旧知旧友ハ次第ニ数ガ減ジ殊ニ郷里方面ニハ通信ヲ交ス人モ無クナリ大ニ心淋シク緑丘ノ諸君ニ逢フコトガ唯一ト申スホドノ愉シミトナリマシタ。一昨年秋招カレテ大阪ニ参リ往復トモ御地ヲ通過シマシタガ御地ニハ立寄ル便宜ガイツモ有リマセン三重方面モ同様デス遠方ヘハ其覚悟ヲシテ出カケマスガ中間地帯ハ却テ便宜ガ無イノデス（列車ノ時間デモ）

一〇八、板東虎市宛

（端書　三月二日）

拝啓　今度ハ久振ニ字ヲ書カネバナランコトニナリマシタ。筆墨ヲ取リ出シタリ棚ノ隅カラ

来五月の三十年記念会には熱海へとあるは、伊東温泉での緑丘十三会の三十周年記念会のことであり、久々に対談出来るのを待望されている。

手本ヲ出シタリスルト、貴君ノ書面ガ出テ来マシタ。瓢兮瓢兮ノ解釈ノ礼状デス。橋本氏ノ書イタモノノ事デス。当時ヲ回想スルコトシバシ。無尽ノ感想ガ湧キマス。当時小生ハ焼ケ出サレテ此家ニ寄寓シ、次男ノ死亡後デモアリ、衣類ハ乏シク生活ハ不自由、収入ハ無シ、致方ナク習字ヲ始メマシタガ手本モ焼イテシマイ、伴ノ蔵書中カラ雑誌ノ如キモノヲ取リ出シテ手本トシタニ過ギマセン。当時紙ハ最モ欠乏シ筆モ悪クテ値ガ高ク、墨ノミガ豊富デシタ。習字ヲシテモ第一気ガ乗リマセンノデ進歩セズ、字ニ筆勢ガ全ク出マセンノデ終ニ止メマシタ。最モ生キ甲斐ナキ時代デシタ。之ヲ顧ミルト今ノ生活ハ大ニ向上シマシタ。今年ハ八十一歳、長生キヲシタ御蔭デ老人ナガラ楽シキ日ヲ送ルコトガ出来マス。ソレニハ十日会其他卒業生達ノ好意ガ大ニ有力ナル慰安並ニ力添ヘトナリマシタ。当時イツ死ンデモヨイト思ッテマシタガ、アノマヽ死ンダラ、ミジメナモノデシタ。小生ハ長生キヲシテ得ヲシタト申スベキデス。勿論老人ニハ前途ト云フ張合ヒガ有リマセンケレドモ。

一〇九、板東虎市　宛

（端書　三月一〇日）

御端書拝見、人間ハ良キ子ヲ持ツノガ第一ノ宝デス。併シ之ニハ長キ歳月ヲ要シ成人スルマデニ親ハ老イマス。財産ハ第二次デスガ現実ニ効能ヲ現ハスカラ千万円ノ富ハ夢ニシテモ愉快デスガ、是非トモ現実ニシタイモノデス。時期ヲ待チ適当ノ買手ヲ見ツケルコトヲ念ジマス。貴君ガ毎夕酒ヲ飲ムノヲ見テツマラヌ事ニ得意ニナッテルト思フタレド、収入ノ有ルニ任セ、他人ノ飲メヌ酒ヲ飲ンデ気焔ヲ吐イテルノハ、留メテモ留マラヌト思ヒ差控ヘテマシタ。今ニシテ反省スルハ遅シト雖モ地上権ガ残ルトハ失策中ノ拾ヒ物デス。生活余裕ガ之ニ依リテ得ラルレバ遺憾ナシ。共ニ喜ビマス。布施君ノ家モ同様ト聞キマス。買手ニハ大ビルヲ計劃スル人ガ最良ト思ヒマス。奥様ヘ宜シク。

書いて頂く積りでなく、偶然に瓢兮瓢兮の詩を書いて頂き、先生が字を書かねばならなくなった折の僕の古い礼状を又御読みになり、当時を回想して、無量の感を伝えて来られたお手紙である。八十一才の折。

とにかく儲ける材料を報告して、法螺の吹き当が出来たと書いた手紙の御返事。昭和三十六年の病中、買人の言う通りに処分して、三千万円程安く売りましたが、少し余り、もう一ケ所六十坪程、京橋に持って居ります。父母や先生が生きておられたらと思います。

一一〇、板東虎市　宛

（端書　三月一三日夕）

坂東君ヨ、昔カラ乱世ノ英雄ト云フ語ガアル。戦時、戦後ニ於ケル君ノ行動ヲ評スルニハ最モ適当カト思フ。経理ノ業務ガ図ニ当リ、収入ノ有ルニ任セテ今日モ明日モト一升酒ヲ飲ミ歩キ、世ニ乏シキ酒ヲ消費シテ枯腸ヲ鳴ラス、世間ノ酒家ヲ羨マシガラセタリ、戦後ニハパチンコヲ始メテ熱中シタリ、貴君ノ行動ハ意ノ赴クニ従ヒテ忌憚スル所ナシ。偶々請負師ノ真似ヲシテ案外ニ利益ヲ得ズ、建物ヲ売リソコネテ困ッタ顔ヲシテ居タコトモ有ッタガ、思ヒ切リヨク転身ガアザヤカデアッタノハ流石ト思フ。其際ノ建物ガ残リ権利ノ暴騰デ今ハ莫大ノ評価ヲ為スニ至レリトハ実ニ好運デアル。月給取リヤ小商人連ハ日々アクセクシテ居テモ中々小金モ出来ナイモノデアル。貴君ガ今ノ評価ヲ現実ニスルナラバ大ニ欣賀スベキデアリマセンカ。

一一一、小貫　武　宛

（端書　三月二三日）

拝啓、今回ハ又々種々御配慮ヲ被リ誠ニ難有存ジマス。先日ハ遠方態々御光来、被服カラ写真カラ其上御馳走ニマデ相成リ恐縮至極デス。何トモ申上様ガ有リマセン。其後老婦嫁ト同道シテ三越ヘ出掛ケ帯ヲ求メテ来マシタ。写真ノ際ハ借物デシタガ、帯ニテ外観ハ整ヒ、色合ヒモ本人ノ気ニ入リ大変デス。アノ衣裳ニハ実ハ面白イ歴史、因縁談ガ有リマス。他日御話仕リマスガ、斯ル事情ガ有リマスカラ、当日ソレヲ着用スルコトヽナリマスト小生モ本懐デス。柳瀬君ノ好意モ内心大ニ感謝シテマスガ、本当ノ所右品ガ間ニ合フトスレバ従前ノ成行ガ適当ノ結末ニナル次第デス。幸ニ小生昨今ノ気分大ニ宜シク、胃腸ノ調子近来ナキ快調デス。今朝ハ床ノ中デ兎モ角、長ク生キテ来タワイト思ヒ一代ヲ回顧シマシタ。積極的ニハ何ヲシタト申ス事モ出来マセンガ、消極的ニハ格別気ニナルコトモ為サザリシ点デ安心出来ル様デス。郷里ノ酒造家カラ酒ノ粕ヲ送リ呉レマシタ。小学同級ノ友ノ養子デスガ、多年不思議ナホド好意ヲ寄セテモライマス。猶考ヘマスト小生ハ奇蹟的ノ親切ヲ多方面カラ受ケマス。奇蹟的親切ト云フ語今考ヘタノデス。

偶然に当った。日本の表玄関と喝破して、八重洲口に五十坪確保していた。振り返って見ると仕合せな我侭な一生を送ってきたものである。先生はこんな野郎が好きで心から御心配下さり、色々とお手紙を下さった。それだけでも僕は幸福だったと思う。

先生の金婚式の前日の一掬でしたでせう。先生は緑丘会のある毎に必ず風邪を引き、腹を害す程、楽しみが内攻するのですよと澄路夫人は常にお笑ひになっておりましたつけ。

一一二、富永政資　宛

埼玉県大和局区内白子一三五七

（端書三月二十三日）

廿日附御端書昨日拝見、当方ノト行違ヒカト思ヒマス。祝賀会御気ニカケラレ難有存ジマスガ、四月五日ハ誤解デス。八日木曜日デス休日デモナシ多忙ノ人ニハ都合ノワルイコトモ有ルカト心配モシマス小生ハ昨今両日腹ノグアイ大ニ宜シク九十点位デス。便通ノ都合デ瓦斯ノ停滞ナク爽快ヲ覚ヘマス。兎モ角モ長ク生キテ来タト床ノ中デ思ヒマシタ。一代ヲ顧ミテ小生ノ生活ハ消極的デ大ニ働キタリトカ大ニ功績ヲ挙ゲタトカ云フ事ナク、周囲ニ対シテ心尽シガ足リナイ、殊ニ旧友達ニ対シ充分ニ親切ニ又親密ニ心ノ底カラノ友誼ヲ発露シ得ザリシヲ残念ニ思ヒマス。金婚ヲ祝シテ貰フトスレバ矢張リ学校関係ノ人達デス。学校ガ一番関係ガ深イト申スベキデショ。功績ハナイガ出身ノ人々ノ行動ヲ注視シ其出世発展ノ状況ヲ眺メテ来マシタ。諸君ノ行動ヲ写シテ見ル鏡ノ如キ役割ヲツトメテ来マシタ。記念ノ揮毫ヲ書キ又写真ヲ撮リマシタ。前便申上シ通リ小生ハ平服ヲ主張シマシタガ容レラレズ、讃岐君ノモーニングヲ借リマシタ。当日モ之ヲ着用シマス。家内ノハ新調服デス。之ニハ歴史ガ有リマス。伴ヘ到来ノ生地ヲ用ヒ染ヲ伊東ノ野口ト云フ人ニ頼ミマシタ。三越ノ下請ヲスル染色家デ兼テ懇意デスカラ、割安ニヨキ図柄ヲ染メテモラウツモリデシタ。然ルニ先方ガ独断デ勝手ニ手ノ込ンダ仕事ヲシ其ノ為メ染代ガ六千円ヲ越ヘ贅沢品ニナリマシタ。焼キ出サレテ不自由スル身ニ一寸シタ衣料ガホシイノニ、コンナ品ヲ作ラレテ大ニ迷惑シマシタ。併シ今度ハソレデ間ニ合ハセルコトトシ更ニ帯ヲ買ヒマシタ。七千円デ外出用ノ衣料ガ整ヒマシタ。何レハ無クテハナラヌ品デスシ少シモ惜シイトハ思ヒマセン。女ニハ衣裳モイルト思ヒマス小生ハ礼服ハ作リマセン。前途短カク無駄デス。其代リ散歩ヤ訪問ニ着ル為メ軽キ実用的ノ和服ヲ作ルコトヲ希望シテ其内ニ実行シマス。伴ガ先日名古屋ト神戸ヘ出張シテ沢山土産ヲ持チ帰リマシタ。茶ヲ始メ名物ノ菓子類品々デス。残ラズ平ゲ度イガ胃ガ許シマセン。口腹ノ慾ニハ限度ガ有リマス。戦争中カラ極上ノ善哉ヲ食ヒ度イトノ宿望ヲ今モ尚持シテマスガ、食慾ハ大ニ減退シマシタ。碁モ見込ミガナクナリ、踊芝居ニ興ナク、セメテ軽快ナル衣物ヲ作ル位ノモノデショウ。

（後略）

一一三、金吉忠吉　宛

（端書　四月七日夕）

拝啓　明八日金婚式祝賀会ノ事聞及バレ、早速祝賀ノ電信ヲ頂キ誠ニ難有御礼申上マス。意外ノ長寿ヲ保チ、老妻ト共ニ結婚五十年ニ至レルコトハ、小生ノ大ナル仕合ハセデスガ、緑丘会諸君ノイツモ変ラヌ御同情ノ力ニ依ルコトモ頗ル大デアリマス。毎度此事ヲ思ヒ感謝シテマス。過去ノ戦争ハ老人ニ専ラ不利益デアリマシタ。終戦后二男ヲ亡ヒ、家ハ焼カレ、僅カニ生命ヲ維持スルノミデ、世間ハ老人ヲ顧ミズ、何ノ希望モナク枯レタル老木トノミ思ヒマシタ。我生命モツレナク味気ナク思ワレマシタ。偶十日会ノ後援ニテ御地ニ参リ、各位ノ歓待ヲ受クルニ及ビ、漸ク社会ヲ見直シ一条ノ生気ノ通ズルヲ思ヒ、其後更ニ、東京十日会及各種会合ニ出席シ、大阪ヘモ二度招カレテ生キ甲斐ヲ覚ヘ、長寿ノ難有サヲ感謝スルニ至リマシタ。今度ノ祝賀モ諸氏同情ノ結果デス。只此身ノ仕合ハセト喜ブノミデス。先般来腰部神経痛ニ悩ミマシタガ、明日ノ出席ニハ差支ヘマセンカラ、緑丘会員諸氏ノ好意ヲ謝シテ挨拶スルツモリデス。御影ニテ小生ノ晩年ハ一層賑カニ明朗ニナリマス。明日ハ定メテ盛会ナルベシト存ジマス。小生ガ親爺分ニテ一家ノ気分ニテ賑カニ愉シマレル様ニ希ヒ居リマス。

一一四、板倉誠　宛

（端書　四月一二日夕）

拝啓　実ニ盛大ナル祝賀会ヲ催サレ老人ハ今度コソ存分ニ胸ヲ開イテ会衆ノ好意芳情ヲ吸収シテ大ナル感動ヲ覚エマシタ。幹事諸氏ノ御骨折ヲ深ク感謝シマス。一々訪問ノ上御礼ヲ申述ベ又感想ヲ承レバ更ニ一段ト嬉シクナルト思ヒマスガ身体尚聊不安ヲ脱シマセンノデ此書面デ失礼仕リマス。御免下サル様願ヒマス。立派ナ記念品マデモ頂キマシテ恐縮至極デス。老婦ハ勿論ノコト、伴夫婦ハ初メテ老人ガ愛護サルル状況ヲ目賭シテ其嬉シサヲ語リ合ヒ喜ビマシタ。老人長寿ノ甲斐アリテ一代ノ栄誉ヲ受ケタリト満悦至極デス。健康上ノ事多少心配シテ居マシタガ其場ニナルト一切忘レ果テマシタ。精神力ノ不思議サヲ今モ思ヒ居リマス。併セテ平素ノ御好情ニモ御礼申上マス。

一一五、冨永政資 宛

埼玉県大和局区内白子一三五七

（端書 四月一二日）

御端書拝見、今度ノ祝賀会ハ実ニ未曽有ト申シテモ宜シイト信ジマス。委員諸氏ノ労モ充分ニ酬ヒラレマシタ。諸氏ノ骨折モ大変デスガ、来会者ハ皆喜ンデ祝意ニ充チテ参集シテ呉レマシタ。義理ヤ附合ヒノ出席者ハ無イト云フコトガ判明シテマスカラ、特ニ難有ク小生ハ大ニ面目ヲ施シ、盛ナル栄誉ヲ担ヒ得タリト信ジテモ決シテ独リヨガリノ自負自慢デナイト思ヒマス。伴ヤ嫁ハ始メテ此種ノ会ニ出席シマシテ小生ガ緑丘ニ於テ大切ニセラルヽコトヲ眼前ニ見テ大ニ喜ビ帰宅ノ後改メテ会ノ盛況ヲ語リ一同共ニ悦ビ且感謝シマシタ。先刻電話アリ戸井君ガ来訪スル由デスカラ君ノ感想ヲ聞キ小生ノ感想ヲモ述ベタイト思ヒマス。記念品ノ座蒲団ハ飾ツテアリマスガ使用シテ好意ヲ謝シマス。金一封ハ家内ガ半分ホシイト申シマス。羽織ガホシイノデスカラ無理モナイト思ヒマス。其外ニ孫女ニモ若干ヲ分配シマス。其残リヲ適意ニ使用シ度イノデスガ、温泉ナド宿銭ガアマリ高イカラ勿体ナクテ行ク気ニナリマセン。有意義ニ使用シテ好意ニ酬ヒ度イト念ジテマス。宴会場ニテ運バレシ御馳走ヲ口ニハコビテモ入リマセン。満腹ノ気味デシタガ夜床ニ入リマスト頻リニ空腹ヲ感ジマス。会場デハ杯ヲ受ケタリ談ヲシタリシテ落着イテ食フ暇ガ無カツタノデス。ソレヨリモ妙ナルハ先般来腰痛ニ悩ミ当日出席出来ルカトマデ心配シタノガ式場到着後全然忘却シテ病ノ気分ハ少シモ発シマセンデシタ。翌朝ハ又少シ痛ミマシタガ会ガスミ気ガ楽デスカラ全ク苦ニナラズ医師通ヒヲ止メマシタ。散歩スレバ治スルト思ヒマス。柳瀬君ノ挨拶ニ出タ囲碁二段ヘノ昇進ハ草野君ノ取計ラヒト見ヘマス。草野君ノ碁会ニテ宮下八段ト打ツタコトガアリマスノデ宮下八段ガ推センシタコトニナリマス。草野君モ宮下八段モ福島県人デス。大野君夫婦ハ九日帰樽シマシタ。夫人ハ乗物ニ弱ク一人旅ガ出来ナイノデ、式ニ出タバカリデ帰リマシタ気ノ毒デス。木村氏ノ漁場ガ初乗リデアリマシタ由、其背割ト数ノ子ヲ持参シテクレマシタ沢山ダシ長クハ置ケヌカラ盛ニ分配シマシタ。札幌カラ富樫君ト熊川君トガ出マシタ。富樫君ハクン製鮭トすじこヲ式場ヘ持参シテクレマシタ。何レモ珍デ早速賞味シテマス。青森ノ竹中君ハ会頭デス翌九日カラ会頭会議アリ富樫君ト共ニ其会議ニ出テマス。富山宇都宮カラモ来会シマシタ恐縮デス。

一一六、小貫武 宛

（端書 四月二一日）

御懇書ト写真数葉拝見難有存ジマス。先般ノ祝賀ハ小生一代ノ盛典デ、伝エ聞ク老人ナドハ驚キ且羨ムコトヽ存ジマスガ、顧ミテ思ヘバ、アレ程多数ノ人々ヲ煩ハシ且奔労サセタコトハ誠ニ感謝ノ至リデスガ同時ニ、甚ダ相スマヌ事ト存ジマス。座右ニアル禅師ノ本ニハ、内徳ナクシテ奉養ヲ受ケルコトヲ叱咤シテマス。ギクリト胸ニコタエテ深ク心得ネバナラヌト思ヒ居リマス。併シ実際ハ人ノ心ガウレシクテ戒メナガラモ、ツイ乗気ニナルノデス。扨御写真ハ何レモ小生ノ気ノ付カヌ場面デ、トリドリニ面白ク思ヒマス。好記念デス。併シ小生ノ顔ガ一段ト老人クサイヨリハ、衰エテ見エルノガ気ニナリマス。前月半頃カラノ腰痛デ疲労シタノガ現ハレタノデス。当日ハ全ク不思議ト思フ程ニ病気ヲ忘レ果テテマシタガ写真ヲトルコトヲ意識セズ、不用意ノ際ニハ病体ガ表ハレルノデス。仕方ガアリマセン。病気ハ今大ニ軽減シ、毎日少シヅツ散歩スレバ全治シマス。昔カラ云フ病気デ、神経痛ノ一種ナルコト明カニナリ、安心シマシタ。郷里ノ田舎デハ六十才位ノ老人ハ残ラズ経験スルモノデス。八十才ヲ超エテ始メテ見ルノハ、矢張頑健ノ故ト考ヘテマス。来月十五日碁会ノ由、古関、高浜両氏等ノ三十年会ガ伊東ニテ催サレ、十三日参会十四日帰宅シ翌日元気ニテ碁会ニ出マス。

金婚式の写真のことですね。予算の関係上、これは同期の茂垣君に懇願して、常に天皇をお撮りになる写真屋を選び撮らせたものです。（極めて薄謝で）これ程感謝されるとは恐縮至極です。

一一七、服部兵吾 宛

名古屋市中川区花池町二ノ五六

（端書 五月一七日）

東京都大田区田園調布二ノ四〇発

拝啓 三十年記念会ニ御招ヲ被リ難有御礼ヲ申上マス。来会者四十人以上トハ類例ヲ見ザル大盛会デス。三十年間相見ヘザリシ人モ有ルト聞キマシタ。会員達何レモ大満足ト存ジマス。会ノ中堅ニ適任者多ク其人々ガ熱心ナル為メ此成果ヲ得タノデス。其内ニハ幹事諸君ヲ訪ヒ御礼ヲ述ベルツモリデス。貴君ハ早々ニ御引取リデシタガ休日デモナイカラ仕事ノ関係上已ムヲ得ザルコトデス。御疲レト存ジマス。小生ハ十五日ノ碁会ニテ愈二段ノ免状ヲ受ケマシタ。碁会ノ人々皆小生ノ老体ヲイタワリ自動車ニテ送迎シ試合ノ手合ノ組合セモ全部老人ニ花ヲ持タセル様ニ心配リ洩ナク小生モ其気ニナリ持タサレタ花ヲ持チテ喜ビマシタ。此碁会モ免状モ全部軽金属草野社長ノ寄贈ノ由、承ハリマシタ。恐縮ノ至リデス。扨、伊東小涌園ノ玄関前ノ写

この年五月十三日に伊東の温泉小涌園にて緑丘十三会の三十周年記念会が催され参会者約四十名、伴先生御夫妻の御臨席を得て一段の光彩を放った。私は卒業アルバムを持参して会員諸君の署名を求め、それから先生の部屋に伺いアルバムとおもかげ草（サインブック）に御二方の御署名をいただき懐旧談に花が咲いた。このときの記念写真と名簿の照合の件の外に出席会員個々に対する深き御関心が示されている。書中に「早々ニ御引

真ニウツレル会員ノ姓名ヲ其写真ニ照ラシ合ハセテ残ラズ明白ニシ、後日ニ残シタイト存ジマスノデ、御手数ナガラ何トカ工夫シテ御知ラセ下サル様願ヒマス。出席前ニ名簿ヲ調ベ置ク暇ナク其上地方ノ人意外ニ多ク、席上名ヲ聞キテモ耳ガ遠クテ判然セヌモアリ、残念デシタノデ此事御願致シマス。特ニ脚ニ疾病アル人、今ハ土浦ニ住ムト聞キマスガ氏名今モワカリマセン。福田君ハ昔野付牛ニテ面会セシコトガ有リマスガ、十三会ノ一人トハ気ガツキマセンデシタ。星野君ハ勤先モ住所モ不明デシタガ面会シテ様子ガ知レマシタ、併シ顔ニ記憶アリマセン。百田君ハ出席ノ筈デスガ如何、出席者ノ名簿ヲ希望シテマシタガ出来テナカッタ様デス。

貴君ハ家庭的幸福者デス奥様ガ丈夫ナノガ其原因ト思ヒマス。宜シク御伝ヘ下サイ。

一一八、服部兵吾 宛

名古屋市中川区花池町二ノ五六　　東京都大田区田園調布二ノ四〇発

（端書　五月二五日）

拝復、御丁寧ナル御報告ヲ寄セラレ難有御礼申上マス。最初ハアルバムノ署名ヲ求メラレタルコトニ依リ、貴君ニ御依頼スルコトヲ最モ適当ト考ヘマシタガ、貴君ハ十三会ニ縁遠キ生活ヲ続ケラレタコトヲ回想シテ御気ノ毒ニ存ジマシタ。併シ予想ノ如ク労ヲ惜マズ綿密ニ御調ベ被下シコトヲ深ク感謝シマス。実ハ東京ニモ頼ムベキ人ハ無ク、有リテモ多忙ノ人ノミカト存ジマス。然ルニ其後大谷氏ヨリ昨年ノ忘年会ノ写真ヲ一葉別ニ送ラレマシタ。顔ガ大分大キク写リ、ワカリ易ク東京在住ノ人ハ大抵知ラレマス。双方ノ写真ヲ比較シテモ不明ノ分ハアキラメマス。同級ノ人トテモ互ニ見分ケ難キ位ノモノナレバ致方アリマセン。ヨク見ルト写真デハ既ニ古色蒼然タル人ノ有ルノモ意外デス。マダ五十幾歳デスカラ写真ノ出来按排デ、カク見ヘルノデショウガ、世故ヲ歴レバ苦労モ有ルベク、孫ノ有ル頃トモナレバ古ク見ヘルガ当然カモ知レマセン。昨日ハ昔小樽ノ官舎ニテヨク碁ヲ打チシ川谷氏ガ大分カラ上京シマシタノデ、久振リニ打チマシタガ互ニ昔ニ変ラズト結論シテ別レマシタ。当時道銀ニ居タ人デス。十五日ノ碁会ニテ昇段シタノハヨケレド天候ト同様、気分引続キ晴レズ金婚祝賀ノ世話人方並ニ碁会ノ有志者草野二段ヘ御礼ニ行カント思ヒツツマダ出カケマセン。別ニ病気デアリマセン胃腸ガ重ク活動ガ鈍イ程度デスガ、老体ノ悲シサ活発ナ散歩モセズ、グズグズシテマス。

取リ」とあるは意味深重であって、帰路熱海駅で奥方からお招きを受けたのであるが、事情あって御好意に添い得ずお別れして帰郷した次第であった。しかもこの年奥方が忽然として御逝去遊ばされ、熱海駅のお別れが最期になろうとは、運命のいたずらというものであろうか、実に感無量である。

五月十七日付お端書で御照会のあった緑丘十三会記念写真と名簿との照合のこと、土浦に住む人とは小野尚志君であること、早々に御引取りとあった事由については特に詳細にお知らせしたるに対しての御返書である。十三会に縁遠き生活とあるは、小樽在住三十年の私には中央との交渉が少なかったこと。

一一九、冨永政資 宛

埼玉県大和局区内白子一三五七　　（端書　五月二七日）

拝啓（前略）金婚祝賀以来四月腸ノ関係カ引続キ気分ガ重ク何事ニモ大儀デス。一昨日ト昨日ト天気ヨク散歩シマシタガ気ハ晴レマセン、明日ハ歌舞伎座ヘ観劇ニ行キマス招待券ヲ貰ヒマシタ。久振ノ外出デ気ガ散レバ幸デス。旧友二人来訪シマシタ。一人ハ沼津カラ、一人ハ大分カラデス。大分ノ老人ハ歯ガ一本モナイノニ義歯モセズ滑稽デスガ元気ハ大変デス。三里四里ハ平気デス。義理堅ク、多クノ知人ヲ歴訪スルラシイ、元日銀ニ居マシタノデ来年満八十才ニナルト日銀ノ旧友ガ鳩杖ヲ呉レルソウデス。之ガ旧例デス「サテ貴宅ノ池ニ姫ますヲ飼フノハ面白イガ池ガ小サクテ本物ノ養魚ハ出来ヌト思ヒマス。其上鱒ハ餌ニイヤシク、イクラデモ釣レマスカラ用心シナイト盗マレマショ。越後ノ農家ノ生活ハ田舎ノ事デスカラ小生ハ格別不思議ニ思ヒマセン。山奥ノ農家ノ生活ヲ都会人ノ眼デ見ルノハ無理デス民主々義ナド東京デモ行ハレテマセン。柿ノ花ノ落チルノモ自然デス。アノ花ガ皆実ニナレバ多過ギマス。落チ易イカラ沢山花ガツクノデス。凡テ果樹ハ実ガ多クテハ上等ハ出来マセン。素人ハ数ヲナラセテ惜ムカラダメデス。玄人ハムシロ間引キマス。上等ノ実デモ、アマリ沢山ナラセルト木ノ力ガ衰ヘテ跡ニ差支ヘマス。野菜モ同様デス面積ヲ広ク苗ヲ少クスレバヨキ野菜ガ取レマス。当方ノ柿ノ木ハ花ガ二ツカ三ツシカ見ヘマセン。富有柿ラシイガ此柿ハ上等種デスカラ養成ガ面倒デス。ムシロ在来種ノ大実ノモノガ宜シイト考ヘテマス。庭ニハ小生全ク手ヲ出サズ嫁ノ世界デス今年ハばらニ力ヲ入レテマスガ、全面ノ草花デ余地ハ少シモアリマセン。アマリ込ンデハ草花デモ駄目ト思ヒナガラ眺メテ居マス。（中略）

当方デハ老妻ガ夏羽織ヲ新調シマシタ。祝賀会ノ着物ガ一号羽織ガ二号デス。安クアリマセンガ訪問スレバ必要ニナリマスカラ仕方アリマセン。孫娘モ数ヘ年二十ニナリマスカラ衣類ヲホシクナリマス。精々用意ヲシテヤラネバナリマセン。伊東ニ良イ師匠ガ有リマシタカラ長唄ヲ習ハセテマシタ。祝賀会ニ柳瀬君等ト共ニ唱ハセテモ宜シカツタト申シテルノデス。割合ニ別嬪ダト申シテマスガ、孫ノ事トテヒーキ眼デモナサソウデス。中々大ガラノ女デス。成長振ノ早イノニ驚キマス。立教大学生デスガ仲間ノ衣類ヲ見ルトヤハリ羨シクナリホシクナルモノト見ヘマスガ無理モナイ事デス。

一二〇、服部兵吾 宛

名古屋市中川区花池町二ノ五六

（端書　五月二七日）

東京都大田区田園調布二ノ四〇発

拝啓、写真ノ顔振レヲ大谷氏ヨリ知ラシテ呉レマシタノデ、貴君ノ分ノ誤ヲ訂正シマス。右ノ方門間君ト松川君ノ間ニ西尾清一君ヲ久保田トセラレシハ誤リデス。左ノ方ニテ蓮田君ト古関君ノ間高浜年尾ト指サレシハ、即久保田君デス。ソシテ松永君ト示サレシガ即高浜君デス。松永君ト小林才一郎両君ハ写真ニ間ニ合ハズ、其中ニ居リマセン。貴君ノ迷ハ此事実ヲ知ラザルニ因リテ生ジタト思ヒマス。尚、アルバム番号ヲ丁寧ニ御記載ニナリシハ何ノ為メカト思ヒ不審デシタガ、小生ガアルバムヲ所持セザルコトヲ御存知ナキ為メナリト知リマシタ。以上

小涌園における十三会の記念写真と名簿との照合につきお知らせした中に、私の誤があったことを訂正して反対に御報知下さったものである。

一二一、越崎清二 宛

小樽市緑町三ノ四

（端書　六月二日）

拝啓、此度ハ忙ガシ旅程ノ中ヲ態々御来訪珍ラシキ御土産マデ頂戴仕リ誠ニ難有御礼申上マス。久振リニ対面スルト話題ガ多クシテ意中ヲ尽スコト能ハズ、主客共ニ我ヲ忘レテ多舌トナリマスガ、対象ガ多クテ何ヲ話シタカ跡デ考ヘルト内容ガ空疎ナリシコトヲ覚ヘマス。但貴君ガ漢詩ヲ好マルヽトハ甚ダ意外デシタ。小生ハ四高在校中、木蘇岐山ト云ウ詩人ニ学ビ、一日一句ヲ日課トシ家郷ヨリ送ラルヽ学資ヲ節シテ詩集ヲ買ヒ集メマシタ。当時京都ノ五車楼ト云ウ書肆ガ支那ノ書ヲ輸入シテマシタノデ、大部分ハ支那版デシタ。柳行李ニ一杯アリマシタ。皆焼カレマシタガ、今ナラバ耽読シテ老ヲ忘レルコトモ出来ルニト思ウト甚ダ残念デス。殊ニ王漁洋ノ精華訓纂ハ註釈ガ面白ク幾度モ繰リ返シ読ンダモノデス。又一詩人ハ頗ル多情多恨デシタガ、今モ記憶スル句ハ

珊瑚百尺珠千斛　誰換羅浮未嫁身

デ小樽デ宴会ノ席上美人ノ扇ナドニ書イタモノデス。此詩人ハ頗ル清新ノ気分ヲ有シテ居リマシタ。今ハ書物ヲ漁リ歩ク勇気モナク読書ノ気分ニモナレズ、俳句ノ一ツモ作レズ、時々禅書ヲ見テ文字外ノ思索ヲスル位ノモノデス。図ラズモ御来訪ヲ受ケテ昔ヲ想ヒ出シマシタ。戦争ハ矢張リ多クノ罪悪ヲ作リ恨事ヲ残シタモノデス。他日又御上京ノ節ハ是非御来駕下サイ。

切望

昭和十九年の早春、千鳥町にあったお宅を召集解除になった折始めてお訪ねしたのと、田園調布のご新宅をこの折訪問したのが、前にも後にも一回づつであった。奥様が逝かれ続いて先生も後を追われたご両人をご新宅の庭でカメラに収めた記念撮影は未だに私のアルバムに現存している。

一二二、板東虎市 宛

（端書　六月三日）

拝啓　御送付ノ書類一応読ミマシタ。酒ヲ止メタノハ甚ダ宜シイ。止メタト言フヨリ止ンダト云フベキカモ知レン。結果ハ同一デアル。其結果ニ到着スルマデノ事情ヤ心理ハ複雑デ有ルニ相違ナイガ、ソレハ追ッテ詮議スルマデノ事デス。唯酒ガ止メラレ又ハ飲ム量ガ減ジタト云フコトハ、独リ自己ヲ救フノミナラズ、周囲ノ者ヲモ救フノデアル。由来晩酌二合以上ヲ飲ム人ハえごいすとニナル。自己中心デ周囲ノ迷惑ヲ考ヘナイ。貧乏人ノ酒飲ミガ有合フ酒ヲ飲ミ尽シテ尚満足セズ、徳利ヲ振リテ「かかモウ一本」ト要求シ、子供ノ着テイル衣類マデモ質ニ入レテモ飲ムト云フ芝居ノ舞台ノ光景ハ即ソレデ有ル。恐ルベク、卑ムベク、笑フベク、嫌フベキデアル。貴君ハ中毒状態ニ至ラズ、眼ニアマル醜態ヲ現ゼズシテ止メルニ至リシハ実ニ賀スベキデアル。願クハ良家父トナリ、慰楽ヲ団欒ノ裏ニ求メンコトヲ。

酒をやめる動機その他を書いて、先生に御批評を求めた時の不取敢の御返事。その後何とも申されず、そのまま大形の封筒で送り返されました。

一二三、小貫武 宛

（端書　六月四日）

拝啓　イツモクサグサノ御好情ヲ受ケテ居リマス上ニ、此度ハ又祝賀会ニ並々ナラヌ御配慮ト御尽力ヲ賜ハリ恐縮至極デス。先日モ遠路御来宅、記念ノ品々御持タセ下サレ難有存ジマス。早速態々罷出、御礼申スベキ筈デシタガ、老ノ疎懶ニテ其義ニ及バズ、相済マザルコト、存ジ居リマス。老妻ガ見兼ネテ嫁ト打合セ、周囲ノ意見モ聞キ合セ粗品送ラセン為メトテ、先刻打揃ヒ出カケマシタ。何レ粗末ノ品デスガ、着ノ上御笑納下サレ度、小生ハ又別ニ御礼ニ参上致シマス。昨今漸ク快気ヲ覚ヘマスノデ喜ビ且安心ヲ覚エマス。不取敢右ノミ御案内申上マス。

頓首

頂戴致したものを忘却してしまって、何んとも何んとも申訳けなし。

一二四、冨永政資 宛

埼玉県大和局区内白子一三五七

（端書　六月一六日）

拝啓　六月モ半ヲ過ギマシタ、雨ニ降リ込メラレ寒イト云フ内ニ暑サガ近ヅキ既ニ俄カ雨ガ

来ル様ニナリマシタ、祝賀会ノ礼ニ柳瀬君ヲ昇段ノ礼ニ草野君ヲ訪フツモリガ、マダ果セマセン。十日会ダケ出マシタ。木村善太郎氏ガ出席シマシタ。併シ会員ノ中デ氏ヲ識ル者ハ少ク第四寄宿舎ノ人ハ尚少ク、少シ手持無沙汰ノ様デシタ。時代ハ変リ卒業生モ若ク新シイノガ出テ来マスカラ止ムヲ得マセン。其上氏ハ文科デ高校ノ校長ヲシテマシタカラ膚合モ違フ様ニナツテマス。小生ハ十日会デ新旧卒業生ト断ヘズ連絡ヲ保ツテマスガ、若手トハ次第ニ縁ガ薄クナリ行キマス。殊ニ大学ニナリテ後ノ者ニハ別時代ノ人トナリマス。祝賀会アタリガ最高潮デ有ツタト思フベキデス。然ルニ祝賀会ノ後既ニ二人ノ人材ガ逝去シマシタ。三菱ノ林原君トフエルトノ秋山君デス共ニ脳溢血デス気ノ毒デナリマセン。信州松本ノ長谷川氏ハ昨年十二月自転車カラ落チテ肩ヲ破損シ其後ハ歩行勝手悪ク通勤ニ自動車ヲ雇フ由デス。血圧ガ高クテ其ノ為メ自転車カラコロンダノデナイカト申シヤリマシタラ、然ラズ確カニ自転車ガ破損シテ落チタトノ返事デスガ小生ハ尚疑ツテマス。氏モ既ニ七十四歳デスカラ用心スベキデ有ツタト思ヒマス。苫米地、武田両氏モ同年デス。苫米地氏ハ政治家ナル故元気デスガ、今一回ノ選挙ヲ経レバ最後ナラント思ヒマス孫娘モ数年二十才デ大キクナリマシタ洋服ノ一着モ新調シテヤリ度イト思ヒマス。和服ナラ膚着カラ入用デスカラ一着弐万円ヲ要シマス。老妻ハ戦後着物一枚、帯一筋、先般ハ夏ノ羽織ヲ買ヒマシタ。無イノダカラ仕方ガ有リマセンガ冬ノ羽織モ必要デス。訪問慶弔ノ際必要デスカラ一通リ入用ニナリマス小生トテモ平常服ハ矢張リ絹ノ軽イノデナイトタマリマセン。ボツボツ仕入レナケレバナリマセン。食慾ハ矢張リ進ミマセン。戦争ガスンダラ粟善哉ヲト思ヒツヽマダ行キマセン。柳瀬君等ニハ御馳走ヲスルコトヲ考ヘマスケレドモ小生ニ食慾ガナイカラ実行出来マセン。

一二五、板東虎市　宛

（封書　六月一六日、一五日夜）

端書二通拝見シマシタ。第一ハ貴君ノ立場ト所信ノ単純ナル表明ニ過ギマセンカラ何モ言フコト有リマセン。第二ノ浅草朝飯会ハ面白イ。僕モ一度行ッテ見タイト思ヒマス。信仰ナンテ殊勝ナ考ヘデナクテ宜シイカラ続ケテ行ッテ御覧ナサイ。東京ニハ観音さま信仰ノ人ガ多イガ竹村夫婦モ信仰家デスカ。浅草寺ハ真言宗デスカ天台宗カ知リマセンガ、竹村君ノ家ノ宗旨カ

この頃は朝早く起きて神社かお寺へ行き、参拝したり坊さんをつかまえて語るのが道楽になっていた。偶々竹村が夏冬通して毎月十三日の午前七時から浅草寺で朝詣会をやっていると聞き、一日位何

モ知レント思ヒマス。大僧正ニ平蜘蛛ノ如クニ拝礼スルノハ、信仰シテルカラデショウ。夫婦揃ッテノ信仰ハ尚宜シイ。竹村君ノ人間ニモ行動ニモ奥ガ有ル様ニ思ハレマス。貴君モ其雰囲気ニ親シンデ見ルガヨイト思ヒマス。信仰ナド中々出来マセンガ信仰者ノ気分ヲ見ルノデス。浅深厚薄ト種々アリマス。殊ニ現世幸福ヲ祈ルノハ最モ低級デ利己的デ迷信的デス。江戸ノ信者ハ此流ノ人ガ多イガ相手ガ観音様トナルト敬虔ノ態度デ真面目ニナルカラ、其点ハ正当ノ信者ニ近クナリマス。大僧正ガ如何ナル人カ知リマセンガ、其言葉ニハ傾聴スベキモノガ有リマショウ。其人ノ学問、修養、私行ハ別トシテ其話ヲ聞クノデス。信者ハ観音様ノ代理人トシテ尊敬スルノカモ知レマセン。兎ニ角貴君ニハ新シキ世界デス。禅宗ノ坊サンノ話ハ垢抜ケガシテ面白ク愉快ダト聞イテマス。今日ノ僧侶ハ仕事ガ多クテ修行ニ専念スルコトガ出来マセン。俗労ガ多ク寺ノ維持ノ為メニ収入ヲ計ラネバナリマセンノハ気ノ毒デス。エライカドウカ軽々シク批評シテハナリマセン。僕ト比較スルノハ御免デス。世界ガチガイマス。併シ菩薩行ハ立派ナモノデス。人間ノ考ヘ得ル最上ノモノデス。理念トシテ大ニ尊ブベキモノデス。大僧正ハ「有言実行ハ宝ナリ、菩薩デアル」ト言ヒマシタカ。如何ナル意味カ小生ハ解シカネマス。菩薩ハ理屈ハ言ヒマセン。人ヲ慰メ救ヒマスガ、ソンナ考ハ持タズニ助ケ救ウモノダト思ヒマス。

でもないと言って行ったのが、坊さんと接触する機会となり、その後、深入りすることになった。これが仏縁か。このいきさつを先生にお知らせした時の御返事である。

一二六、冨永政資宛

埼玉県大和局区内白子一三五七

（端書　六月二七日）

拝復　新潟往復ハ御苦労デスガ終局ノ結果ガ良好ナランコトヲ祈リマス。坂東氏ノ著作熱ニハ参リマス。千ヤ二千部ヲ売リ払フ位ノコトハ手ノ内ニ在リト豪語シテマス先般草稿ヲ送ッテ来マシタ。前年歌集ヲ出版シタトキ小生ハ跋ヲ頼マレテ弱リマシタ。勿論賞讃ハ出来ズ、糞味噌ニモ言ヘズ当リサワリナキ文字ヲ連ネマシタガ、名文ヲ作ルヨリモ骨ガ折レマシタ。今度ハ前ニコリテルカラ無関係ニシマス。彼ノ熱心サト努力ハ大変デス尋常ノ人ノ出来ナイコトデス。（中略）

金婚祝賀以来小生ハ引続キ元気ナク柳瀬君等ヘ挨拶ニモマダ行キマセン。最近風ヲ引キマシタ。今朝来風モ胃腸モ宜シキ様ニ思ヒマスガ三四日デ六月ハ過ギ去リマス晴天ニナレバ暑クテ

モ元気ニナルト信ジマス。先日珍ラシクモ九州カラ知人ガ上京シ来訪シマシタノデ碁ヲ打チマシタ。小樽以来二十年振リデス。其結果双方トモ昔ト変リナシ進歩モセズ退歩モセズト判断シ大笑ヒシテ別レマシタ。小生ハ愈二段ニナリマシタガ実質ハ同ジデレツテルガ立派ニナツタニ過ギマセン。木村善太郎氏モ上京シ十日会ニ出マシタノデ逢ヒマシタ。昔ノ同僚デ且親シクシテ居タノデスカラ打トケタ話ヲシ度ク思ヒマシタガ其意ヲ得マセンデシタ。卒業生ノ或者殊ニ第四寄宿舎ノ人達トハ面会シテ居ル様デシタガ、妙ニ言葉少ク一寸四角張ツテマシタノガ意外デシタ、尤モ十日会デハ顔モ知ラナイ人ガ多数デス。

祝賀会ノ後間モナク林原君ト十一年ノ秋山君ガ共ニ溢血デ仆レマシタ。他ニ同病ニテ臥ス人モアリマス。溢血ノ人ハ字ガ妙ニナリマス。松本ノ長谷川氏モ其疑ガ有リマス。当人ハ否定シテマス。事実ハ去年十二月初自転車カラ落チテ肩ニ怪我ヲシマシタ。怪我ハ治シタガ爾来字ガ書ケヌト当人ハ言ヒマス。小生ハ溢血ノ気味アリシ為メ自転車カラ落チタノダ、字ガ書ケナイノガ其証拠ダト思フノデス。数人ノ通信ニ依リテ字デ判断スルコトヲ知リマシタ。木村氏ノ二男ト三男ハ大学ヲ出テ結婚シ東京ニ居ルト思ヒマス。其学資金ニ木村氏ハ苦労シタラシイ。三男ハ直ニ入学出来テ和田博雄ノ世話ニナリ、二男ハ入学ガオクレテ苦学シテマシタ。木村氏自身ハ腎臓結石デ苦シンダノデス。今ハ恩給モ増加シ生活ハ楽ナ筈デスガ病気ヤ何カデ快活ニナレヌラシイ。先夫人ニ死別シ今ノ夫人ハ再婚シ子ハ男女四人皆其腹デスガ此夫人ハ昔教師ヲシテイタ人ト云フコトデス。

一二七、田辺新一　宛

（暑中見舞官製絵葉書　七月四日）

拝啓　久敷御無沙汰ニ打過ギマシタガ、御健勝ト存ジ賀上マス。東京ハ此二、三日漸ク日ノ目ヲ見ルニ至リ、梅雨モ終リニ近イト思ヒマス。小生ハ四月八日ニ盛大ナル金婚祝賀会ヲ催シテモライマシタガ、其後ハ雨ニ閉籠メラレ、散歩ヲ試ミマスト脚ガ重クテ動カナクナリマシタ。夏中練習ヲ続ケネバナラヌト考ヘテマス。伴ガ先日北海道ノ出張ヲスマセテ帰リ、イロイロ見聞ヲ伝エマシタ。御令息ノ件モ兼テ噂ヲ承ハリ居リマシタガ漸ク其概況ヲ知リマシタ。要スルニ好漢客気ニ走レリ、ト称スベキモノト存ジマス。前途ノ短カキ老人ハ平安ヲ望ミマスガ

時勢斯ノ如ク無事安穏ヲ許サヌモノト観ズベキデス。武家ノ末孫トシテ維新以来幾多ノ変迁ヲ経験サレシコトヽ存ジマス。農家ニ生レシ小生ハ農地法ニ依リ地主ガ昔ノ士ノ地位ニ立ツコトヲ知リマシタ。郷里ニハ旧知旧友全ク絶ヘテ消息ヲ通ジ難キニ至リ、頗ル心淋シク存ジマス。大学ノ同窓モ残リ少クナリ、消息モ有リマセン中ニ小原法相ガ返リ咲キヲシマシタ。珍ラシク大ニ賀シマス。明後六日金沢四高ノ残党ガステーションホテルニ集リマス。何人集マルカ疑問デス。到底十指ヲ屈スルコトハ出来マセン。血圧ノ為メ出席不能ノ人モ居リマス。寥々晨星ノ如シ、ト云フ句ヲ思ヒ当リマス。御健康ヲ祈リマス。

一二八、小貫武　宛

（日本航空絵葉書　七月二一日夕）

拝啓　御礼ヲ申スベキコトガ次々ト重ナリテ遅クナリマシタ。

先般ハ奥様態々遠方ヲ御来宅ニテ数々御持参被下、恐縮至極デス。漬物ハ丁度頃合デ甚ダ美味デシタ。一家久振リニテ賞美シマシタ。茶ガ本物ノ精良品デ近年ニハ見タコト有リマセン。納豆ト共ニ主トシテ老人共ガ楽シミテ頂キ居リマス。乍延引厚ク御礼申上マス。碁会ニモ、又昨日モ送迎ノ御世話ニ相成難有存ジマス。老人ノ為メイツモ細心ノ御注意ヲ下サレ感謝ノ至デス。椿ノ御馳走ハ凡テ喉ヲ通リ過ギマシタ。亭主自慢ノ技倆ニテ淡泊ニ仕上ル為メデスガ、アマリ滑カニ通過スルノデ充分ニ味フコト出来ナンダ様ナ気ガシマス。アレデモ天ぷらカト思フノモ田舎ノ味ノミヨリ知ラヌ老人ノ話デス。

漬物は信州の野沢菜の漬物。茶は静岡の新茶。椿とは椿山荘でのという意味。

一二九、冨永政資　宛

（端書　七月二二日）

埼玉県大和局区内白子一三五七

拝啓　天候モ今日ノ様子デハ愈本物トナリマシタ。米作ノ為メニ炎天ヲ祈ラザルヲ得マセン。併シ同時ニ暑気ヲ忍バネバナリマセン。四月以来梅雨ト不快ノ為メニ外出シマセンノデ用事モ多少タマリマシタカラ一二ケ所訪問セネバナリマセン。其間ニモ十七日ハ碁会デシタ例ニ依リテ特別賞ヲ貰ヒマシタ。廿日ニハ天ぷらノ御馳走ニナリマシタ。第一流ノ店デスカラ食品

ハ勿論設備マデ行キ届イタモノデス。老妻ハ驚イテマシタ。此頃小生ハ食事ニ付キ一ツノ覚悟ヲシテマス。ソレハ老年ニ及ビ前途ハ短カキ故珍味ノ御馳走ハ生涯ノ想ヒ出ニ充分ニ味ヒ置クト云フコトデス。一回ノ相沢君ガあんこうノ珍料理ヲ送リ呉レマシタトキ、此料理ハ生レテ最初デシタガ同時ニ之ヲ最後ト定メマシタ。鰻モ十日会ノ料理ニ満足シマシタ。天ぷらハ鰻ヨリモ機会ガ少ナイカラ今度ノ御馳走ヲ最後トシテ遺憾ナキ様ニ充分ニ味フ為メ胃腸ノ加減ヲモ調節シテ出カケ、為メニ沢山食フコトガ出来マシタガ、肝心ノ御馳走ガ速カニ喉元ヲ通リ過ギルノデ充分ニ玩味スルコトガ出来マセンデシタ。之ニハ困リマシタ、流石ニ有名店ハ材料ハ勿論揚ゲ方マデ研究シテアル故淡泊ニ出来上リ天ぷらト思ハレヌ様デ只ツルツルト胃ノ方ヘ流レ込ムノデス。流石ニ東京ト感心シマシタ。実ハマダ此外ニ一二ノ人カラ御馳走ノ約束ヲ受ケテマス。晴天ニナレバ実行サレルデショウガ、近頃ハアマリ人々ノ好意ヲ受ケルコトヲ心苦シク思フ気分ガシテナリマセン。先生先生ト言ハレルノハ嬉シイガ、調子ニ乗リテ我ヲ忘レルノハ宜シクナイソレ等ノ点ニ付キ抑制力ガ衰ヘタ様ナノハ耄碌ノ兆トモ思ハレマス。近来ハ端書ノ文句モ文字モダラシナクナリマシタ。耄碌ノ兆候歴然タリトスレバ用心セネバナリマセン。耄碌ガ公認トナレバ却テ気楽デスガ、自分デ意識シナイト物笑ニナリマス端書ヲ取出シテモ文句ガ順序ヨク出テ来マセン。シカシ此字ノ様子デハ脳溢血ノ心配ハ有リマセン。血圧ノ高キ人ハ一種ノ字ノ書キ方ヲシマス数人ノ人ノ端書ニテ之ヲ知リマシタ。妙ナ経験ヲシタモノデス。前回ノ端書ニ依ルト松山ハ多クノ人物ヲ出シテマスネ、虚子、草田男ナドハ子規ノ流ヲ汲ミタリト思ヒマスガ子規以前ニモ俳句、和歌ナドノ源流ガ流レテ居ツタノデスカ、軍人ノ多キコトハ聞イテマシタガ実業界ヤ政界ニモ相当ノ人ガ出テマスカ。子規ノ叔父ニ外交官ガ有リマシタネ察スルニ松山ハ富有地ニ非ズ従テ人物ハ他国ニ飛ビ出シテ身ヲ立テルモノト思ハレマス。

一三〇、越崎清二　宛

小樽市緑町三ノ四

（端書　八月一八日）

拝啓　イツモ御機嫌宜シキコト、存ジマス。東京ハ至極酷シキ暑サガ過ギテ稍涼シクナリ一息シテマスガ、其内ニ又寒サト云ウ難関ガ参リマス。寒サ暑サノ関一ツ一ツガ生死ノ問題デス。何レカト申セバ夏ノ方ガ凌ギ易イト思ヒマス。厚着ヤ炬燵デ冬ヲ過スト散歩モ大儀ニナル

次第デス。併シ八十二才稀有ノ老人ニナルマデ生キ延ビタコトニ満足シテ居リマス夫レ以上ハ天ニ任セマス。只生キテ居ル限リハ愉快ニ楽ンデ暮ラシタイト念ジマス。以上老人ガ出マカセニ書キマシタガ口上ガ長スギマシタ。本当ハ北海道ノ初秋ヲ礼讃スルツモリデシタ。夫レモ食物カラノ連想デス。キビガ街頭デ香気ヲ風ニ漂ハセテ居ルコト、ヤガテハ枝豆ガ机上ニ出ル頃、サテハ落葉松ノキノコ、シメジナドモ中々ノ風味デス。大根、キウリ、キャベツナド何レモ東京デハ思ヒモ及バヌモノデスガ、北海道ヲ離レテハ全ク味モ落チマス。其土地ニ居テ食ウニ限リマス。早春ノ天狗山ノワラビモ中々ノ珍デスガ、持参シテ呉レタ品デハ本当ノ味ガ有リマセン。小生ハカボチャガ好キデス。蒸シタノモ味噌汁モ皆結構デス。ソレデ便宜ノ節送ッタリ持参シタリシテ貰ヒマシタガ悉ク希望ニ反シマシタ。ソレ故郷愁ハ愈湧クワケデス。尤モ茄子ニハ京ノ丸ナスヲ思ヒ、又冬ニハ伏見ノ水菜ヲ思ヒマス。皆東京デハ得ラレヌ味デス。伏見トウガラシハ人間ノ指ノ如キ形デ辛味ガ強クアリマセン。世間デハ深草トウガラシト称シマス。之モ愛好品デス。

米ノ大豊作ハ其後ノ天候ノ経過デ益々確実トナリマシタ。幾億ノ天恵デスガ、此恩義ガ如何ナル方面ヘ如何ニ実現スルカハ政治ノヤリ方デキマルノデショウ。国民ノ心ハ豊作ノ声デ明カニナリマシタ。株モ活発ニ動キ始メマシタ。ソレハ兎ニ角見渡スカギリ稲ノ穂ガ色ヅキタル景色ハ何トモ云ヘヌ美観デス。祖母ハ之ヲ枇杷色ト称シマシタ。何トモ豊カナ心持ガシマス。昔ハ農民ハ新米ノ俵ヲ多ク庭ニ積ミテ眺メルダケデ満足シ歓喜シマシタ。鼓腹撃壤帝力何有ト申シタノハ満足ノ極デシタ。今年ハ買上価格モヨシ農村方面ハ自然ニ楽天的気分ガ出ルト思ヒマス。併シ為政者ハ次ノ年ノ凶作ヲ考ウベキデショウ。

一三一、田辺新一　宛

小樽市富岡町二ノ三九

（端書　九月二二日）

拝啓　去廿日愈満八十才ニ達シマシタ。一足オ先キニト申ス所デスガ、其足元ガ近頃少シ怪シクナリマシタ。歩行ニ悩ミ、近距離ノミデスカラ、練習ニ依リ回復セント努力シマスト腰マデ痛クナリマス。機関ノ故障デスカラ、老体ナレバ已ムヲ得ザルモノトアキラメネバナリマセン。脚ニ委セテ四方ヲ見ルコトモ意ニ委セナクナリマシタ。偶々一卒業生ノ社長サンガ静岡県

昭和二十四年大学昇格の際ご来道になられた折、銭函町豊足神社の宮司であられた稲垣氏（先生が小樽ご赴任の折下宿をされた）既に他界され先生ご推奨の名按摩手池田氏のご遺族の動静とて知るよすがもない。学外のひとびとにも先生のご関心に強いものがあった。

ノ工場ヲ巡視スルニ付、老夫婦ヲ乗セ箱根越ニテ興津辺ノ景色頗ル宜シキ別館ニ案内シ一泊ヲ供スルトノ申出ヲ受ケ、好意難有シ、ト此快挙ヲ諾シマシタ。之モ卒業生デ米国在住二十年、戦争中モ彼地ニ在リシ人ノ夫婦モ同道デスカラ便宜ト存ジマス。

寺田氏ノ玄関ノ衝立ニ烈士暮年壮心不止、ト書イテアリマシタ。左程ノ志気ハ有リマセンガ横臥シテノミ居ルコトモ出来マセン。近頃ニ眼ニ翳ノ様ナモノガ出テ変デス。渡辺兵老モ金子老モ長イ杖ヲ用ヒマシタ。小生モ丈夫ナル杖ヲ得テ使用スル考ヘデス。

大正元年ノ冬、河原邸ニテ貴下ノかん高キ声ヲ聞キマシタノガ、世ニ田辺氏アルコトヲ知リシ初デス。当時小生三十九才デシタカラ、四十余年ノ昔トナリ、河原・寺田・渡辺・金子ノ諸子皆既ニ世ヲ去リマシタ。感無量デスガ、人世ノ姿ハコンナモノデショウ。岡崎氏ハ健在ト思ハレマスガ、当年ノ意気ハ衰エタデショ。

近頃ハ珍味ニ接シマストキハ食ヒ収メト思ヒ、充分ニ玩味スルコトニ定メテマス。遺憾ナガラ入歯ノ為メ、味覚充分デナイコトモ有リマス。茶ノミハ朝夕ノ友デ、就中玉露ハ舌頭ニ留メテ、香気ト風味トヲ賞シテ飽クコトヲ知ラズデス。貴邸訪問ノ時ノ茶ノ味ハ今モ忘レマセン。

大正十年ニ卒業シタ連中ノ元気者ガ、来年七月ヲ期シ小樽ニ集マル計劃ヲ立テ、檄ヲ全国ニ飛バス由ヲ聞キマシタ。会場ハ銀鱗荘ノ由デス。一面開陽亭ガ廃業シタト伝ヘマス。場所ト規模トニ於テ時世ニ適セザルニ至リ、客筋モ変リシモノト思ワレマス。戦争ハ大変革ヲモタラシ、小生モ一時大ニ困リマシテ、維新当時ノ武士ノ運命ト考ヘ合セタコトデシタガ、今後ノ変化モ測知ルコトガ出来マセン。今ノ政治モ話ニナリマセン。自由党モ人気ヲ失ヒマシタガ改進党モダラシナク、社会党ノ行動ニハ国家モ経済モ眼中ニナク、唯悪語ヲ放ツノミデ有リマセンカ。天下何レニ定マラン哉、ト呼ビタクナリマス。

一三二、小貫武宛

（端書　一〇月一日）

拝啓　登別ヨリ御差立ノ珍菓、只今到着仕リマシタ。清閑ヲ娯ム老翁ニハ茶友トシテ誠ニ好適ノ品デアリマス。老婦ト共ニ早速一顆ヲ試ミマシタ。御好意又更ニ難有、厚ク御礼ヲ申上マス。無事御帰着ノ事本来当然デ有リマスガ、意外ノ椿事ノ為メ讃岐君始メ周辺ニハ命拾ヒノ声

これは私の運命の決した日の記録です。親友小西征夫君が船なら洞爺丸にしかず、といふのでその積りでおったところ、女房がこの際十和田湖廻りを切望したので、たまには御機嫌伺いと、日数を一日変更したのが今日の陽を見る結果となりました。一寸した先生への心遣いが、かゝる結果を招きますとはね、ありがたし先生の御遺徳!!

高ク、祝宴ノ催ニ忙殺サレ居ラルルカト存ジマス。大正十五年頃ノ野崎和夫君ト、昭和二十三年頃ノ佐藤彰一、二君ノ名ヲ新聞紙上ニ認メ生死尚不明ニテ心配仕リマス。野崎君ハ道庁勤務ノ人、公用上京ノ為メ、佐藤君ハ勧銀ノ人ラシク之モ行用ノ途中カト思ワレマス。遭難者ハ勿論デスガ、船長始メ乗組ノ責任者ノ意中モ推測ラレテ気ノ毒至極ニ存ジマス。御令夫人様ヘモ宜敷願上マス。老婦ヨリモ御礼申出居リマス。

一三三、板倉誠宛

（端書　一〇月一八日）

御端書只今拝見致シマシタ。御申越ノ原稿トイフモノハアリマセン。昔カラ小生ハ原稿ヲ作ッタコトハ殆ンド有リマセン。校長ノ職ニ在リシ時代ノ式辞ナドモ卒業式ヲ除イテハイツモ其場ノ感想ヲ述ベルノミデシタ。ソノ代リ真実ヲ心一杯ニ述ベルコトニ定メテ居リマシタ。真情流露ガ唯一ノ主眼デス。当夜述ベタコトヲ思ヒ復シテ書クヨリ外有リマセンガ、明十九日来訪※ノ客有リ、二十一日戸井正三君上京ノ報アリ、廿二日ハ一回諸君ノ会ニ出席ノ約束アリ、埼玉方面ヘ一、二泊デ行ク約束モ兼テシテアリマスノデ急ニハ間ニ合ヒマセン御承知下サイ。

此度ノ祝賀ハ勿論、十日会ノタメイツモ御骨折ノ事推察シテ居リマス。十日会ノ御影デ多数ノ人々ニ会フコトモ出来、私ノ晩年ノ生活ガ賑カデ且快適ニナリマス。其上昨年ノ旅行ニ引続キ、今度ノ御祝デ誠ニ難有感謝致シ居リマス。今後ハ出席ノ度毎ニ小生ノ長寿ノ祝ヲシテ貰ヒ居ル気デ出度イト思ヒ居リマス。併シ図ニノリ調子ニノリ御好意ニ甘ヘスギテハナリマセン。今時期トシ此際反省シテ老人ラシク今後ノ月日ヲ過ス様ニ心掛ケ度イト望ミ居リマス。御返事旁々平生ノ御礼ヲ申上マス。御含ミ置キ願ヒマス。

一三四、寺田弥一郎宛

（封書　一〇月二〇日）

拝啓　秋深クナリマシタ（中略）小生ハ先月二十日ニテ満八十才ニ達シマシタ。過去ヲ思ヒ昔ヲナツカシム日ガ多イデス。毎年十一月三日ハ観楓ト定メテ単身栂尾ニ行キマシタ。中学時

※第一回生卒業の会、

代デス。其時代ニ誘ハレテ俄ニ茸狩ニ行シコトガアリマス。場所ハ銀閣寺方面若王寺ノ後デシタ。三人ガ五十銭ヅツ出シ合ヒ一円五十銭デ山ヲ買ヒマシタ。狭キ縄張リノ中デスガ其中ニ踊リ松茸ノ密生群ヲ発見シ、意外ノ獲物デ用意ノ風呂敷デハ足リマセン。時ニ年配ノ指揮者ノ発案デ各ズボン下ヲ脱ギ之ヲ入レ首ニカケテ帰リマシタ。ズボン下ハ堅縞ノ木綿チジミデ下部ヲ紐デシバル兵隊式ノモノデシタ。全ク臨機ノ妙案デ道デ逢フ人モ其思ヒ付キヲ賞メマシタ。当時ノ京都中学ハ府立ト称シテモ東本願寺ガ支持シテマシタカラ、生徒ハ半分坊主デ、諸国カラ集マリ年令モタケテマシタ。世故ニモ通ジテマシタ。小生ハ釜座近傍ノ寺ヲ間借シテ自炊シテマシタ。室代ハ月一円、米ハ自弁デ月二十五銭デ炊イテクレマシタ。土曜日ハ贅沢日デ牛肉デス。中肉三銭葱五厘デス。或日奮発シテ最上肉ヲ買ヒマシタ。余リウマイノデ大イニ食フタト見ヘテ忽チ肉ガ見ヘナクナリマシタ。小生ハ上肉ハ煮ルトトケルモノカト思ヒマシタ。五年生ノ頃ハ寺町丸太町ニ下宿シ、一日ト十五日ニハオヘコノ群ガ賑カニ通過スルノヲ二階カラ見下シマシタ。土曜ハ必ズ伏見ヘ帰リマシタ。九条カラ竹田口ノ街道ヲ通行シマス。川東ハ稀デシタ。或時鴨川ノ東岸ヲ下リ行キ祇園ハマダヨイガ、宮川町？ニハ驚キ、学校帽ヲ懐ニカクシ急歩、赤イ顔シテ通過シタノヲ今モ忘レマセン。途中五条デ饅頭一包二銭デ買ヘバ土産ニナリマシタ。京都デハきつねうどんガウマイデス。他国ヨリ慥ニウマイ、二銭カ二銭五厘デシタ。校長時代七条ノ駅ニテ狐うどん屋ヲ見ツケテ立食シマシタ。果シテ昔ノ味ヒデシタ。（後略）

一三五、冨永政資　宛

埼玉県大和局区内白子一三五七

（端書　一一月一四日）

拝復　天候一変小雨降リテ湿ツポクテ冷タイ。先日会アリ若イ人ニ手ヲ握ラレマシタ其手ノ暖カイコト小生ノ手ハ冷タクテ死人ノ如ク感ジタロウト思ヒマシタ。年令ハ情ナイガ仕方モナイ四回ノ上村君ガ米寿マデガンバル様ニト切ニ勧メテクレマシタ。小生モ今ハ命ヲ大切ニスル考デス。人間ノ命ナンカト死生ヲ軽視シタ時代モアリマシタガ兎モ角与ヘラレタ生命ハ大切ニスベキデス。坂東君ニ付キテハ大騒ギガアリマシタ。彼ガみどり会ヲ発起シテ若イ緑丘員ヲ集メルト云フノデ十日会ヤ緑丘会支部ニタテツクモノト思ヒ込ンダ人々ガ見ルト彼ノ言動ガ常規ヲ逸シテルト云フノデ二三ノ人ガ評議シ彼ヲ精神分裂ト定メ小生モ引パリ出サレマシタ。中ニハ彼ノ家ニ行キ夫人ニ告ゲタ人ガアリシト見ヘ夫人モ気チガヒ呼ハリヲシテ終ニ離縁沙汰トナツテシモタラシイ。一方彼ハ頭山満ヲ敬慕シ頭山式デ世ヲ渡ルト大ホラヲ吹キ廻ハリマス。先日来宅シテ小生ノ頭ノ上デ大声ニ何カ言ヒマシタガドナラレル様デ何モワカラナイ。為メニ其夜ハネラレマセンデシタ。

卒業生ニ非常ニ大切ニサレテ小生ハ実ニ果報者デス。初メハ不当利得ダト笑ツテマシタガ、此数年来受ケタ好意デモ大変デス。渡辺校長ヤ多数ノ先生達ノ尽力ノ結果モ皆小生一身ニ集マルノデス。小生ニシテハ全ク思ヒモヨラヌコトデスカラ只感謝シテマスガ、学校カラハ追々ト若イ人ガ年々出テ来マス。苦米地時代大野時代ト変リ行キマス。老人ガイツマデモヨイ気デ居ルト反動ガ来テ笑ハレタリ馬鹿ニサレル時期ガ来ナイトモ云ヘマセンカラ用心ハセネバナリマセン。第一今迄ノ好意ガ度ヲ過ギテマス、時期ヲ見テ社交ヲ絶チ本当ノ隠居ヲスベキ也ト考ヘテ居リマス。老妻半月ヲ経テ尚依然タリ医師モ頭ヲ傾ケテ今日ハレントゲンヲカケマシタ。今迄無理ヲサセマシタカラ今後ヲ喜バセヨウト思ツタ時デス。内心平癒ヲ祈ツテマス。

（端書　一一月二〇日）

拝復　老妻病気ハ肺炎ト一定シ注射奏功コ、数日ノ経過ニテ回復ニ向フモノトノ目算ガ立チ一安心デスガ数日前夜中俄ニ苦悩ヲ訴ヘ医師ヘ電話シマシタトキ老人狼狽シテ顚動シマシタ。浴衣一枚デ水ばなヲ垂ラシ、フルエテ居ル有様デス。医師ガ来リ注射シテ其夜ハ治マリマシタガ、此人ハ伴ノ友人、スキー仲間デ、野球ノ時ニハ家ニ来テ飯ヲ食ツタ人デス、結核ハナイカ癌ハト心配シ大家ヲ呼ンデ呉レト云フ、会社関係デ慶応ノ先生ガ見テ癌ハナシト云ヒ啖ノ検査デ菌ナキコトモワカリ、肺炎一筋ノ治療デス。其後病勢落着キ順調デス。貴君ノ如ク昼夜女房ノ世話スルコトモ出来ズ却テ我身ノ風邪ヲ心配セネバナリマセン。今迄一切ノ計劃ハ年ノ順ニテ小生ガ先キニ行クト云フ前提ニシテ後ニ残ル者ノ幸福ノ為メノ設計ノミデシタカラ万一ノ場合ハ順序転倒シテ始末ガワルイ、結核ハマダシモ癌デ急ニナリテハ後悔ヤラ残念ガアルバカリデス。老人ノ心、千々ニ乱レテ悩ミマシタ。回復ノ上ハ暖地ヘ行キ静養スルコトデスガ伊東ノ妹ノ家ヘ預ケルノガ最上ノ様デス。長生キ金婚ハ目出度ク結構デスガ両人共老衰スルト云フコ

この書信を頂いた翌月に御令室は逝去されたのである。爾後先生の書翰は悲しみに満ちたものが多くなり、我れ衰えたり、谷中に墓地を拵えた、死期迫るを予知す、など厭世的辞句を見受けるようになった。文中の京都中学が半ば坊主学校であったのは私も初めて知ったが、恐らく後の府立一中の前身ではあるまいかと考えられ、年代は明治憲法発布前後、即ち先生十七、八才の頃であろう。土曜日は伏見に帰るとあるは、御生家が京洛周辺地区の伏見向島中島村に在って、地理的に通学不便のため市内に下宿し、毎週一回徒歩で帰宅されたものらしい。因に京都市電は当時まだ敷設されていなかった。また文中随所に散見する明治中期の物価水準を参照するとき、現代の高物価と対比して隔世の感あり、明治は遠くなりにけりの感慨一入である。

トモ考ヘ合サネバナリマセン。頭ダケ妙ニ働クガ手足ハ感覚遅鈍、意気地ドコロカ気力全クアリマセン。藤原銀次郎ハ独身デスガ看護婦ヲ始メ心ノマヽニ侍女ヲ使ヒ万事金銭ヲ惜マズ何事ニモ心配ハナイダロウ、普通デハ何トモナリマセン。看護ニ人ヲ雇ヒ世話サセテマスノガ山々デス。高野未亡人ハ気ノ毒デス。本庄氏ガ泣クノモ尤デス元気ナ人デスネ。戦時中醍醐ト云フ人貴宅ヘヨク来テマシタ。コノ頃区会議員ニダイゴ久吉ト云フ人ガ居リマス。同一人デハナイデスカ、侠客式ノ人ラシイ様ニ思ハレマス」坂東ノ言ハイツモ法螺デカケ値ガ付イテマスカラ割引シテ聞ク必要ガアリマス。併シ其幾分ハ現ニ金ヲ儲ケテ使ツテ居ルノデスカラ全部ウソデハ有リマセン。法螺モ金モウケノ手段トシテ自覚シテモ居ルノデス。（後略）

一三七、冨永政資　宛

埼玉県大和局区内白子一三五七

（端書　一一月二五日）

重病ニ臥ス妻ノ看護ヲ人ニ委ネテ独リ夕食ヲ取ル。席ガ生憎洋服だんすニ向ヒ電燈ノ光ニ老ノヤツレタ顔ガ見ヘルニガツカリシタ処デス。着物モ足袋モ靴下ノ在リカモ知ラヌ身一ツハ奥様ノ様ニ世話ノデキル人ノ近処ニ住ミ度クナルノデナイカ。今ニ至リテ貯金モ証券モ何カセン。ダラン物ニ骨ヲ折リシカナ。試ニ感慨ヲ書イテ出シマス。

一三八、冨永政資　宛

埼玉県大和局区内白子一三五七

（端書　一二月五日）

拝啓　昨日ハ遠路態々御来訪被下又御手作ノ芋ト蕎麦粉ヲ御恵贈被リ難有存シマス。流石ニ芋ハ珍ラシク且美味デ有リマシテ重宝仕リマシタ。粉ハ今日昼食ニ用ヒマス故人ニ対スル追憶ノ念ト申スヨリハ死因ニ関シ無造作ニ死ナセタト云フ悔恨ノ念ガ解ケヤラズ談ガ其方ニ向キ又ハ考ガソレニ及ブト沈黙ニ陥リ易イノデ昨日モ大ニ失敬仕リマシタ。疲労モ加ハツテ居ルコト、思ヒマス。折角御訪ネ被下タル御好意ニ対シテモスマヌコト、思ヒ居リマス。何卒奥様ヘ宜敷御願申上マス。奥様ヘモ丁度時間ガ悪ク失礼仕リマシタ。

一三九、板東虎市　宛

（端書　一二月一六日）

謹啓　去ル十一月二十六日伴澄路、死去ノ節ハ御懇篤ナル御弔問ヲ賜リ、且ツ過分ノ御供物ヲ忝シ御厚志誠ニ有難ク御礼申上候。本日　如是院貞順澄照大姉　三七忌ニ際シ、故人ノ遺志ニ基キ御香奠ノ一部ヲ福祉事業ニ寄附仕リ甚ダ乍勝手之ヲ以テ御返礼ニカエ度ト存ジ候間此儀御諒承賜リ度御願申上候。

敬具

一四〇、冨永政資　宛

埼玉県大和局区内白子一三五七

（端書　一二月一八日・一九日）

拝啓　イツモ気ニカケ、イロイロ慰問下サレ難有ク存ジマス。一切ヲ任セ切リニシテ来タ過去デスカラ今後ハ着物カラ手袋マデ自分デ処理セネバナラヌコトヲ思フト実ニ心細クナリマスガ、己ムヲ得ザル次第デスカラ今後ハ自分デヤリマス。伊東ヤ其他ノ親戚ガ来テ交々慰メテ呉レマス。内ノ嫁モ力ヲ入レテ助ケテクレマスノハ幸デス熱モ大分下リマシタカラ散歩モシ外出出来ル様ニナレバ気分モ晴レマショウ。一八日夜記ス

大隅ト云フ人ガ出雲ノ大社デ事業ヲヤツテマス。来年春ニ来イト云ツテクレマス。温泉廻ハリト云フ楽ガアリマス。大社止リノ直通列車モアルト云フカラ面白イガ二人ナラバ楽シキ旅路ヲ一人デ行クノハ思ヒ出スバカリカト悲シクナリマス。何ニセヨ老人デ久シキ伴侶ニ別レタノハ悲哀デス。折角好意アル御書面ニ対シ返書ヲ書カント思ヒテモ平静ヲ欠キ書クコトガ有リマセン。身ノマワリノ品ヲ気ニスルモノデスカラタンスヲ買ツテ来テ入レテ見テ当分ノ着物ハ安全ダト見セテ呉レマシタガ尚モ安心ハ出来ナイガ仕方ガナイ肌着ノジユバンガ足ラナイ様デス。内ノ嫁ハ洋服デスカラ和服ノ方ニ気ガ付カント思ヒマス併シ一生ケン命ニヤツテ呉レテマス。伊東ノ嫁モ孫ト共ニ来テ慰メテクレマス。ソノ人達ノ心ハヨクワカリマスガ何分ニモ取リ代ヘ難キ人ハ居ナイノデスカラ悲シイ、楽シイガ人ニ言ツタトテ何ニナリマセウ。老人ノ独身ノ生活ハミジメデス幾年続クカ知ランガ辛抱シテ暮スヨリ外アリマセン無論今ノ状態ガイツマデモツヅクノデハナイデショウ。コンナ状態ナラ人ニアイソヲ付カサレマス。心ノ乱レルマヽ、

人生の夕暮れ、晩年に老夫人を失われた先生の御胸中を察すると、なにかしら厳粛なものを感ずる。それは淋しいとか、悲しいとかという感情を超えたものである。ただ空しく、ただ味気なく、己れの生命の灯を静かに静かに見つめているばかりの孤影を先生の現身の中に見出すのみである。南無阿弥陀仏、合掌。

ニ此状書キマシタ。

一四一、冨永政資 宛

埼玉県大和局区内白子一三五七

（端書　一二月二二日）

拝啓　昨今漸ク平熱ニナリマシタ。最低ハ三六、三分高イトキハ三六、五デス、アレカラズツト七度前後ノ熱ガ続イタノデス。今漸ク平生ノ我ニ回リテ鏡ヲ見ルト頬カラあごヘカケテ白髪ガ汚ナク延ビテマス。全ク老人相デス、人ガ見タラアハレナル老翁ノ姿ト思フデショウ。朝起キテモ寒イカラ皮衣ヲ被マシタ。妻ノ愛用シタ品デス。今日初メテ医師方ヘ注射ヲ受ケニ行ク筈デシタガ、外ハアマリ寒イカラドウスルカワカリマセン。身ノ廻ハリノ衣料ハ綿入一枚出来上リ外ニ二枚ホド伊東ノ嫁ガコシラヘテ来ルトテ持帰リマシタガ、其材料ガ古着ノ羽織ト着物トヲ合セテ一枚ニ仕立テル程大ツギダラケノ材料デスカラ今一度着タラオシマイデショウ。矢張リ新シキモノヲ買ハネバナリマセン。ドンドン買ヒテキツブスニ限ルト思ヒマス此内ノ嫁ハ洋服暮シデスカラ和服ノ事ハ不案内デス。只当人トシテハ充分ニ小生ノ事ニ注意シテクレルツモリデス。昨日ハ電話ヲ難有御座リマシタ御多用中ニ恐縮デス貴君ハ山ノ仕事ガ大変デショウ。伜モ会社ニ会議ガ始マリ多忙ノ由デス伜ガ工務部長デ全国ノ工務課長ガ上京シテ居ルノデス。ソシテ嫁ガ風ヲ引イテネテマスト此家ニハ小生ノ落着ク部屋ガナクナリマス。此家ノ不便ナ点デス。

植松夫人ガ通夜ニ来ラレマシタカラ礼状ヲ出シタ。返事ガ来マシタガ文章ト云ヒ文字ト云ヒ中々立派ナモノデス。渡辺夫人ニハ今朝同様通夜ノ礼状ヲ出シマシタガ植松氏ノ如キ返事ハ期待出来マセン。

小生モ妻ノ生前ハ生キ残ル友人ノ中デ最モ清福ヲ賀セラレマシタ。今一度ノ駿河旅行来年ノ小樽行ナド共ニスルコト出来タラ頂上デシタ。先日出雲ノ大社ノ人カラ来年来イトノ誘ヲ受ケマシタ。之モ二人デ行ケヌカラ一人デ出カケルト約束ダケシマシタ。ヤケ半分デス。

一四二、板東虎市 宛

（端書　一二月二三日）

拝啓　喧嘩別レノ女房ト死亡シタ女房トヲ同一ニ論ズル人ガ何処ニアルカ。第一貴君ハ年モ若ク元気デ活気横溢シテルノニ当方ハ既ニ八十歳ヲ越ヘタ老人デアル。長イ間愛情ニ奉仕セラレテ専ラ之ニタヨルコトニナリテ居シモノガ、突然死亡シタノダカラ一切万事過去ガ思ヒ出サレ、周囲ノ者ガ気ヲツケテ呉レテモ何カ物足リナク思フ。其上此身ニモ欠点アリ、注射ヲ受ケ又服薬シテ居ルノデ心ガ慰ム方法ハ有リマセン。日々ノ生存ニ堪ヘザルヲ感ジマス。貴君ノ端書ハ故ラニ冷淡ニ書イテ居ルノデナケレバ、人情ヲ解セザルモノト云フベク甚ダ失礼デモアルト思フ。貴君ハ事業ニ全力ヲ投ズベシ、我輩ノ事ヲ顧ミルナカレ。我輩ハ悲痛ノ涙ニ沈ミツヽ之ヲ我末期トセン。

老夫人がお亡くなりになったとき、皆様が先生にお悔みばかり言う。それでは先生は気がめいると思い、元気づけようと思って書いた端書が、こんな返事になってしまいました。不徳の致すところ。

一四三、冨永政資 宛

埼玉県大和局区内白子一三五七

（端書　一二月二五日）

拝啓　毎度同情アル御声援ヲ感謝シマス。御手紙ノ通リ僕ニ同情スル人ハ甚ダ多イコトハ事実ト思ヒマス。内部デモ嫁モ孫女モ其母ノ嫁モ大ニ同情シテクレマス。縫ヘバ衣物ニナル古イツヽレヲ二組伊東ニ送リマシタ。之デ冬着二枚出来ル次第デス。エライツギガ当ツテルノヲ見ルト亡妻ガ節約シタコトガワカリマスシ、一方ノハ羽織ト着物トヲ合セテ一枚ニ仕立テルソウデス但皆弱イ切レバカリデスカラ材料ヲ新調セネバナリマセン。第一ニ重川君ニ頼ンデアルノガ間ニ合フノカ否カ返答ガナイノデワカリマセン、当分衣類ハ心配ナイトシテ下襦袢ガ一枚出テ来タケレド衿ガ白イ夏物ラシク、黒イ衿ヲアテルト云フノデ伊東カラ材料ヲ明日持参シマス。但此ジュバンガ充分暖カクナイカト心配デス。以上ノ様ナ次第デ皆ガ心配シテ呉レテモ適切デナイノデス。何カ丈夫デ相当ノ品ガ見付カラバ裏ニ相当ノ分ヲ見ツクロヒ全部一着奥サンノ手デ新調シテ下サラバ代金ヲ計算シマス。加工賃モ無論出シマス材料ガ見付カリシトキニ願ヒマス。香奠返シヲシナイコトニ定メマシタ。親セキト相談ノ上デス心苦シイガ致方ナイト思ヒマシタ。折シモ年末ニ臨ミアノ書面出スノモ大変デシタ。平熱ニ下リマシタガ医師ハ入浴ヲ制限シマス一寸ノ散歩ダケ許サレマシタガ風ノ無イ日ダケデ実行ハマダデス。非常ニ大事ヲ取

ル医師デス家内ガ此人ニカヽレバヨカツタト思ヒマス。
八十歳ハ衰老デス今迄ハ時々高令ヲ自慢ニモシマシタガ、今トナルト強ク感ジマス。何カラ何マデ受動的デ用心第一デ心細キコト限リナシ若イ人ヲ見ルト浦山敷クナリマス。生気アリ弾力アリ季候ニモ仕事ニモ堪ヘマスガ老人ニハガマント云フ横着ハ全ク許サレマセン。一歩死ネバ宜シイガソレマデニイヤナ思ヒヲスルノガ苦シイカラ已ムヲ得ズ用心セネバナリマセン。其用心ハ他ノ人ニハワカリマセン。只自分一人ノ判断デス今朝ハ風ガ寒イノデ用心シマシタ兎ノ毛ノチョッキヲ着用シマシタ。コンナ風デス。イヤナコトバカリ書キマシタ。幸ニ御同情下サイ。

一四四、小貫武宛

（端書　一二月二八日）

拝啓　本日ハ御奥様遠方ノ処態々御越被下、例ニ依リ結構ナル品々御贈被下、毎度感泣ヲ覚エマス。昨年迄ハ亡キ人ト共ニ賞味シテ喜ビマシタノニ、今年ハ淋シク存ジマス。就テハ御奥様ヲ強テ御引留メ申シ甚ダ相済ミマセン。心中思フ事ヲ順序モナク申立テマシタガ、ソレデモ奥ノ底ニハ何カ残リマス。甚ダ失礼仕リマシタガ何卒御許シ下サイ。
顧レバ友人知人ノ中ニ類似ノ人々少カラズ、中ニテモ小生ノ如キハマダ大部上ノ部カト思ワル、節モアリマスノデ、イツマデモ愚痴ヲコボスコトヲ避ケネバナラヌモノカモ知レマセン。去ルニテモ底知レヌ淋シサヲ覚エマス。昨年、一回ノ杉村ト云フ人、同ジ運命ニ陥リシトキ、クラス会ニ出席シテ淋シイヲ連呼シテマシタ。小樽ニモ同様ノ事アリ、同級生ガ慰メタ由デ、小生モ書面ヲ送リマシタ。シカシ世間ハ押詰メマシタ。御多忙ノ程御察申上マス。何卒ヨキ年ヲ御迎ヘ被下度右御礼申上マス。

一四五、冨永政資宛

（端書　一二月　二八日）

埼玉県大和局区内白子一三五七

毎度御慰問難有ウ存ジマス、身ニツイタ慰問ハ何トナク力ニナリマス。妻亡キ後ハ嫁ガ大ニ

女房が土地のものを持って御見舞申したことでせう。故澄路夫人に先立たれ、申し上ぐる言葉もありません。私より女房が後になる事を願うことしきりです。

力ヲ入レテクレマス。今後ハ此人ヲ力ニシテ行ク様ニシ度イト思ヒマス。今朝肌ジユバンヲ取換ヘマシタガ身ニ合ハズ小サイ袖ヲ通スノガヤツトデス。而モ衿ガ白イ、之ハ女房ノ肌着デスカラ無理デス然ルニ周囲ノ者ニ言ハスト小生ガタツテソレヲ着ルト申シタカラダト申シマス。ソレハ襦袢ガヨゴレタ着古シノ外ニ只之レ一ツ見付カリマシタノデソレデモ着ルト申シタノデス。女物ト知ツテノコトデハ有リマセン。朝来此ジユバンノ為メ着物ガ落着カズ其上北風寒ク風ヲ引クカト心配デスガ合所ニ行クト片付物ヲシテ火鉢ノソバヘヨリツケマセン。女中ハ応接間デガスヲタケト申シマスガ、がす暖炉ハ気ニ入リマセン矢張リコタツガ恋シイ風ヲ引イテハ大変ト心配デス。午後漸クコタツニ暖マリマシタ、コウナルト朝ノ事ハ忘レタ様デス。
夜間便所通ヒガウルサクテ尿瓶ヲ用テ出シマシタガ昨夜ニテ三度失敗シマシタ。之ニハ苦笑スルヨリ外アリマセン。友人ハネルトキ便所ノ神様ニ祈リ身体カラ出ル水量ノ少キヲ祈ル由デス。小生モ其ノ為メ気ヲツケネバナリマセン。今小生カコンナ身ノ周リノ事ノミヲ気ニシテマス。昨夜ハ風呂ニ入リタイ気持デシタ。小生ハ息切レガスルノデ入浴ト散歩ヲ制限サレルノデス。散歩ダケハ風ノナイ日ニ許サレマシタガソンナ日ガ一日モナイノデ出マセン。坂口茂次郎氏ハ新宮商行ノ主人デスガ今郷里新宮ニ隠居シテマスガ身ノ周リノ世話ヲスル人ヲ迎ヘナサイヨ之モ若返リ方ノ第一デス。老生ノ若返リノ方法バカリ考ヘテマスト手紙ガ来マシタ。今更結婚デモアルマイコトハ明カデスガ身近ニ世話シテクレル人ノホシイコトハ実心デス。衣類飲食寝起キマデ手ガホシイコトデス。老人ニナルホド困ルノデス。娘アリテ既ニ嫁シ又ハ嫁セズシテ近クニ居ルノモヨイト思ヒマス。又口争ヲスルノモ賑カデ宜シイ。男カ女カ何レカ先キ立ツノハ世ノナラヒデス。併シ問題ハ老人デス。老人ハアハレムベキデス。誰レモ早ク死ニ度クハナイガ徒ニ老イルノハアトガ困リマス金婚式ト祝ハレルトキニハ今日ノ事ヲ少シモ知リマセンデシタノニ嗚呼人生ハ無情デス又矛盾デス。

昭和三〇年

一四六、板東虎市　宛

（端書　一月一〇日）

拝啓　混雑ノ中ニテ京ノ名産品ヲ二種頂戴シマシタ。其ノ内ノ柚入リノ小団子ハ多クノ人ニ評判宜シク、少シヅツ分ケテ食ベマシタ。中ニハ汽車ノ中ニテト、持チ帰ル人モアリマシタ。次ノ八ツ橋ハ小生ノ昔ノ馴染デスガ開イテ見テ驚キマシタ。三枚重ネテ棒ノ如クニナリタルモノガ五ツアルキリデス。物々シキ表装カラ見ルト相当価ノスルモノト思ハレマス。又昔ヲ考ヘテモ高イモノデシタガ、十五枚キリデハ内容ガ貧弱デシタ。併シ小生ハ久振リニ旧知ニ逢ッタ気持デ味ヒマシタ。然ル処老人ノ入歯ニクッツキテ取レナイノハ老人ノ悲哀デス。サテ其後医師ニカヽリ今モ尚注射ヲ続ケテ居マス。生活上ニ不便ナコトガ多ク感ゼラレルト、忠実ニ世話ヲセシ妻ガ思ヒ出サレテ困リマスガ、事実ハ如何トモスベカラズ、思ヒ直シテ元気ヨク暮スヨリ方法ハアリマセン。

京都へ行った時、先生へ柚入団子と八ツ橋を送っ時の御礼状。

一四七、田辺新一　宛

（端書　一月一四日）

東京都大田区田園調布二ノ四〇発

拝啓　新春ノ賀状ヲ頂キマシタガ、生憎当方女房去年十一月末、突然死亡致シマシタ。風邪ガ左程デモナイト思フ内ニ、命取リトナリマシタノデ意外デモアリ、其後悲嘆ニ暮レマシタガ新年ノ気分ヲ破ルノモ如何ト存ジ、知ラナイ方々ヘハ特ニ知ラセルコトモセズニ置キマシタ。然ル処、突然田辺新介君ノ訃ヲ聞キマシタ。中原氏ヨリ出デタル報道デスカラ信ゼザルヲ得マセンガ、当人カラハ年賀状ガ来テマスノデ、急死ナル事ハ明カデスガ今モ尚事実ヲ疑ヒタクナル様ナコトデス。其他ニ旧臘中今一人卒業生ノ死シタルコトヲ新聞広告ニテ知リマシタ。人生無常ヲ痛感シマスカラ、老妻ノ死モ敢テ異トスルニ足リマセンガ、淋シサト不自由サトガ日々ビシビシト身ニ迫リマス。身ハ老ヒ、我身モ思ニ任セズ、従来専ラ妻ニ依頼シテマシタ。五十年ノ金婚式マデ伴レ添ヒタル深キ因縁デモアリマス。元気ナ人トハ比較ニモナリマセンノデスカラ、老人ラシクナイト思ハレテモ仕方ガナイ程ニ思ヒガ残リ、一層此身モナイ方ガヨイト命ジマス。実ハ先ニ逝クノガ本意デ、イツモ其旨ヲ語リ、本人ニモ其用意ヲサセ、遺族タル者ノ安全ノ為メニノミ後顧ヲ廻ラセテマシタノニ反対ニナリテ、設計脚下ヨリ崩ケ去リマシタ。御推察ノ程願上マス。

頓首

一四八、田辺新一　宛

（端書　一月一七日）

東京都大田区田園調布二ノ四〇ノ五発

拝啓　早々御年賀難有存ジマス。喜寿ヲスマセテノ新年ニ御元気デ恐悦至極デス。益御多幸ヲ祈上マス。小生モ幸ニ元気デスガ、旧臘来風気ヲ持越シ、新年ニ入リ元日ヨリ床ニ就クコトニナリ、十三日漸ク起キ出デ今日始メテ外出シマシタ。病気ト申ス程デモナク、従テ気分モ平生ト少シモ異ナル所ナク、甚ダ明朗デ有リマスノハ、一ツニハ境遇ノ御蔭デスカラ深ク感謝シテ居リマス。我ナガラアキレル程ニ痩セ果テタ上ニ、去年ノ腎ヲ今モ延バシ、スゴイ格好デス。十五日ガ初風呂デシタ。新年ニ三ツノ碁会アリ、楽シミニシテ居マシタガ、皆出ラレズ、其代リ初負モシマセン。寒サニ弱ク少シモ無理ガキヽマセンノデ用心スルヨリ外有リマセン。暖炉ハ其点頗ル結構デスカラ、御地ノ生活ヲ羨望シテ居リマス。併シヤガテ梅咲ク日ノ来ルコトガ専ラ待タレマス。

河原氏ノ富子サンノ事ハ小生其侭顧ミズ、東京ノ現実ニ眼サメテ後悔スル様ニナレバ、其時ニハ仕様モ有ルカト思ヒ、先日老妻ニ様子ヲ探ラセマシタラ、豊子サン方ニ寄遇シ手仕事デ小遣銭ダケヲ稼ギ、滝沢一家ノ人達ガ遠クナイノデ泊リガケデ行キナゾシテ居ルソウデス。滝沢ハ鵜ノ木ト云フ所ニ豆腐屋ノ借家ヲ借リ居リマスガ、其縁故デ未亡人ハ車ヲ借リテ豆腐ヲ売リ歩キ家賃三千円ハ其収入デ払ヘルソウデス。此人ハ始メヨリケナゲナ人デ有ル上ニ苦労モシテマスカラ此労ニ堪エルモノト思ヒマス。直一郎君ハ愈行詰マリ、今ハ大阪方面ヘ仕事ヲ求メテ行ッテ居ルトノコトデスガ、地方ノ安新聞ラシイデス。河原夫人ノ一週忌ハ豊子サンガ引受ケテ行ッタ様子デス。豊子サンハ長女良縁アリテ、丸山家ニ同居シ丸山家ハ幸福デス。

何処モ同ジデショウガ、小生ノ一族ニモ不幸ナル者有リ、世間ニハ殊ニ老人ニハ末路悲惨、聞クニモ堪エヌ人ガ甚ダ多イノハ、世相ガラ止ムヲ得ヌト申スヨリ外有リマセン。現世ハ生活力ガ第一デス。老人ハ自分ノ生活力ナキガ為メ、力トナル者ガ無ケレバ悲境ニ陥ルヨリ外有リマセン。家族多クテ皆栄エ居ル者ハ甚ダ稀デス。

煙草ハ廃サレズ、詮方ナク続ケテ居ルノミデスガ茶ハ楽シミデス。毎朝抹茶一服ノ後煎茶ヲ入レテ居リマス。近来ハ稍上等ガ飲メマス。一昨年夏、貴宅ニ参上シテ先ヅ頂戴シタ玉露ハ、旧友ニ遭遇シタル思ヒデ舌ヲ打チマシタ。忘ルベカラザル記念デス。文墨ノ事ヤ古書漁リナド、出来レバ趣味此上ナシデスガ、根気ガ尽キテハ自然アキラメ去リマシタ。眼前ノ事物ヲ娯シミ、日々ノ生活ニ満足シテ喜ビ、一切ヲ忘レテ居ルノガ至上ノ幸福ト心得マス。旧キ友人共少々生キ残リ居リ、互ニ相見ヲ希ヒ居リマスガ、皆同様ノ老躯デ往来意ニ任セマセン。中ニ一人ノ人ノ婿ガ竹林トテ潮陵高校ノ先生ニナッテ居ルト知ラセテ来マシタ。人事ハ妙ナモノト思ヒマス。

一四九、服部兵吾 宛

（端書 一月二七日）

名古屋市中川区花池町二ノ五六　　東京都大田区田園調布二ノ四〇発

拝啓　此度ハ妻死去ノ事御聞及ニ付キ御丁寧ナル御書面ニ添ヘテ御供物料マデ御送リ下サレ、昨日到着仕リマシタ。厚ク御礼ヲ申上マス。思ヒモ寄ラヌト申スガ誰レニモ本当ト存ジマス。小生モ勿論存ジモヨラザル別レデ有リマシタノデ一層コタヘマシタ。最初ハ彼女ノ為メ小生ノ為セシコトハ、悉ク小生死亡ノ後ニ残ル彼女ノ余生ヲ幸福ニスルコトデアリマシタノデ彼女ノ生前ニ充分ニセザリシコトヲ悔ヒマシタ。其後ニ至リ死亡ハ已ムヲ得ズトシテ今後ハ小生ノ今後ノ身ノモチ方ニテ此事ニ付テモ途方ニ暮レマシタ。小生ノ生活ハ全部彼女ニタヨリ、一任シテアリマシタカラ今後ハ起坐ニモ食事ニモ、何カラ何マデ小生自ラ当リ、自カラ注意セネバナラズ小生ニハ堪ヘ難キ事ト存ジマシタ。女中ヤ嫁ガ其点ニ付イテ大ニ注意シテ呉レマス。今ハ、細カイ処ニ気ガツカヌト云フ程度デス。何レニシテモ久シク肩ノ荷ヲオロシ、呑気第一ニ来タノヲ再ビ元ニ復ルノハ容易デアリマセン。何分ニモ八二才ノ老人デス。併シ皆様ノ御同情ハ大変ナモノデ、大ニ激励セラレマスカラ老人ダトテ、ヤスヤスト見捨テズ天寿ヲ全フスル

御令閨様御他界の赴にて、お悔み状に添え心ばかりの御仏前にお供え申し上げたに対してのお礼状である。書中にある私の舎弟と両親のあえなき最期、即ち弟が電話応接中急性心臓麻痺にて瞬時にして二十三才の生命を断ったこと、父の大腸カタルにて僅か一日のわずらいで死去した状況を仔細に御報知し、先生のお力おとしをお慰め申し上げたのであった。又小樽の金子氏秋山氏は私もよく存じている方で、先生の昔懐かしい旧友の憶い出が述べられている。

コトニ用心シタイト考ヘテマス。今後何分ニモ宜敷願ヒマス。

御両親様並ニ弟様ノ死去ノ模様御知ラセ下サレ始メテ承知仕リマスガ、弟サンハ別トシ大抵ノ親ハ御両親ノ時位ニアエナク世ヲ去ルモノデス。老人ハモロイモノデス。

小樽在住ノ頃、金子元三郎、秋山常吉ノ両氏ト二次会ニテ大ニ快談シタコトガアリマス。此両氏共既ニ去リマシタ金子氏モネタキリデアリマシタ由、其頃ヲ思ヒ出シテアノ頃ヨリ小生モ元気デ且ツ幸福ナリショト思ヒマシタ。

一五〇、小貫武 宛

（端書 一月二七日）

拝啓　一昨夜ノ盛会ニハ驚キマシタ。名簿ノ全員ニ近キモノデス。各人ノ地位、利害、得失一ナラズ、比較スレバ申分ノアル者達ガ、ソンナコトヲ一切忘レ去リテ、只管一夕ノ歓ヲ楽シム有様ハ、友誼ヲ高語スル結果デアリマス。西村氏終ニ間ニ会ワズ、残念デシタガ、新聞ニテ見ルト終ニ妥協ガ出来タ由デ結構デス。小生ノ為メ例ニ依リ、水モ洩ラサヌ御注意感謝ノ至デス。近来牛鍋ノウマイノヲト心ノ中デ思ヒ居リマシタ。併シアノ寮デハト予期シマセンデシタノニ、丁度其御馳走デ大ニ満足シマシタ。随分沢山食ヒマシタ。但シスリ肉ノ方ヘハ一箸モツケマセンデシタ。老夫ノ健啖振リヲ御覧下サイ。併シ之ハ実ハ大例外デス。其夜ハ家ニテ入浴シ、直チニ眠リマシタガ、昨夜モ又大ニ眠リマシタ。最初目ガサメタノガ三時、次ガ七時半、其間一睡リデシタ。今朝其旨ヲ語リマスト伜ガ何タル仕合ハセダ、ト申シマシタ。全ク其ノ通リ眠リテ万事ヲ忘レ去ルコト実ニ身ノ幸福デス。只昨日ノ寒サニテ風邪気味ナキヤト案ジ居ルノミデス。席上小生ノ左隣リニテ肉ヲツヽキシ人ハ誰デシタカ、伺ヒ度イモノデス。肺病ノ宣告ヲ受ケ戦後禁煙シテ居ルト申シテマシタ。右御礼申上マス。

一五一、蟇目英三 宛

（端書 三月八日）

兵庫県西宮市清水町九ノ二

拝啓　先般ハ皆川荘一並ニ木内武之助両氏御来訪可被下由御知ラセ下サレ難有存ジマシタ。

同期の西村保君が広島、宇都宮、宝莪と連続大ストライキに身を挺して戦っておった時代のクラス会です。又先生の胃の消化の為を思い。パーティの際、ひき肉を出したのですが、先生は肉は肉なりに食ふところに味があると、例の調子を出した一面です。先生の右隣は中退した当時熱海市の市議の大ボスの下山勝康君です。数年前に物故した惜しい快男子です。

両氏共マダ見ヘマセンガ、恐クハ貴君並ニ此御両人共々御考ヘニナル病状ガ小生ノ現在ノ状況ト大分相違シ居ル為メト存ジマス。実ハ二月頃塩野義支店ヨリ伴方ヘ通報アリ大学病院ヘ紹介且案内ノ故トノ事ニテ終ニ一日其病院ニ参リマシタ。当時原氏ハ転任トカニテ暇ナク其下ノ若キ人ガ大学ヲ案内シテクレマシタ。大学ニテハ主トシテレントゲン照射ヲヤリマシタカラ、小生ノ病気ハ呼吸器ニ疑アルモノト存ジマス。最近今一度来ル様ニト大学ヨリ申シ来レル由デス。参ルコトニナリマセウ。右ノ通リデスカラ両氏ハ来ラレンノカト思ヒマス。来ラルレバ勿論喜ンデ面会モシ、御礼モ申シマスガ、塩野義支店ニモ御世話ニナリ居ルコトヲ御承知下サイ。尤モ塩野義モ伴ノ会社ト薬品取引ノ関係アルヤニ聞キ及ビ居リマス。別事デスガ小樽ノ木部教授ガ子息同伴ニテ上京シテルトカ噂ヲ聞キマシタ。喘息トカ年若キ人ガコンナ病気ニナリテハ修業モ出来ズ本人モ親モ困ルコト、存ジマス。此人ノ事ハ貴君ニキ、マシタ。

貴君ト天野氏方ニテ御面会ノ事、亡妻ハヨク記憶シ居リマシテ常ニ噂ヲ致シマシタ。途中運動会ヲ見タコトカラ語リ出シマシタ。天野邸モ当人ニハ余程気ニ入リシコトト見ヘマス。順番ガ狂ヒ小生ガ残サレ、勝手悪ク困リ入リマス。其上病気勝デス。只季節ノ暖クナルノガ力デス。モウ一度自在ニ飛ビ廻ハリ度イト念ジマス。

昭和一二年卒皆川荘一（故人）、木内武之助両君が御見舞に上り度いというので御連絡申し上げた時、塩野義製薬㈱の原君（鹿児島高等農林卒）と塩野義の元販売課長木内君と連絡をとってレントゲン診断のため東大病院へお連れすることとなり、その結果をお知らせいただいた。御夫人を失った先生は二九年に天野雅司邸（大一五）に招ねかれた折の思い出をも附記されておられる。

一五二、白土栄一　宛

（端書　三月一八日）

東京都大田区田園調布二ノ四〇発

拝啓　先達テハ各位ノ御好意ニ接シ誠ニ難有事デ御座イマシタ。早速御礼状ヲト存ジマシタガ、当時、身、心、腕共ニ意ノ如クナラズ其上使用中ノ万年筆マデガ平生使用ノ分ト異ナリ、何トナク都合悪ク端書一枚思フ様ニ書ケズ見苦シキマヽニ投函仕リマシタ。御免下サイ。然ル処安藤君ヘノ分ダケハ、同氏ノ元ノ名モ前職モ不明ニテ結局礼状ヲ差出セマセンデシタ。アノ際ノ話ニヨレバ現在、教育ニ従事シ居ルモノト思ハレマシタノデ、貴君ヲ煩ハシ然ルベク御挨拶ヲ御伝言願フヨリアリマセン。何卒宜シク御願ヒ申上マス。実ハ伴素彦会社ノ用務ニテ只今在欧中デス月末ニハ帰朝スル由申シ来リマシタ。二ケ月ノ短期旅行ニ過ギマセンガ小生使用中ノ万年筆ヲ突然携ヘ去リマシタノデ小生ハ不自由致シテマス。御面接ノ各位ハ年モ長ケ従テ世上ノ経験モ多ク職務上ノ自信モアリ各立派ニ成人セラレシコトヲ思ヘバ当然デスガ、老人ノ眼中ニハ只昔ノ姿ノミガ散ラツクモノ故面接シテ現在ノ紳士振ノ見事サニ驚キマスガ、ソレハ予期以上ノモノヲ得タル喜ビデアリマス。教師トシテハ大慶至極デス。老人ハ一昨年家庭ノ不幸ニ遭ヒ爾来稍単調ニ月日ヲ送リ居リマシタノニ今回ハコノ単調ヲ破リ急ニ意思ガ動イタモノト思ハレマス。従ッテ身ノ老ヲモ忘レタ次第デスガ相沢氏ハ徹頭徹尾身ニ添ヒテ世話ヲシテクレマシタ。之モ感激シテマス。御土産ノ名産品大箱ニテ沢山アリ来客ニモ家人ニモ取リ出シテ賑カニ享受シテ居リマス。のし梅ハ昔金沢四高時代ニ口ニ入レシコトアル様デス。其後ノ日月モアリマスガ中々上品ノヨキ味ト思ヒマシタ。業者ガ研究ヲ怠ラザルタメデショウ。

座右ニアル本ノ一節ニ「弥陀も釈迦も今に修業中じゃ」ト云フ一節ガアリマス。伝道ノ修業ハ無限デ常ニ向上ヲ志シ寸分ノ休ミモナイコトヲ示スモノデス。教育者トシテ大変立派ニナラレタコト前便ニモ申上マシタガ又此一句ヲ申添ヘテ益々御発展ヲ祈リ且祝シマス。油断ハ修業者ニ禁物トノ意デス。

手把白玉鞭　驅珠尽撃砕

油断ヤ自慢ノ心ガ生ジタラ忽チ撃破セヨトノ意デス。

安藤君―大一五安藤（旧姓小田部）浅次氏

相沢君―大三故相沢豊太郎氏（水戸市出身　当時千葉県我孫子町居住、東京のお宅から水戸まで先生を案内された）

昭和三十一年三月、茨城県緑丘会員有志が伴先生を梅の水戸市にお招きして久々に歓談の一夜を過した。色々と懐旧談に花が咲き非常に御満足そうだった先生のあの温顔が今も眼に浮んでくる。その後先生は幾何もなくして御逝去されたので、御帰京後いただいたこのハガキは特に感慨深く、先生の晩年の尊い教訓として心に生きている。

一五三、小貫武　宛

（端書　三月二一日）

拝啓　長イ間御心配ヲカケマシタガ漸ク床ヲ離レテ通信ヲ認メ得ルニ至リマシタ。季節温暖ノ力モ大ニ有ルト思ヒマス。床ニ在リテ頭ガ上ラズ、端書一枚書クコトモ出来ナイノハ随分モドカシキモノデス。生来斯程長ク臥タコトガ無イノデスカラ一層デス。病者ノ心持ヲ始メテ幾分知リマシタ。

此度注射モ医薬モ止メ、散歩モシテ当分自適シテミヨ、トノコトデス。老人ニ恢復モナク快癒モ期セラレマセンガ、アマリイヂメナイデ時ニハ自由ニサセ様ト云フノダロウト存ジマス。釈放ハ勿論ノコト仮釈放モ免サレズ、只執行猶予ヲ得タト心得テマス。

婆婆ニ出タラ第一ハ食物デス。方丈ノ贅沢ナ珍味ハ貧乏性デ知リマセンカラ、セメテ笹ノ雪ヤ、音ニ聞ク駒形トヤラノどぜう汁位ハト思ヒマス。ソレヨリモ粟善哉ノ上等ハ戦時中ヨリ定メテ居リマシタノニ、マダ実行ノ機会ガ有リマセン。之ガ手初メデス。

御気分の極めて爽かなときの御翰（或は医師が既に病根を確知して、自由行動を認められしものか）

一五四、古関周蔵 宛

（端書　三月二一日）

名古屋市中区栄町一　東海銀行本部　　東京都大田区田園調布二ノ四〇発

拝啓　小生ノ病モ少康ヲ得、近頃ハ床ヲ離レマシタ。入浴ハ適意ニシテマス。散歩ハマダ致シマセンガ、暫クハ医薬ヲ離レテ自適シテ見ヨトノ事デス。注射数十回服薬百余日ニ及ビマシタガ、今一応試ニ離脱スルコトニナリマシタ。老人ニ本復又ハ快癒ハ期シ得ナイト存ジマスガ、暫クハ自由ニシテヤレトノ考ト存ジマス。仮釈放カト思ヒマスガ実ハ執行猶予位ノモノト思ヘバ間違ナイト考ヘラレマス。何レニシテモ春暖ガ難有イデス。此暖気ナケレバ執行猶予スラモ得ラレナイト思ヒマシタ。

地下ノ閻魔王ノ手許ニハ人命ニ関スル帳面ガ整ヘラレテアリマス中ニ命数ハ寿命食数ハ栄養表ラシイノデス。或時其庁ニ現ハレタ者ガ命数猶尽キナイノヲ王ガ見テ、コレハドウジャト申スト傍官ガ命数ハ尽キザレド食数ハ尽キマシタト述ベタノデス。ソコデ魔王ノ計ラヒトシテ此者ハ再ビ娑婆ニ復サレマシタガ五穀ヲ食フコトヲ許サレズ、蓮葉ノミヲ食ヒテ命ヲ継ギマシタ。夏ハ青葉モアリマスガ秋冬ハ枯葉ヲ保存シテ食ッタラシイノデス。道元禅師ノ語リ草デス。

小生モ食分ニハ富メリト見ヘ今迄散々御馳走ニナリマシタ。併シ今トナルト口腹ハ尚飽カズト見ヘ、何カト慾望ヲ訴ヘマスカラ、猶予期間中ニ遺憾ナキ迄満足シタキモノト考ヘテ居リマス。アナガチニ高価ノ物ヤ珍物ヲ欲スルノデモアリマセン。下谷ノ笹ノ雪ヤ音ニ聞ク駒形ノどぜう汁ノ類デス。貧乏性ノ生レハ、コンナモノカト存ジマス。ソレデモ慾望ガ尚ホ存スル限リハ人間性アリ、人間性ノ存スル限リハ生命アリト申ス次第デショウ。

一五五、板東虎市 宛

（封書　三月三〇日）

拝復　貴君所望ノ本ハ、禅学問向上録ト云フノデアロウト思フ。従来読ンダ本ノ中デ、之ホドクリ返シ読ンダモノハナカロウ。一旦了解シタト思フモノガ二度目ニ見ルト、ワカッテ居ラン。三度目ニ見ルト、別ノ意味ヲ有ッテ居ル。結局イツマデタッテモワカランカラ又見ル。之ガ禅ノ思想ノ面白イ処デ、或ハ其本質デ有ルト言ヒ得ルカモ知レン。最初ハチンプンカンプン取付ク島モナイカラ書物ヲ大切ニスルコトヲ知ラズ、物ズキ半分ニノゾキ見タノダカラ疎略ニ取扱ヒ、フトシタ事カラ綴目ガ解ケ、紙ガバラバラニナリ、表紙ガ破レテシマイマシタ。尋常ナラバ夙ニ屑箱ニ投入シタノダガ、代リガ買ヘナイト思フカラ其侭ニ利用シテマス。小生ノ読ミタル本デ手許ニ残レル本デ、コンナニ読ンダノハ珍ラシク、他ニ信心銘夜塘水講義ト云フノト二種ノミデス。昨朝ノ事床ノ中デ、子孫ガ此本ヲ見レバ如何ニ愛（？）暴妄読シタカガワカル筈ダガ、ソレヨリモ、破ケタ古本トシテ見向キモセヌカモシレント思ッタリシマシタ。本当ハ之ニ過グル記念品ハ無イカモ知レントモ考ヘラレルガ、アマリニ傷ミ過ギ、アマリ無造作ニ取扱ヒ過ギテアリマス。貴君ガ着眼シタノハ慥ニ眼力ダト申セバ、少シウヌボレノ様ダガ小生ニ取リテハ意義ハ有ル。小生ノ命ハ風前ノ燈ダガ、マダ生キテルカラ其後ノ事デス。今迄書イタ端書ハ凡ソ幾枚ニナルカ、考ヘテモ、ワカラヌガ、ヨク読メバ好意ト善意トニ充チテ而モソレヲ少シモ表面ニ表ハサズ、専ラ貴君ノ生活方針又ハ生活其モノヲ善導セント欲シタコトガ明カニナルト思フ。或ハ熱意ガ溢レテ喧嘩腰ニナリタルモアルカモ知レン。同時ニ貴君ノ返書ニモ、イツモ、少シモ悪意害意ガ出テ来ナイ。カクテ往復幾十回、又ハ幾百回ノ書信ノ往返トナッタカモ知レン。其辺デ貴君ハ慥カニ小生ノ通信ヲヨク読ンダ。誤解セズ悪解セズト思フコトダケハ今申シテオキマセウ。世間デモ珍ラシキ事例ナラン。

一五六、板東虎市 宛

（端書　四月二六日）

拝啓　先日御送付ノ原稿ハ仰セニ従ヒ直チニ御返送仕リマシタガ、考ヘテ見ルトアノ原稿ニ校長代理トアルハ理屈ニ合ヒマセン。大正十一年ニハ小生現ニ校長デアリマシタ。十年十一月ニ校長ヲ拝命シタノデス。其後校長代理ノ資格デ卒業式ニ出タ記憶モアリマセン。些事デスガ念ノ為メ御知ラセ致シマス。

昨夜床カラ出テ、コロンデ痛イ目ニ逢ヒマシタ。近頃ハ寝所ニ眼ザマシ時計ヲ置イテネマス。偶々昨夜ハ其時計ヲ忘レマシタノデ取リニ起キマシタ。然ル処目ガマワッタト申シマスカ、急ニ倒レテ左手ノ拳ガ左胸部ノ肋骨ヲ衝キ、随分痛カッタノデス。幸ニ痛イダケデスミ表面ニモ内面ニモ及ビマセンデシタノデ、痛ノナホルノヲ待ツノミデス。近来ハ動ク毎ニ頭ガフ

伴さんの涙のにじむ様な嬉しい人間性ですね。

私は、伴先生を学生時代から特別好きであった。一年半ばかり日本製鋼所で俸給生活をした時も偶然先生にお世話願った。卒業してからも他の何の先生よりも多く文通している。

先生の深い法律の知識と涙々として汲めども尽きぬ人生感からほとばしる一言一句は、自然先生への門を多く叩くことになり、その種本の禅学問向上録を死後頂くつもりで出した手紙への御返事。

昔小樽新聞に出た先生の告示をそのまま写して、念のため先生の処へ送って一応見て頂いたのでした。新聞には校長代理と出て居ますが、御本人の先生が申されるのも間違いないと思いますが。

奥様に先立たれた八十何才の老翁の先生、いたましき限りです。それでも先生はお便りを下さいました。

ラツキマス。貧血カト思ヒマスガ倒レルニ至リテハ油断ナリマセン。渡辺校長ハ二回倒レテカラ病気ガ悪化シマシテ、死亡セラレタノデ、未亡人ハ常ニ倒レナイカト申サレマス。同ジ倒レルニシテモ、意識シテ倒レル場合ト無意識ノ場合トチガヒマス。無意識ノトキハ石ガ落チカヽル様ナモノデスカラ、危険ナノデス。カク危険信号ガ追々発生シマスカラ、ウマイ物ヲ食フノモ、愉快ナ談ヲスルノモ今ノ内ト思ヒマス。今ハ季候モ宜シクナリマシタシ調子モ大分ヨイカラ、出カケテ談ジモシ、珍味モ食フテ置キ度イト希ヒマス。

一五七、板東虎市　宛

（端書　五月一二日）

拝啓　昨夜ハ失礼ヲシマシタ。送ッテ下サイト頼ンデ快諾ヲ得テ然ル後ニ他カラノ申出ヲ受ケ、ソレデ御断リヲスル。甚ダ我侭ノ申分デ人ニ依リテハ怒リマスノニ、貴君ハ又之ヲモ快諾シテ呉レマシタ。ソレモ昨夜デソレガ二回目デス。甚ダスマナイト思ヒマスガ貴君ノ快諾ハ誠ニ快イ。物ニ滞ラナイノデ極メテ明白デス。性ノ自然ニ出ヅルモノカ修行ノ結果カ小生ニハ珍ラシクヨキ響デス。此快諾ハ天空海濶ト云フカ太虚ニ片雲ナシト云フカ、北海男子ノ真面目ト云フカ、小生モ真似タイト思ヒマス。サテイツカ来訪スルトノコトデシタガ、マサカ朝ノ四時五時ト云フ頃デハナイデショウネ。其頃此宅デハ真夜中デス。六時ニ女中ガ起キ、家人ハ七時半頃ニ眼ヲサマスラシク小生ハ其頃マデ床ニモグリ居ルノデス。サテ浅草ノ朝会ニハ一度ハ小生モ参リ度イガ、右ノ次第デ早朝ハ出ラレマセン。大僧正ガエライ人カドウカ知ランガ一度ハ話ヲ聞イテモ見度イ。鶴見ノ総持寺ニ行ク人ノ話ヲ聞イタコトモアリマス。相手ガエライト云フコトニシテ接スルノハヨイコトデス。本当ニエライ坊サンヲ求ムレバ恐ラク現代ノ日本ニハ一人モ居ナイデショウ。世ノ中ガ世智辛クテ本当ノ修行ヲサセナイノデス。併シエラクナイ人デモエライ人ノツモリデ話ヲ聞クノハ良イコトデス。エラクナイ人デモ其服装ニ敬意ヲ表シテ、釈迦ノ代理人位ニ思フノモ良イコトデス。入学試験ノ時ノ様ナ考ヘデ人ヲ批評スレバ、敬意ヲ表スベキ人ハ居ラナクナリマス。人ノ為メヨリ小生ハ自分ノ為メニ敬意ヲ表スルコトヲ希ヒマス。

十日会の御帰りの時、先生を御送りしようと申してあったが、他の方がお送りした。

そんな事が二度あったらしい。そのことをお賞め下さって恐縮の次第。

私は朝早く起きるくせがあるので、朝早く訪ねられると困る、朝早い朝詣会も行きたいが行けぬと申して居られます。

一五八、冨永政資　宛

埼玉県大和局区内白子一三五七

（端書　五月一二日）

拝啓　貴君ハイツモ多事デ色々ノ通信ガ来マスガ当方ハ病気上リデ一向材料ガアリマセン。昨日久振ニ出テ麦ノ穂ヲ見テ成熟期ニ近キニ驚キマシタ。パチンコ屋ガ単発式ニ変リテ店ニ依リ繁栄ノ度ガチガウコトヲ知リマシタ。初夏ノ日光ガ強ク袷デハヤリ切レンノデ早速帰リマシタ。今日ハ十日会ニ出席シマス、イツモナラ車ガ迎ヘニ来テクレルノデスガ今日ハマダ其ノ電話ガ来マセンカラ電車デ行クツモリデス。少シ頭痛ガシマス。季候ニ応ジテ衣ヲ着代ヘルノガ面倒デス。今ハ夏ニ向ヒ段々薄着ダカラ宜シイガ秋カラ冬ニ向ヘバソレガ面倒ダト思ヒマス。独身ニナリテ気楽ナ点モアルガ参ルコトモ有リマス。ソレヲ誰レニモ打明ケテハイケナイ事ヲ悟リマシタ。扨庭ノ柿ノ木ハ当年沢山花ヲ持チマシタガ、先日植木屋ガ見テ此木デハ精々十五ノ実ヲナラセルベキデ其以上ハ木ノ発育ヲ害スルト云ヒマシタ。道理アル言デスカラ大ニ間引キマス考デスガ素人ハ実ヲ惜ムノガ弊デス。貴宅ニハ花木其他時々ノ趣ガ種々アリテ楽シキコト了承出来マス、此家ハ草花ノミデス。尤モ梅ノ木一本当年ハ成リガ大ニ宜シク実ハ相当ノ大キサニナッテマス。扨来十九日ニハ昭和三年卒ノ会ガ有リマス其会ニハ十蔵寺蒔田二氏ガ出席スル由デスカラ小生モ出ルト申シテ置キマシタ。以上デ大体用事ハ書イテシマイマシタ。坂東ガ端書ヲヨコシ先生ハ九十マデハ大丈夫ダト申シマシタ。小生ガ病気ノ事ヲ書イテモ以上ノ如ク独リギメヲシテ取合ヒマセン。自分ノ気分ニ従ッテ人モ同様ト思フノデス之ガ坂東式ノ単純サデショウ。勿論小生モ長命ノ方ガ宜シイガ我身体デイロイロノ事ヲ考ヘルト、長クハ生キラレナイ様ニ思ヒマス。長命モ容易ノ仕事デハアリマセン。

騒音ハ裁判所ガドウ片付ケルカガ問題デスガ、両方ノ門ノ間ニ煉瓦カコンクリートデ丈夫ナ塀ヲ作レバ大分音ガ違フト思ヒマス工場主ニ家ヲ買ハセルトナルト中々実行ハ出来ナイデショウ。勿論病人ガ出テハ、其賠償ト将来ニ対スル補償ノ義務ハ有リマスガ工場主ハ中々ズルク逃ゲマワルノデショ。実際今日デハ逃ゲルノガ一ツノ手ニナッテル様デス横着ニズルク構ヘルノガ手デス」コヽマデ書イタトキ来客アリ後十日会ヘ向フ迎ヘノ車来ラズ電車ニ乗ル目黒乗替八重洲口下車ス実ニ久振ノ事ニテ駅ノ表テモ目ニ新ラシ、サテ会ニテ飽食シ帰宅ノ後終夜胃ガ重シ、矢張リ大食ハ戒ムベキト思フ併シ夜明ケニハケロリトシタモノナリ。

一五九、冨永政資 宛

埼玉県大和局区内白子一三五七

（端書　五月二三日）

拝復　今十九日夕昭和三年卒ノ人ノ会ガアリ迎ニ来テクレマス、賑カデヨイデス。サテ御端書ヲ見テ感ズルコトハ老人ハネテ居タガルコトデス。小生モ既ニ度々其感ヲ抱キマシタ。併シ成ルダケネナイコトニシテマス。小樽ノ金子氏モ東京ノ晩年ハ只横臥シテ居リ終ニ死去サレマシタ。今一知人ハ医師デスガ横臥シテルソウデス。尤モ此人ハボウコウガ悪クテ起キテ居ルコト出来ナイデショウ。小生モ夜ハ成ルベク早ク床ニ入リマス。大体ヨク眠レルカラ仕合ハセデス。京都ノ友人ハ血圧ガ高ク只静カニシテ居ルラシイ。小町谷氏ハ八十九才ニナリ尚健在ノ由デス。小生モ天命ハ覚悟シテマスカラ無理ハシマセン。但昨年カラノ病気デハ死ニ度クナカツタ。今一度元気ニ歩キタイト願ヒマシタ。幸ニ相当ノ運動ハ出来ル様ニナリマシタ。併シ之モ季候ガ宜イカラデショウ、秋冬ニハ自信アリマセン。過去ヲ顧ミルト何心ナク多忙ニ働キ又ハ無心ニ笑ヒ興ジタル時ハ人生最幸福ノ時デス。小樽ニ生活セシ時代ガ小生ニハ矢ハリ一番好キ時代デアツタ様デス。高野氏ハ気ノ毒デス手術無事ニ経過シテモ矢張リアト長クハナイデショウ。子息夫婦ガ今気ガツイテ孝行シテモオソイ様デス。モウ少シ早ク何トカスレバ宜カツタト思フ胃癌モ精神ノ苦ガ原因ニナル様デス。貴宅ヲ集会ニ貸スナラ何トカキマリヲ定メネバナリセン。御端書ダケデハマダヨクワカリマセン。山林ノ事了解出来マセン。アトカラアトカラト何カ出テ来テ御迷惑ノ様デスガ田舎ノ人ハ一時遁レニ何デモ目先キダケノ事ヲヤル癖ガ有リマスシ、貴君ガ投資スルノヲ見テ、マダイクラデモ出スモノト思ヒ、慾ガ次第ニ深クナルカモ知レマセン。相手ノ人ヲ信用シスギタノデ有リマセンカ、今ノ内ニ手ヲ引イテ損失ヲ免レラレマスカ、小生ニハ想像モ出来マセンガ用心ヲ要シマス。先方ガ無理ヲスルノニコチラバカリ合理的ニハ行カヌコトモ考ヘルガヨイ。

貴宅ノ結婚式ハ大変デシタ先日小樽カラ戸井君上京シテノ話ニ大野学長ノ娘サンニ養子ガ定マリ来月四日結婚スル由、其際結婚祝賀会ヲ催ス様ニ大野氏ニス、メルツモリト申シマシタ。此祝賀会ハ小生ノ発案デ新生活運動ニモナリマス。関係者ガ祝ヒヲヤメテ会費ヲ持チヨリ新夫婦ヲ招待シテ祝賀スルノデス。婚家デハ披露ノ費用モ助カリ会員ハ会ノ空気ガ自由デノビノビト思ヒ思ヒノ事ヲシヤベリ、却テ大ニ祝賀気分ヲ発シマス。戸井君ノ結婚ノ時ニ実行シマシタ。最近ニモ一度実行シ好成績ヲ収メタ由デス。

一六〇、田辺新一 宛

（端書　五月二三日）

拝啓　御地ハ桜花満開ト承ハリマシタ。今ニ木々ノ新緑モ鮮カニ最モ快適ノ候ト存ジマスガ、御尊台如何近頃ノ中消息ヲ伺ヒ度イト存シ居リマス。当地ハ今モ尚不順デ冷温定マラズ暑サニハ余リ、寒サニハ風ヲ引キシ様ニテ不安ヲ覚エ、老人ノ生活モ日々負担ニナルト考ヘテ居リマス。妻死亡ノ節ハ最モ適切ナル御手紙ヲ頂キ感動仕リマシタ。併シ其頃小生モ風邪ノ如キ状態ニテ一時軽快感ジマシタガ、後再ビ同一病状トナリ三月頃マデ打臥シマシテ諸方ヘ御無沙汰仕リ失礼致シマシタ。今モ前記ノ如ク心許ナキ日々ヲ送リ居リマス。最近二三回会合ニ出席シマシタガ、ソレモ車ニテ送迎シテモライマス次第デス。小町谷氏ハ当年八十九才ニ達セラレシ由デスガ、尚健在デ此長寿ヲ下セル天意知リ難シナド申シ送ラレマシタ。平生注意深キ方ダケニ流石ト感心シマス。同氏ハ令息ガ近ク停年ニ達セラレルノデ東京ニ移ラルルコトニナリ家屋モ新築セラレテ居ル由デス。小生如キハ老年ニ加フルニ病余トテ思考力全ク衰ヘ文字モ乱レ、来客ニモ長ク応接スルト疲労ヲ覚ヘル様ニナリマシタ。マダ旅行シタイト存ジ居リマスガ、単身ニテハ如何ナル事態ニ及ブモ計リ難キ故、御迷惑ハカケテモ責任ハイツモ自分ニ在リト思ヒ定メテマス。

一六一、板東虎市 宛

（端書　六月五日）

高臥白雲裏（ノウチ）　猶龍抱レ玉眠ムルガ如シ

有レ事即英雄　無レ事即神仙

英雄回頭即神仙ト云フ文句ガ有リマス。ソレヲ詩ニシタマデノモノデス。彭洋トカ云フ名ニモ感心シマセン、詩モ同様デス。小生ナラ買ヒマセン。

裁判ニハ驚キマシタガ、財産ノ請求ハ子息サンヤ娘サンノ考ヘト思ヒマス。

英雄神仙トハ間違テモ似タ点ガアルノデショウガ、トンデモナイ英雄ヤ神仙ガ出テ来テハ困リマスネ。

今迄旧知人ガ来テ大ニ談シテ帰リマシタ。

書を買ったが、読めぬので先生に読んで頂きました。
離婚騒ぎしたことを先生へ伝えたのでした。先生はちゃんと情勢を知って居られます。

一六二、冨永政資　宛

埼玉県大和局区内白子一三五七

（端書　六月六日）

旧知ノ人ガ九州カラ上京シマシタ。旧日本銀行員デス。今度八十歳ニ達シタノデ恒例ニ依リテ旧友会カラ鳩杖ヲ授ケラレタノデス、サテ此人ガ両三日前ニ熱海ニ住スル永池氏ヲ訪ネマシタ。永池氏ハ小生ト大学同期ノ人デス。小生ノ噂ガ出タトキ伴ハ確カニ死ンダト言ヒ切ルノデ線香ヲ持参センカト考ヘタガ、昨日別ノ人ニ尋ネテ生存ノ由ヲ知ツタト鶏卵ヲ持参シテ来マシタ。人生行路デハ失意ノ人デスガ、一人ノ子息ガ相当ノ地位ニ在リ安心ガ出来、本人ハ恬淡、九州ノ田舎ニ在リ囲碁ヲ楽シンデ居ルノデス。亡妻存生中数年前ノ事デス。三井ノ平田氏ノ未亡人ガ此家ニ訪ネ来リ四方山談ノ末、小生ハイツ死ンダカト尋ネ、死ニマセン現ニ生キテ二階ニ居マスト答ヘテ笑ツタコトガアリマス。小生モ同様ノ失敗ヲシタコトガアリマス。老ルト生死ガ問題トナリ抹殺サルヽコトモ敢テ奇トスルニ足リマセン。坂東夫人ガ離縁ノ訴ヲ起シ弁ゴ士二人ヲ以テ財産半額ヲ請求シテ来マシタ。坂東ハコンナ低級ナ女ヲヨク女房ニシテ居タコトダナド言ツテ来マス此夫婦ノ事ニハ口ヲ入レヌコトデス坂東ハ確カニ異常性格デス。自動車ヲ乗リ廻ハシテ居マス。小生ハ言フベキハ言ヒ尽シマシタガ中々キヽマセン。ソシテ不相変端書ヲヨコシマス。例ノ口調デ自分ノ事バカリ述ベテマス。併シ憎ムベキ点モ有リマセン。人々ノ同情ヲ受ケルニハ滑稽笑フベキコトモアリマスガ人ノ好意ハ必ズ喜ビテ感謝スベキモノデス。酒、煙草ナドヲ贈ル人々ノ心ハワカリマセンガ、同情ヲ有スルコトハ明カデス。人ハ窮地ニ陥リタルトキ友人知人ニ相談スルト善意ヲ以テ且好意ヲ寄セテ示ス方針ガ互ニ矛盾スルコトアリ一方ニ従ヘバ一方ヲ捨テネバナラズ中デ困ルト云フ経験ガ有リマス。此一両日ハ異常ノ温度デス附近ヲ散歩シテ足ガ進マズ苦シミマシタラ下痢ヲシマシタ。珍ラシキコトデス。下痢ナドシタコト近来有リマセン。入浴シテスグネタラ治リマシタ。十日ノ会ノ後ニ十三日ト十五日ト会ニ招カレマシタ。出席スル旨答ヘマシタ。久シクナルト人々ノ顔ヲ見度クナリマス。先般小樽ノ松田新君ガ死去シマシタ。中風ノ様ナ病デス、佐野杏三君ガ数千万ノ資ヲ作リ悠々トシテマスガ数日前来訪秋田、山形方面ヲ廻ハリ級友達ヲ訪ネテ小樽ヘカヘルト言ツテマシタ。金ガ出来ルト人間ハ落着キマス。言フ事モ自然ニ変ハリマスガ得意ノ人ノ用心スベキコトハ得意ノアマリ人ヲ馬鹿ニスルト思ハレテハナラヌコトデス。人間ニハヒガミト云フモノガ有リマス。

一六三、小貫武宛

（端書　六月一三日）

拝啓　先般ハ失礼仕リマシタ。大病ノアトヽ承リ大ニ驚キマシタガ早キ御全快ノ様子ニ、御見舞モ申上ズ其侭ニスマセマシタ。然ル処、先日志賀氏ガ来宅シテノ話ニ近頃胃腸ノ工合悪ク、今モ現ニソレデ元気ガナイノデスガ、讃岐氏ガ折角御馳走シテクレルト言ハレテモ此様ナ際ニハ困ルカラ一層、一応ハ辞退シテ置イタ方ガヨイデハナイカ。其際ハあなた(小生)ガ主賓トナラレルガ望マシク、ト申サレマシタ。ソコデ小生ハ既ニ一回御馳走ニナリタルモノ今回ハ只陪席トシテ出ルニ過ギマセン、ト答エマシタ。右ノ様ナ事情デスカラ、当分見送リト云フノガ最上ト考ヘマス。此旨ヲ讃岐氏ニ通ジテ置イテ頂ケレバ、ト考ヘマスノデ御願ヒ申上マス。

御話ニ依レバ六ケシイ病ヒガ二ツモ揃ッタノヲ切抜ケラレテ誠ニ目出度イ事デスガ、イクラ元気デモ、年令ト云フモノガ有リマスカラ、今後ハ今迄ノ如クデハナラヌト御考ヘニナル様祈リマス。人間ハ用心スルニ限ルト申ス次第デス。小生モ幸ニ其後無難デスガ、暑サニ向フトソレガ又油断ナラズ、生来ノ横着者モ心配ガ先ニ立チマス。

宿痾の糖尿病に、肺壊疽を併発したときのことでせう。御心配をおかけいたしました。好漢讃岐梅二氏は逝きて跡なし。

一六四、小貫武宛

（門司絵葉書　六月二四日）

拝啓　一昨日ハ久振リノ会合ニテ主客相互ニ快心ノ杯ノヤリ取リノ状ヲ拝見シテ、飲メル人ガ羨シクナリマシタ。季節ハヨシ、友ノ家ニテ濃キ緑ノ色ヲ四辺ニ眺メテハ酒ノ味モ一段デアリマセウ。

遠方ノ送迎ニ恐縮シマシタガ、御蔭ニテ郊外ノ風物ヲ眺メ気分ヲ一新スルコトガ出来マシタ。庭ノ芝生ニ手入レヲ怠ラズ、雑草ヲ留メヌノガ即主人一家ノマメナル心持ヲ代表スルモノト思ヒ、一層ニ難有思ヒマシタ。実ニ近来ノ大快事デ忘レ難キ喜ビデアリマス。一ツニハ御相手下サレシ貴君ノ御人柄ニモ依ルコトデス。共々御礼ヲ申マス。老来、人々ノ好意ヲ一段ト床シク思ヒマス。令夫人ヘ宜敷御願ヒマス。

只只恐縮次第。

一六五、冨永政資 宛

埼玉県大和局区内白子一三五七

（端書　七月一日）

六月二七日ノ端書今着拝見シマシタ。種々ノ事ガ書イテアリマスガ先ヅ放送デハ小生モ全ク同様ニ考ヘマス。文化、東京二放送ハクダラヌ広告用バカリデスガ、若イ者ニハ之ニ限ルト見ヘ小生ガ居ナケレバ出テマス俗悪極マルモノデス。歌謡曲ニモ困リマス。殊ニ男子ガアンナ声ヲ出スノハ聞クニ堪ヘマセン。テレビモ同様デス。貴君ノ旧友人達ノ状況モ大抵ハ似タモノデショウ。前途ヲ見テ老ノ準備ヲスル心掛ノ人ハ日本ニハ少イノデス。独乙人カラ見レバ日本人ハ浪費生活ヲシテマス。殊ニ日本ノ又都会ノ婦人ハ経済観念皆無デス。華美ヲノミ競ッテマス。男子モ見ヘ坊デス。商人トナルト中元ト称シムヤミナ贈答ヲスル悪習ガアリマス。ソレダケ良品ヲ安価ニスレバヨイノニ中元年末ニ金ヲカケテ何カデ取リ返シマス。併シ日本人ノ生活ハ忙シイ他ノ用意スル余裕ノアル人ハ殆ンド無イ。小生モ廿三、四年頃ノ窮迫時代ヲ追想スルコトガ屢アリマス。小生ハ老後ノ準備ヲシテ置イタノニ戦争デ皆無ニナリマシタ。併シ戦争ハ不可抗力ト考ヘネバナリマセン。今日本ハ重大時期デスガ之ヲ自覚シテ適当ニ働ク人ハ有リマセン。其人ガ有リテモ周囲ガ妨ゲマス。労働運動、賄賂、汚職ノ沙汰デ仕事ヲ横取リシマス。今ノ政治ノ状況モ日本ノ古来ノ悪習ヲ表面ニ晒シテ居ルニ過ギナイデショウ。日本人ノ根性ハ根本的ニ改メネバナリマセン。独乙人ハ日本ト同ジク戦争デ失敗シマシタガ物ヲ合理的ニ考ヘルコト、順序ヲ立テ、仕事ヲ進メルコトナドノ特性ハ今モ失ハズシテ着々成功シテマス。日本人ハ急イデアワテ、ソレデ我勝チニナリマス。外国貿易ヲスルト日本人同志ガ無用ノ競争ヲシテ互ニ悪口ヲ云ヒ邪魔ヲシマス。

先般カラ散歩用ノヅボンヲサガシマシタ。漸ク発見シ次ハ夏帽ヲサガシ今朝ハワイシャツヲサガシマシタ。之デ身軽ニ散歩出来マス。昨日ハ浴衣ノ袖口ノホコロビヲ直シマシタ。女ノ知ラヌ内ニコツソリヤリマシタ。衣裳ノ不足ニ困リマス。漸ク袷ダノ浴衣ダノボツボツ買ヒマス。衣類ノ整理モ夏物ト冬物トヲ一所ニシマイマスカラ場所ガナクナリマス。ボツボツ小生ノ考デヤリ直シマス。小生ハ衣類ニハ手ヲ出サヌ慣習デシタ。七月十日東大デ穂積陳重先生ノ誕生百年ノ記念会ヲ催シマス。考ヘテ見ルト小生ノ満八十一歳モ近イノデス。更ニ十九年経ルト誕生百年ニナリマス。日ノ立ツノハ実ニ速カデス。

一六六、冨永政資 宛

埼玉県大和局区内白子一三五七

（端書　七月二日）

七月モ二日ニナリマシタ。先日貧乏ノ回想談ヲ認メマシタガ小生ハ当時大学ノ学生時代ニ返リタルモノト思ヒ一切ノ欲望ヲ抑ヘ煙草ヲ買フダケデシタ。収入ガ無イカラデス。併シ小生ハ食事其他ニ付キ責任者デアリマセンカラ至テ気楽デス。一家ノ責任者トシテ一切ノ生計費ヲ工面シナケレバナラヌ人ノ地位ハ全ク別デスカラ貴君ノ今回ノ心ヅカイト小生ノトハ比較ニナリマセン。馬関ニ田中実ト云フ卒業生ガ居マス。英語ガ得意デ倶知安中学ノ先生ヲシテマシタガ後上海ニ行キマシタ。戦争開始カラ終戦マデ軍ト連絡シテ大ニ活躍シタ由ヲ自カラ述ベテマスガ現在ノ日本ニ於テ疎雑ナ英語デ生活スルコトハ困難デス。其上支那浪人ノ根性ガシミ込ミテハ日本人ト膚ガ合ヒマセン。何ヲ以テ生活シテ居ルカ絶ヘズ気ニナリマス。片信ノ中ニ子サヘ無ケレバイツデモ自殺スルトアリマシタノハ本当ダト思ヒ読ミマシタ。但支那浪人ノ気性デ金銭ヲ受取ルノガ平気デスカラソノ点デ助カルト思フダケデス。坂東ハ大キナ顔ヲシテ自動車ヲ乗リ廻ハシ大法螺ヲ吹イテマス。妻子ヲ捨テ、顧ミナイカラ訴訟ニナツテモ平気デス。今ハ収入モ有ルラシイガ結局行詰ルトキ孤立無援トナルヲ恐レマスカラ十余年モ願ナガラ苦心シテ導カントシマシタケレド全ク心持ガ通ジマセン。北海道生レノ純情デ大ニ宜シキ点モアリマスガ左程無頓着デハ困リマス友人ニモ見捨テラレルデショ。

菊池君ニ端書ヲ出シテ、一家ノ近状ヤ子息ノ学業ヲ尋ネマシタラ夫人ガ土産ヲ持ツテ来訪シマシテ驚キマシタ。併シ夫人ハ長男ノ嫁サン探シニ小生ニモ依頼スル考ヘデ来ラレタ様デス。当人ハ三十二ニナルノニ今迄ノ縁談五ツトモ間際ニナリテ破談トナルノデ今ハ母親ノ責任トシテ熱心奔走中トノコトデス御心当リハ有リマセンカ。アトデ小生考ヘルト父菊池君ノ業態ガ妨ゲトナルノヲ夫人ニハ気ガ付カヌノデナイカト思フノデス、併シ今トナリテハ菊池君モ、急ニ職業ヲ改メルコトモ出来マセンデショ。

一六七、服部兵吾　宛

名古屋市中川区花池町二ノ五六　　東京都大田区田園調布二ノ四〇発　（端書　七月五日）

拝啓　今年モ七月ニナリ各地ニ水害ヲ出スナド気懸リナ事ガ生ジマスガ、貴家御一同ハ皆御健勝ト存ジマス。小生ハ昨年来不快ニテ打臥シナド案外長クナリマシタノデ、意外ノ御無沙汰ヲ致シマシタ。御挨拶ヲ致シ度イト存ジ取纏メタ書面ガ机ノ上ニ山積シテルノヲ眺メナガラ日ヲ送リマス次第、御了承下サル様ニ願ヒマス。扨先日誰カガ申シマシタ、名古屋ニ行キ高島先生ヲ見舞ッテ来マシタガ寝タ切リデス。子息達ニモ見捨テラレ気ノ毒デスト云フノデス。短時間ノ談シデ其人ノ氏名モ不明ニナリマシタ。老人ハ老人同志デス。昔ハ四面八面ニ働キシ氏ガ此状態カト気ノ毒ニナリマス。病気ハ中風デスカ、夫人ハ先キニ死去セラレマシタカ、子息ハ何ヲシテル人デスカ、見捨テルトハ如何様ノ事実ヲサスモノデスカ、大体御聞及ビデモアリマスレバ承ハリ度イト思ヒマス。アマリ香バシキ事件デモアリマセンカラ、世評ヲ憚カリマスノデ特ニ御詮索ニ及ビマセン。人ノ評判位ノモノ、御聞キ込ミノ通リ大体御報下サレバ結構デスカラ御手数ナガラ願ヒマス。今ノ時世デハ似タ様ナ事ハ沢山有リマスガ病ニ臥シテ家族ニ冷遇サレテハタマリマセン。不自由ナク余裕アリテ暮シタ家庭デハ子孫ガ我侭ニナリ、親ノ事ニ気ガ向カヌ傾向ガアル様デス。貴君ハ其点デハ安心出来ルト思ヒマス。奥様ハ丈夫ダシ家族ノ心ガ相和シ、ナゴヤカニ暮サルルモノト信ジマス。

永池長治ト云フ人ハ日銀デ相当ノ位地ニ居マシタ。今熱海デ幸ニ暮シ居ル由デスガ、先日或人ニ伴ハ確カニ死亡シタ筈ダト申シタト其人ヨリ聞キ大笑ヒヲシマシタ死ンデ居ル方ガ自然デスカラ決シテ腹モ立チマセン。小樽ノ小池信繁氏ガ上京スルト訪ネテクレマスガ、甚ダ健康デスガ風采ハ頗ル田舎クサク、田舎爺デス。昔ノ友人モ多クハ生キテ居テモ元気更ニナク、語リ合フ事モ不便不自由ナ生活ノ話ガ自然多クナリマス長寿ハ誰レモ願フ所デスガ、長生キシテ見ルト意ニ満タヌコトガ案外デス。殊ニ若イ者ト気分一致スルコトハ困難ト見テマス。

先生は高島佐一郎先生のことをお聞き及ばれ、この御照会を兼ねて御近況を報ぜられた。書中にある小池信繁氏は小樽の頃御近所の碁友で、お互に遠慮のない方である。

一六八、小貫武　宛

（端書　七月八日）

拝啓　一昨日ハ図ラズモ御馳走ニ御一座出来マシテ大愉快デアリマシタ。小生ハ今尚病気服薬中。貴君ハ既ニ突破セラレマシタノデスガ栄養分ヲ取ルノハ御互ニ嬉シイコトデス。御覧ノ如ク健啖振リヲ発揮シテ、一座ヲ驚カセマシタノハ、実ニ近来ノ大快事デ有リマス。来ラン暑サニ対シテモ、手廻ハショク用意ガ出来マシタ。今日医師方ニ行キ健康大ニ回復、トノ宣言ヲ得テ益愉快ニ且得意デス。余命ノ有ラン限リハ此調子ニテ進ミ度キモノト祈リマス。人間ハ自由ニ行動シテ、互ニ談笑スル際ガ幸福デス。御馳走ヲ前ニ置イテハ申分アリマセン。此外ニ幸福ナド称スルモノガ別ニ在ルベキ筈ハアリマセン。

すくなくとも、先生のこの御心境に近からん日常の励みを痛感して己みません

一六九、古関周蔵　宛

名古屋市瑞穂区松栄町二ノ四ノ二　　東京都大田区田園調布二ノ四〇発　（端書　七月三一日）

拝復　御端書ヲ頂キ健在ヲ報ジ得ルハ身ノ仕合ハセト喜ビ且感謝仕リマス。当年ノ暑気ハ従前経験セシコトナシト存ジ、日夕唯はい然ト一雨ノ来ランコトヲ希ヒマスガ生憎空ニハ一片ノ雲モ見ヘマセン。併シ昨年以来続ケマシタ医師通ヒヲ中止セン乎ト嫁ト相談シテ居リマスガ、之ハ難有事デス。椎名氏ハ先日田中君ト痛飲シタト寄セ書ヲ寄セ今度ハ又名古屋デス。痛飲ノ二字ヲ見ルト羨シクナリマス。朝カラ晩マデ酒浸リト申セバ老人ラシク聞コエルノデスガ、宗旨替ハ困難デス。小生ハ茶浸リデス。不思議ト茶筒ノ茶ガ絶ヘズ久シク茶店ヘ買ヒニ行キマセン。ソシテ茶浸リハ健康ニモ宜シト思ヘ、其元気ヲ維持スルノハ幸ト申サネバナリマセン。昨夜両国ノ花火ニ誘ハレマシタ。見納メト存ジ同道シマシタ。家ヲ出ルトキ扇子ヲ改メマシテ取リ出シタノハ高島屋ノうノ字ノアルノデシタ。両国ニモ花火ニモ縁ノアル品デスガ、其後幾年ニナルカハ忘レマシタ。美人カラ菓子ヲ貰ヒマシタカラ、マダ終戦時ノ気分ノ湛フ時デ有リマシタ。然ルニ今ハ当年ノ事ヲ忘レ果テタカニ見エル程ノ賑ヒデス。併シ企業合理化、金融引締メノデフレ政策ハマダマダト思ヒマス。人々モ内心ソレヲ知ッテルデショ。

大正十年ノ連中ガ七月十日ヲ期シテ小樽ニ集マリ三十五年祝賀会ヲ開キマシタ。積立金ヲ励行シテヤリマシタ。盛挙デスガ偶其間際ニ及ビ松本ノ下条貞秋君ト福岡ノ小池潔君トガ逝去シ

高島屋と言ふのは日本橋小舟町に鰻専門の老舗で戦後此店に柳橋の八重香（小樽ではぼたんと言ふ芸名の様です）を先生に秘密にして昼食に双方を招待したことがあります。その扇子を言って居られるのですね。その時物資不足の折柄なのに八重香君は伴さんに当時としては珍しい羊羹を差上げました。

タトハ驚クベキデハアリマセンカ。詳細ハ知リマセンガ下条君ハ溢血ト思ヒマス。慎ムベシト痛嘆致シマス。

一七〇、田辺新一　宛

（端書　八月五日）

東京都大田区田園調布二ノ四〇発

拝啓　先般ハ久振ニテ御対面ヲ得マシタガ、中々御壮健ニテ慶賀之至ニ存ジマシタ。令夫人様ハ聊御疲レノ様ニ見ヘマシタ。之ハ商業其他ノ勤労ノ為メニテ已ムヲ得ザルト共ニ、過去ノ功業ヲ思ヒ、讃美スベキ記念物ト存ジマシタ。但多クノ旧知人皆没シ、訪フモ訪ワルヽモ残リ少キニハ驚カザルヲ得マセン。人間生レ落チテカラノ運命、ト夙ニ明瞭ニ承知ノ事ニ相違ハナケレド、余リ理屈通リニナリテモ凡人ハ悔リ難イノデショ。但藤山氏ノ没落ハ何トモ申様モアリマセン。平家・豊臣ノ没落モ急ナレド之ハ各敵アリテノ事、今ノハ敵モナクテ自滅シ潰滅シタノデス。自業ト申スベキモノガ其間ニ在ルカモ知レマセン。小生ハ存ジマセンガ戦後ニハ馬鹿ニ大金持ニナリテ、今尚億ヲ以テ数フル人々少カラザルコトデス。必ズシモ一代ノ成金ニ非ズシテ風雲ノ間ニ税金ヲ払ヒテモ資産ヲ失ワザリシ人モ有ルノデス。三井・三菱ヲ見ルト、ムシロ気ノ毒ニナリマス。

内ノ嫁ハテニス仲間ト共ニ毎年御馳走ニナリマスガ其費用一夕六七十万円デス。施主ハ高利貸デスガ、一橋出身、貸出ノ相手ハ株屋・学校（出身一橋大）トテニスノ為メニハ惜気ナク出ス由デス。邸宅ハ豪壮デスガ、昔坪三十銭ニテ買ヒタル由。コンナ人ニハ成金ニナラヌガ不思議カモ知レマセン。世ノ中ハ様々ノ人ガ居ルノデ面白イト思ヒマス。ソンナマネヲセント思ヒテケチケチスルノハ愚デショ。小生今度ノ旅行ニハ区域毎ニ責任者ガ定メアリシ様子デス。家ヨリ千歳迄ハO氏、千歳カラ定山渓、小樽迄ハK、O両氏、小樽ハ盛田氏。責任者ハ寸秒モ離レズ注意シテクレマシタ。帰路ハ又同ジ人達ガ世話シテクレマシタ。難有イ事デスガ其労ヲ思フト老人ハ旅モウカツニ出来マセン。

一七一、冨永政資　宛

埼玉県大和局区内白子一三五七

（端書　八月八日）

大阪旅行御苦労デシタ。夫婦喧嘩デ時間ト費用ノ大損ヲ招クトハ慎シムベキコトデス。今ノ旅行ハ費用ガカカリマスカラ大変デス。併シ鯛ヲ試味シタリスルコトモ出来マス小生モ大社ヘ行クト約束シマシタノデ如何ト問合セガ来マシタ。中々腰ガ上リマセン。大社ノ卒業生ニ世話ニナリタル御礼ト思ヒ居ルラシク中々人物モ宜シク事業モ順当ノ様デ又小生ハ各地ノ温泉ヲ廻ハルノモ痛快デスガ距離ガ大変デス。長野北陸ヲ経ルカ大阪神戸ヲ通過スルカ何レニシテモ老人ニハ無理デショウ。出カケル程ノ勇気アラバ結構デス。此家ノ梅実ハ当年ハ最上ノ出来デ粒ガ揃ヒ上等品デス。買ヘバ相当ノ物デス。第一キズヤ汚レハ余リ有リマセン。柿ノ実ハ大変沢山ナリマシタ。三十ヤ五十デハナイ様デス。植木屋ガ縄デ吊シ上ゲマシタ。モウ落チナイ様デス。主人ハゴルフニテ暇アラバ出カケ女房ハテニスデ家ニ居マセン。小生留守番ノ様デスカラ到来品ノ食品ナド手ガツカズ生菓子ナドモラウト心配デス。其内ニ孫モ同居スルコトニナリマス。甘イ物ガ豊富デ喜ビマショウ。小生ハ七月三十日両国ノ川開キニ行キマシタノハ良イガ其後下痢ヲシテ止マラズ、止マルト通ジモナク、身体ガ変デス。下帯ガ汚レタリスルトキニ非常ニ気ヲ使ヒマスノガ苦シカツタデス。アマリ長生キスルモドウカト思ヒマシタ。サスガニ伜ハ何カト気ヲツケテ心配シマスガ勤メ人デスカラ家ニハ居ラレマセン。自然女房ヲ思ヒ出シマス。菊池君ハナゼソンナ写真ヲ送リマシタカ、先日人ニキヽマシタラ菊池君ハ奥サンガ多弁ダカラ困ルト申シテ居ッタソウデス。小生ハ千鳥町時代幾度モ本人ニ逢ツテマス。成ル程筋骨逞シキ方デハ有リマセンガ、ヤセデモ有リマセン。本人ト面会ノ機会アルマデハ自信ガツキヌト引延シテ置カレテモ差支ナイデショ、菊池氏モ父トシテ少シ動イテモヨイト思ヒマス。

小樽ノ戸井君カラ通信ガ有リマシテ商売繁昌ヲ喜ンデ来マシタ。日高ノ出張先カラ手紙ヲ出シマシタガ細君ガ急病デ死ンダトノ電報ガ来マシテ驚イテマス。子供四人位ハ有リマス。戸井君ノ貧時ニ結婚シタノデ此結婚式ニハ小生モ中学校長ヤ友人達ト共ニ好意ヲヨセテ力ヲ添ヘマシタノデ本人モ大ニソレヲ徳トシテマシタノニ意外ノ事ガ出来ルモノデス。みどり会報ハ坂東ノ独リ言デス友人間デモ彼ハ信用ヲ落シマシタ皆様カラ成行キヲ見守ルノミデス小生モ随分好意ヲ以テ端書一枚ニマデ苦心シマシタガ見込アリマセン。近頃ハ小生モ手ヲ引キマシタ。池ノ

鯉ヲクレナドニハヒドイデスネ。買フトタカイト云フノモオドロキマス。

一七二、冨永政資 宛

埼玉県大和局内区白子一三五七

（端書 九月五日）

拝啓 御端書ヲ見ルト実ニ世ノ中ハ多端ナコトガ考ヘラレマス。使者ノ持逃ゲ相場ニ手ヲ出スナド考ノ足ラヌコト甚ダシイ、ヲダテル奴アリ乗ルヤツ共ニ至愚デスガソレヲヨキ事ノ如ク思ハセルノガ時世デス、誠ニケシカラヌ事デス。御隣ノ海軍先生ノ行動モアリ得ルコトヽ思ヒマス。人間魂ノ居リ場所ガ定マラヌトイロイロノ事ヲヤリマス。菊池家案外安々ト事ガ定マリ夫人ガ礼ニ来ラレルトハ思モヨリマセンガ縁談成就スレバ大ニ賀スベシデス。本人ハ思想堅固ナルコト疑アリマセンガ先ヅ新居ヲ定メネバナリマセン親ト同居スルコトハ出来ズ考ヘテモ居ナイ様デス。昨日八木康之助君ガ来マシタ。此人モ廿八才ノ娘アリトテ急グ様子デシタ。私方ノ孫モ二十二歳ニナリマス。卒業スレバ二十四才油断スレバ老嬢ニナリマス。板谷ガ一艘新造シ度イノデ其資金ヲ政府カラ借リ度イ八木君ガ其係トシテ運動スルラシイ、板谷ト申シテモ天下ノ一隅ノ地方金持ニ過ギマセン。十月八日ニ大正十四年組ガ箱根デ卒業三〇年祝賀ヲヤリマス。何人程集マリマスカ目立ツ人ハ割合ニ少ク地方ノ来会者ガ問題デス。

涼シクナツタト思フト今日ハ大ニ暑イデスガ小生ハ近来又碁石ヲ並ベタリシマスカラ元気、気力ガ出来タト思フベキデス。但脚ハ中々動キマセン。西式ヲ思ヒ出シテヤルト不思議ニ軽クナリマスガ連続セネバナリマスマイ。先般大正十年ノ人々小樽ニ集マリマシタ。小生ニ土産ニ甘ト辛ト貰ヒマシタガ辛ハ林檎酒トブランデーデ共ニ余市ニッカノ産品デス。りんご酒モウマイデス。

一七三、板東虎市 宛

（端書 九月六日）

拝啓 先日ハ南瓜御持参下サレ難有存ジマス。南瓜自身ノ価値ハ北海道ニ在リテハ何デモナイガ、東京デハ中々手ニ入ラズ、東京デ郊外マデ運ブノハ面倒デス。価値ガ益増加スル次第デス。久振リニ北海道ノ南瓜ヲ味フト思ヒマスガ、女中ガ慣レナイノデ、先ヅ味噌汁ニシテ試ミマシタ。中々ウマイカラ今度ハ北海道式ニふかしマス。塩ヲ振リカケ匕デ食フノデス。珍味ト賞玩シタイモノデス。御好情深ク感謝シマス。小生ハ今日医師ノ診察ヲ受ケル日デスガ急ニイヤニナリ、散歩ニ出ルツモリデス。肺ニ異様ノ感覚アリ、胃腹ノ鼓動モ変デスガ、医師ニノミ依存シテモ駄目デスカラ、自ラ運動デ気分ヲ引立テ様ト思フノデス。老人ハイクヂノ無イモノデス。併シ老人ハ之ガ当然カモ知レマセン。僅カノ事ナガラ、何処カ一カ所気ニナル所ガアリテ気分ガ晴レマセン。友人知人デモ老人ハ皆コンナモノデスカネ。サスレバ散歩デモ出来ルノハ上等デス。

福田勇一郎君ハ大正十一年頃ノ卒業ダガ、校長時代文部省ノ委嘱ヲ受ケ中学ヲ視察シタトキ、野付牛ノ旅館デ逢ヒ、復函館ニモ居リマシタ。後東京本社大阪支局ニ移リ、今ハ朝日新聞ノ取締役ニナリマシタ。佐竹繁寿君ノ仕事振リニ重厚ナ処ガアリマス。日本生命ノ不動産部長トカ聞イタガ其後病気中ノ由、人ノ噂デシタガ今度回復シテ経理部長トナリマシタ。日本生命ハ資産ガ最モ多イ会社ダカラ、経理部長ハ大役デス。ボツボツ人ノ出世スルノヲ見ルハ楽シイ。

母校の小樽商大の柔道部員十人を東京へ招き、講道館で稽古さした時、代金を送って、南瓜を沢山持って来てもらった。その一、二個を先生の許へ届けた時の御礼状。

老い先が短いと覚悟しながら、色々有難い味のある便りを下さいます。福田氏や佐竹氏のことも報じたらしいが、いまは記憶になし。

一七四、小貫武 宛

（端書 一〇月二日）

拝啓 雨ガ降リ続キ陰湿ニテ寒ク却テ暑サニ苦シミシ夏ガ恋シクナリマス。

一昨日ハ難有御座イマシタ。相撲ハ好取組ニテ予想以上ニ面白ク長キ時間ノ往過ヲ忘レテシマイマシタ。肉弾相撲ツト云フ光景ガ眼底ニ残リマス。往復御送迎被下甚ダ恐縮デスガ、車中談ハ気軽ニ様々ノ談話ガ出来マスノデ、愉快ナ機会トナリマス。御話ニ依リ大正元年小生単身赴任ノ頃ノ事ヲ回想シマス。同僚ノ一人ガ渡辺校長ヲ知レル者アリ、イヤナ奴ダヨト申シマ

相撲見物の帰途殆んど先生の懐古談で終始した。色々な人生行路の指針となるべきものが沢山含まれております。学ぶべきです。

タ。其他多クノ同僚、先輩ハ、妙ナ人バカリノ中ヘ行クノダカラ気ヲツケル様ニト申サレマシタ。小生ハ社交ニソレ迄頓着シタコト有リマセンカラ、此等ノ話ハ聞クモノヽ身ニシミマセン。渡辺氏ニハ其前ニ伯林ニテ面会シ気取ル人ト思ッテマシタ。同僚先輩ハ、福田徳三氏ト学問上ノ関係アル人々デシタカラ此人ヲ眼中ニシテ観察シタカト思ヒマス。幸小樽ニハ親友河原氏ガ居マシタカラ、右ノ事情ヲ述べ相談ノ結果、当分ハ交際ヲ避ケルコトヽシ超然トシマシタ。後校長ニハ種々ノ指導、誘掖ヲ受ケ世評如何ヲ忘レマシタシ、又小生ハ常ニ世ノ中ヲ知ラント欲スルノミデシタカラ、何人ニモ傾倒シテ自ラ啓発セントスルノミデスカラ他ヲ批評スルコトナク、是非ヲ言ヒマセンデシタノデ、無事友好ヲ続ケ多クノ人ノ援助ヲ得ルコトガ出来マシタ。

中学ニ入学ノ当初、同級ノ人達ニ聞キマスト小生ハおこりトシテ有名デアッタソウデス。小生ハ怒ッタトハ思ヒマセンガ、人ノ言フコトニ従ワナイカラ怒ル様ニ見ヘタノデセウ。小生二年生ノ時、五年ニ吉田ト云フ人アリ、広島ノ校長トナリマシタ。又近角常観ハ本郷ニ求道館ヲ立テ多ク帰依スル人アリ、有名ナ坊サンデス。此等ノ人々ハ大先輩デスガ、小生ニハ親シキ友人デ、互ニヨク識ッテ居ルノデス。併シ先後輩ノ関係ヲ無視シ、先輩ガ小生ノ名ヲ知リ居ルコトモ不思議デシタカラ、或時聞キマシタラ、中学時代小生ハ一人ポツントシテ居タノデ、此等ノ先輩ニモ知ラレテ居タソウデス。田舎者デ周囲ニ調和スルヲ知ランデシタノデス。

一七五、田辺新一　宛

（端書　一〇月五日夕七日出）

東京都大田区田園調布二ノ四〇発

拝啓　御清勝賀上マス。扨先日内ノ嫁ガ途中丸山氏子息ニ逢ヒマシタ。河原氏長女豊子サンノ長男デス。其時ノ談トシテ、富子サンガ依田氏ヘ復帰シテ今札幌トカニ居ルトノコトデス。私共ハ之ヲ近頃ノ吉報トシテ喜ビマシタ。一度ハ相当強ク之ヲ勧メマシタガ、頑強ニ主張ヲ曲ゲナイノデ沈黙ヲ守リタレバ、日夜念願シテ居リマシタ。如何ナル機会ニ、又如何ナル動機アリテ気ガ変リタルモノヤラ何モ存ジマセン。家ニハ依田氏ノ子息達モ成長シテ、母ト共ニ居ルコトヲ望ミタリト存ジマスシ、豊子氏方ニ居リテハ気苦労モ少カラント存ジマスレド、一身ノ収入ヲ計ルトナレバ手頃ノ職ヲ得ルモ難ク、独立生活モ容易ナラヌコトヲ体験シタルモノト察セラレマス。意ニ満タヌコトアリテモ復帰ガ第一策デス。人生不満ナキ者ハ一人モ有リマセンカラ、アキラメガ第一デス。此件ニ付キ尚ホ御聞込ノ事アラバ御一報下サラバ大幸ニ存ジマス

小生七月ノ旅行以来健康意ノ如クナラズ、今ハ肝ガ肥大シ腎ニモ故障アリテ、ムクミガ出マスノデ爾来殆ンド外出シマセン。一昨日思ヒ切リテ床屋ニ行キマシタ。往キハ下リデ漸ク着キマシタガ復路ニハ、塵ヲ払ヒ腰ヲ下シテ休息シ辛ジテ帰宅シマシタ。其結果、膝ガイタクナリ、二階住ニ不自由シテマス。小町谷氏ノ便リニ、丈夫ナイザリダガ命ハ別条ナシ、トアリマス。脚ガ自由ナラザレドモ其他ニ故障ハナイノデセウ。元気ナ点デハ私ハ遠ク氏ニ及ビマセン。

一七六、古関周蔵　宛

名古屋市瑞穂区松栄町二松栄寮

（端書　一〇月一一日夕）

東京都大田区田園調布二ノ四〇発

拝啓　秋冷モ稍度ヲ過ギテ冬ヲ思ハシメマス。小生幸ニ健康ニテ去八日十四年組ノ卒業、三十年祝賀会ニ招カレテ参加シ、箱根小涌園ニテ愉シク賑カニ一夜ヲ過シ、翌日周囲見物ノ上帰宅仕リマシタ処、留守中勇夫氏御来訪下サレ立派ナ果実ヲ頂戴シマシタ。二代マデ引続キ御好意ニ預カルコト、真ニ過分ト存シ恐縮仕リマス。併シ嬉シサハ申述ブベカラザルヲ覚エマス。右御報ノミ申上マス。往キモ復リモ自動車ニテ往キニハ苫米地氏ト返リニハ大野、杉江、文士ノ伊藤整君ト同乗デシタ。

一七七、田辺新一　宛

（安芸の宮嶋絵葉書　一一月九日）

拝啓　一両日前戸井君来訪、御健勝ノ由ヲ承ワリ大慶ニ存ジマス。小生モ今ハ独身ノ生活ニ稍慣レテ、快適ニ暮シ居リマス。御安心下サイ。十月八日箱根ニ於テ、卒業三十年記念会ガ催サレ、御地カラ杉江、右野、高桑、白井四君ガ来会シマシタ。場所ハ小涌園トテ、三井其他旧富豪ノ邸園ニ木堂老ノ閑居ヲ併セタモノデス。其翌朝温泉ニ浴シマシタトキ、非常ニ快ク覚エマシタガ長湯ヲ戒シメラレタノデ早目ニ上リマシタノガ惜シク、今ニ思ヒ出サレマス。前夜ノ

会カラ過去ノ一切ガ引続キ連想サレ、思ヒ出ガ尽キマセン。小町谷氏尚健デス。令息停年ニ付東京ニ移ル由、今建築中トノコトデス。御互ヒニ長生キシマシタ。其内ニ又年ガ改マリマス。御自愛祈ル。

（端書　一一月二八日夕）

一七八、小貫武宛

拝啓　先日ハ御奥様遠路御越被下御拝礼為シ被下誠ニ難有厚ク御礼申上マス。又私ヘハ結構ナル品々頂戴、恐縮至極ニ存ジマス。之又御礼ヲ申上マス。谷中ニテ無事納骨ヲ終リ、キマリモツキ一安心仕リマシタ。仙台伊達家ノ土地ヲ分譲シタノヲ買受ケマシタノデスカラ、場所モ割合ニ宜敷処ト思ヒマス。附近ニハ名士ノ墳墓ガ見受ケラレマス。昔小生大学ニ入学シテ間モナキ頃、此辺ヲ散歩シテ玉乃世履ノ墓ヲ見付ケマシタ。此人ハ大審院長トシテ法学界ニモ実力アル人デシタ。従ッテ墓石モ大キク特ニ自然石ヲ用ヒ勲一等玉乃世履ノ墓ト書イテ有リマス。之ヲ見テ小生ハ人間ノ声名モ勲一等モ、石碑稍大ナルニ過ギズ、人間ハ生キテイル間ノ者デ死シテハソレ迄ナリ、ト考ヘ、一ツノ人生観ノ本トナリマシタコトハ今モ忘レナイコトデス。

先生を「リベラリスト」と申し上げていいかなあ！何かそくそくとした心に泌みるお考を持ち、そのお姿で人生の行路を歩み続けられた様に考へられてなりません。

（端書　一二月一九日）

一七九、冨永政資宛

埼玉県大和局区内白子一三五七

拝啓　久々ニテ貴君ヘ通信ヲ認メマスガ先ヅ第一柿ノ実ガ残リ二十ニナリマシタ。最初ハ誰モ手ヲ出サズ眺メテマシタガ、イツカ減少シマシタ。小生モ先般時々喫ヒマシタ。馬鹿ニナラヌ味デス。食慾ハナイガ食ヘバウマイコトヲ知リマシタ。二十バカリ素彦ガ会社ヘ持参シマシタ。無駄ニシタノハ有リマセン。唯残ル二十ケヲ毎日眺メテマス。野火止ノ田中氏ガ取ルノモ面倒ト言ヒシコトヲ思ヒ出シマス。小木デ此通リデスカラ大木ノ頂上ノナドハ取ルニモ面倒ニ相違アリマセン。次ニ田中氏ノ未亡人ノ健闘振リハケナゲト申スベキデス雇人二人置キテハ支出モ多イガ家ノ娘サンヤ嫁サンガ手伝ヘバヨイノニト考ヘマス商売ハ覚エテ置クベキモノデス。若イ者ニハソンナコトワカランデスネ。菊池明君ヘ御祝モ上ゲズ時期ガ過ギマスノデ三越カラカン詰ノ箱ヲ送ラセマシタ。実用品トシテ正月ニモ新家庭ニ間ニ合フト思ヒマス。住所不明ニ付菊池君方ヘ届ケマシタ。明君ノ新家庭ノ指針ハ根本的ニ計算的ニ新家庭ノ基礎ヲ合理的ニ立テントスルモノデショウ。菊池君ノ変化多キ家庭ニ育チ辛抱強ク節約スルコトヲ悟リ予メ新家庭ノ設計ヲ立テ、居タモノデショ。嫁サンハタマゲマスガ一筋ノ道理ハ有リマス。八木教授ノ新家庭ノ初ハソンナモノカト思ヒマス。小生モ最初イロイロ注文シマシタ。月給取ハ何程節約シテモ食物代ヲ減スルヨリ方法ガナイノガ悲シカツタデス。嫁サンツラクトモ同調スルノガ最上デス。菊池夫人ノ言ヲ最上権威トシテ服従スル様ニ心ガケルガ良イデショ。小生モ近頃マデ小包ヒモヲ大切ニシマシタ。小樽デハ小豆幾粒ヲ女中ガ流スノヲトガメマシタ。凡テノ物ヲ合理的ニ消費シタカツタノデスガ小包ノ紐ナンカ幾ラデモタマルノデ今デハ捨テマス。終戦当時ニハかます縄ヲ解キ小生ガ沢山保存シマシタ。

久振ニ風ヲ引キマシテ不快デス。西ノカラッ風ガ吹クト寒イデス。昨日炬燵ニ入リテ眠リ風気トナリナガラ入浴シタノガイケナイ。得意ノダンデモ鼻水ガ止マリマセン。先日来体力ノ回復ヲ信ズル場合ガ二ツアリマシタ。一、足ノスベリ出シガ大ニ軽快トナリマシタ。二、脚ノ大地ヲ踏ム力ガタシカニナリマシタ。此二ツニテ体力回復シ老人ニモ春返ルカト思ヒマシタガ。散歩スルト歩行ハ矢張リノロノロデス。併シ老人ナガラ体力ハ慥カニ回復シタデショウ。其他大体ノ傾向ハ心強ク思ヒマス。老人デモマダ見込ガアルノヲ知リマシタ。銀座日本橋方面ヘハ全ク出ル機会有リマセン。飯川君ヲ訪ネタイト思ツテマス。同君ハ胃ヲ取ツタノデスガ近頃ハ固形体ハ食ヘズ流動食ノミデス。気分ハマダ中々シツカリシテマスガ案ゼラレマス。何ヨリモ先キニ訪ネテ見度イノデス。

昭和三一年

一八〇、冨永政資 宛

埼玉県大和局区内白子一三五七

（端書　一月一八日）

拝復　予定ノ如ク素彦ハ去十六日夕羽田ヲ立チ今夜ハ瑞西ニ着ク筈デス。其際小生常用ノ万年筆ヲ持チ去リマシタノデ勝手違ヒニナリマシタ。三月末ニハ帰リマス。扨大ニ御無沙汰ニナリマシタガ小生ハ長イモノヲ書ク勇気モナクナリマシタ。近頃ハ散歩モ殆ンド出来ズ気ニシナガラ日一日ヲ送リマス。昨夜大角力ニト電話ガ来タ由、又見ニ行キマス。送迎マデサレヨキ場所デ見テ土産物ヲ貰フノデス。誠ニ難有次第デス。其他例ニ依リ一部ノ人々カラ好意ヲ受ケ感謝スベキ所多イノデ老人甚ダ仕合ハセデス。菊池君ノ新宅ハ何トカ自分デヤツテ行クデショウ。今後要点ダケ必要ニ応ジ注意スルコトデス。御令息夜遅クナルノハ困リマス。小生モ在職中十二時マデハ平気デシタガ今ハ十時迄モ起キテラレマセン。素彦ガ時ニ十二時過ギニ帰ルノモ知リマセン。若イ人ハ元気デ親ノコトナド気ニモシマセン。大学生ノ孫娘ハ日ニ依リ六時頃起キテ独リデ出カケル様デス。貴君ノ端書ニアル自動車事故ハ世間ニモヨクアリ知人ハ親セキノ者等ト池上ヘ参詣ノ途次タキシー暴走、衝突シテ婦人重傷、自分モケガシタ由デス。御所蔵ノ支那墨小生モ見タコトガアリマス。一纏メニナリテアル物ヲ一ツデモ出テハイヤデスガ、夫レ程所望サレルナラヤツテモヨイデショ。小生モ明治七年ト銘アル鳩居堂ノ墨ト珍ラシキ唐墨ヲ持チマシタガ焼キマシタ。書家ハ墨ニアコガレマスカラ供養ニナリマス。物ハ惜シムベシ惜シムベカラズ貴君ハ庭ノ木マデ一々愛着ヲ以テ接スルノハ心情ノ細カニ至レルヲ示シマスガ一面保守的デ小樽ノ寺田氏ハソンナ人デシタノデ小生ハ物ヲモラウノヲサケマシタ。

一八一、古関周蔵 宛

名古屋市中区栄町一東海銀行内

（端書　一月三〇日）

東京都大田区田園調布二ノ四〇発

拝啓　一月末ニナリテ好会ニ招カレ二度出席シマシタ。十日会ノ外ニ相撲モ見マシタカラ、小生ノ生活モ相当動キガ多クナリマシタ。昨年ノ一月ニ比ベルト元気ガ大分回復シタ次第デス。実ハ先般寒キ夜半退引キナラヌ急用ニ起サレテ階段ヲ下リマストキ、ツマ先キノ動キ工合、階段ノ音ノ高サ、昔ヲ思ヒ出ス程デシタカラ、我脚力俄ニ復旧セリト信ジ喜ビマシタガ、翌日散歩ニ出テ見ルト旧態依然タルニ唖然タリデス。着衣ノ目方モ違フシ運動ノ動機モ同ジカラズ、身ノ上下動ト、前後ノ動キトニ因リテモ異ナルノデショウ。併シ伊東ノ孫ハ梅花満開ヲ報ジマスシ、熱海ノ梅信モ伝ハリマス。郷里ノ伏見デハ幼時十二月ノ梅ヲ見シコトヲ思ヒ浮ベテ見ルト庭ノ木モ既ニ白ク綻ビカケテマス。春遠カラズト自カラ励マシマス来月五日第一回ノ会ニ出マス。一年半振リノ対面デス。然ルニ理事長飯川文三君ハ慶応ニ入院シテマス第四回ノ大手術既ニ行ハレタカモ知レマセンガ安否気遣ハレマス。年末以来固形体ハ全ク受付ケズ流動食ノミデスカラ骨ト皮ダト自ラ称シテマシタ。ソレデモ元気衰ヘズ、気力ハ中々盛ンデ明朗平生ト毫モ変リマセン。小生モ内心驚イテマシタガ、アノ病ニ勝ツコト容易デハ有リマセン。理事長トシテハ最適任デ惜ムベキデス。好報ヲノミ待ッテ居ルノデス。

相撲ヲ見タトカ会ニ出タトカハ沼津ノ岡田※ニハ知ラセマセン。先生ハ羨シガリヤキモキシマス。中学ノ友ガ京都ニ居マスガ之ハ和歌三昧、既ニ世ノ交ハリヲアキラメ終日火鉢ヲ抱ヘテ居ルノミデス。耳ガ聾シテ「ラジオ」モ聞ケズ来訪ノ客モアリマセン。全ク静デスカラ小生ノ動ヲ伝ヘテモ差支ナシト信ジマス。其他老骨ノ音信ハ悲惨デス。仙台ノ小町谷氏子息、教授停年ニ付キ東京ニ新築シ遠カラズ対面出来ル由デス。然ルニ小樽ヨリ玉信来リ対面ハ出来ルガ談話ハ出来ナイ。相手ニ通ジナイカラダト申シテ来マシタ。小生ノ方ガ此等ノ人々ノ中デハマダマダ人間臭ガ有ルト申セマショウ。

※沼津の（故）岡田氏は三井銀行としては始めて帝大卒業者としての入社らしく伴さんの学友で小生も長く御交際致しました。三井銀行元常務（関東自動車工業前社長）木村氏の岳父です。

一八二、古関周蔵 宛

名古屋市瑞穂区松栄町二ノ四

（端書 二月一三日）

東京都大田区田園調布二ノ四〇発

拝啓　先夜ハ十日会ノ御影ニテ久振ニ御面接ガ出来テ嬉シク存ジマス。早速御在京旧例ニ復リ送迎ニ自動車ヲ借用致シ恐縮ニ存ジマス。御礼申上マス。松坂ノ牛肉ノ事ハ予テ承ハリ居リマシタガ、味フノハ初メデアリマス。ソレモ女中ノ奉仕ノ行届キタル貴族振リデ大ニ満腹致シマシタ。新年以来ノ会ノ日程ハ之ニテ一応終了シマシタガ、十三会ノ人々ノ身ノ入レ方ハ格別デ、会員モ自然愉快ニナリマス。一流婦人ノ舞姿ヲ見ルノハ実ニ久シキコトデスガ、落着キテ間ノ抜ケタル処ナキハ流石ト思ヒマシタ。立姿ノホッソリトシタ姿勢ハ終リマデ少シモ変リマセンデシタ。会員一同注視シテマシタ。舞人自身モソレニハ驚イタ由デスガ、恐ク当人ニモ技芸一段ト上進ノ機会ニナッタロウト考ヘマス。但小生ハはん女史ニ接セザリシヲ残念ニ思ヒ居リマス。其後御令嬢様ノ進境如何ト演技中ニモ絶ヘズ考ヘマシタ。併シ高浜君ト云ヒ貴君ト云ヒ十日会ノ為特別ニ御骨折感謝ノ至デス。自動車中ニテ西野君ノ申サレシ三ツノ Ghost industryノ話ハ注目スベキモノト思ヒマス。鉄道ノ事ハ英国ノ談ヲ大分以前ニ聞キマシタガ、米国自身ニ於テ cotton ガ問題ニナルトハ考ヘ及ビマセンデシタ。石炭ニ至リテハ燃料トシテハ重油ト競合シ、動力トシテハ電力殊ニ原子発電ノ影響ヲ受クルコト著シイデショ。時勢ト共ニ産業ノ交替スルコト思ヘバ恐シクナリマス。ペンガ悪クテ字ガ書ケマセンノデ失礼ナ端書ニナリマシタ御免下サイ。

一八三、板東虎市 宛

（端書 二月一三日）

拝啓　貴君ハ近頃態度一変シテ本業ニ励ミ、両三年ヲ期シテ元ノ状態ニ復スルコトヲ望ミ居ル由ヲ小生ニ伝ヘタ人ガ有リマス。事実デスカ。近頃ノ健康如何。前回モ同様デアリマシタカラ今回モ右ノ話ガ真実ナルベシト思ヒマス。ソレナレバ甚ダ結構デ賀スベキダト喜ビマス。小生ノ考ヘデハ、一切ガ一時ノ発作デ有ッタト思ヒマス。本業コソ大切デ之ヲ逸脱スルコトハ危険デス。注意シテ避ケネバナリマセン。君ハマダ若イノデ、原状ヲ回復スル望ミガ持テマスガ、其内ニ年ヲ取リ体力ガ許サナクナルコトヲ忘レテハナリマセン。竹村、岡田両君ハ君ノ為メニ実ニ良友デアリマスカラ、小生ハ此両君ニ依頼シテ、成行キヲ見ルコトニシテマシタ。去十日ノ例会ニ出席シテ、小生当分ノ日程ハ終了シマシタ。一月以来角力ヲ見タリ、其外イロイロノ会ニモ出マシタ。幾分疲レマシタ。当分保養デス。昨年ノ正月ニ比スレバ大分元気ヲ回復シ明朗ニナリマシタガ、老衰モ進ミマシタ。近頃ゝ散歩モアリマセン。銀座方面ハ全ク行キマセン。炬燵デ暮ス日ガ多イノデス。此端書ハペンノ都合デスガ、字ノ方モ変リマシタ。

野心を持ち、うんと儲けようと無理をし、おまけに家庭の事情などもあって、揚句の果ては強いノイローゼになってしまった。そのため先生にも御心配をおかけした。税理士なんておかしくてと、本業をほったらかしたが、先生はそれを懇々とさとして下さいました。しかし人の運命はわからぬもの、約二年間何も出来ずに暮し、三十軒程のお得意も五六軒に激減しましたが、頼まれれば大小を問わず責任を以て仕事をしなければならぬのでもう御得意はふやそうと思いません。金より命と別な方へ進みます。

先生御在世だったら何と申されるか。

一八四、冨永政資 宛

埼玉県大和局区内白子一三五七

（端書 二月一五日）

拝啓　先日十日会ニ出テ日程終了ホットシマシタ。一月以来角力ヲ見タリ、クラス会ニ出タリ幸ニ元気デシタガ稍疲レマス。行クニモ帰ルニモ自動車ヲ出シテモラッテ此状態デス。此二、三日胃ガ重イ、エビオストビオフエルミンヲ飲ンデ瓦斯ガタマツタ為メト思ヒマシタガ更ニ考ヘルト毎年ノ例デ季候ノ変リ目ニ早クモ胃ニ来ルノデス。二月モ半トナリ梅ノ花モ咲キマシタカラ春ガ近ク胃腸ガ弛緩シ始メルノデス。十日程モ散歩シナイノガ残念デス。今日モ風ガ強ク止メマシタ。サテ十日会ノ帰リニ西野君モ同車シテ談ヲシマシタ。此人最近米国ヨリ帰リマシタガ米国ニテ Three Ghost industriesト云フコトヲ言フ人アリ、其一ツハ鉄道デ近頃収益少ク配当出来ズ管理放漫、日本ニ比シ汽車ヤ駅ハ汚ナイソウデス。次ニ木綿デス。綿花ハ米国ノ財源ト思ヒキヤ生産品ノ売レ口ガ減ジ農民保護ノ必要アリ、之ハ化セン発達ノ為メデショ。第三ハ石炭デス。原子力利用サルヽニ至ラバ勿論ノコト今デモ重油ニ圧迫サレルノデショ。産業界ノ変化ハナカナカ急デス。日本ノ紡績モ将来ヨヨク考ヘネバナリマセン。次ニ野火止、田中氏ノ孫ノ祝トカ御端書デ見ルト旧幕時代ノ慣例ヲ其マヽ今日マデ行ツテ居ルノデスネ。驚キ入リマシタ。農家ノ生計ハ汕断ナリマセン。今年コソ豊年デスガ不作ノ年モ来マス。然ルニ何トカ云ヒテハ餅ヲツキ、殊ニ冠婚葬祭ニ人ヲ招キ巨費ヲ投ジテハ危険千万ト思ヒマス。関東方面ニハ昔ノ風習ガ今モ行ハレテ居リ人ノ心モ改マラナイノデスネ。人ノ体面即面目ニ拘泥シテ実質ヲ忘レルナドモ其ノ為デス。此近処デ日蓮宗ト真言宗ノ寺ガ多イノヲ見ルト日蓮ノ進歩派ニ対シ真言ハ保守デス。関東ニハ保守精神ガ強イノデス。

十日会ノ席上相沢君ガ水戸名物ノあんこう料理ヲヤルト言ヒマシタガ今日ハ旧正月デ魚ガ手

ニ入ラヌト断リガ来マシタ。あんこうヲすみそデ食フガ実ニウマイノデス。其他一月二十四日菊池君ノクラスノ会ニ出タ猪ノ美味シコト忘レ難ク、今月ノ十日会ハタぎりト云フ家ニテ、松坂牛之モ大変デス、此方ハ食べ方ガ貴族的デス。以上二種ハ生レテカラ始メテノ珍味デス。長生キスレバ楽モアリマス。先日モ或人ト割勘デ一泊温泉行ノ約束ヲシマシタ。イツモノ様ニ招待サレルノデナク友達トシテ全部同格デ自由ニ行動スル為メデス。賛成者モアルラシイノデ来月ニナレバ数人デ行クデショウ。

一八五、冨永政資　宛

埼玉県大和局区内白子一三五七

（端書　三月一日）

拝啓　毎度御便リ難有存ジマス。不相変御活動大慶之至リデス。貴家ニテハ政美君前途頗ル有望、本人ノ好キナ職ヲ得テ例ノ凝リ性ヲ充分以上ニ発揚シ会社ノ為メニモ宜シク誠ニ適職デス。時世ニモ逢ヒ結構至極デス。社長ノ昔ノ経歴モ似タ様ナ処ガ有ルノデナイカト考ヘルコトモアリマス。又一家ノ空気ガ特異デ多クノ人々ヲ引付ケルノモ面白ク之ニハ奥様ノ気性モ大ニ力有リデスガ、之モ一家ノ為メニ大切ナ能力ノ一ツデス。人間ハ如何ナル境遇ニ陥ルカ知レマセンカラ敢為ノ気性ト特殊ノ能力ヲ具備スルコトハ貯金ト同様大切ナコトデス。貴君ハ大会社ノ重役社長等ノ生活トハ放レマシタ。一家庭ヲ中心ニ働ク人トナリマシタ。菊池氏モ其点デハ同様ト思ヒマス。豪奢ナ生活ハ重役ニ属シ、ツマシク細心ハ家庭ニ在リマス。一度訪問シ度イガ温カクナレバ其機会ガ出来マショウ。若鶏ノ柔カクウマイノヲ沢山一ツ鍋カラタベタイナド考ヘマス。先般小生ハ大下痢ヲヤリマシタ。一生一代ノ事件デス。二日間ニテ腹中空ニナリマシタ。薬ガヨクキヽテ治シマシタガ、爾来三日マダ通ジガナクテ困リマス。近頃食慾旺盛デ乱食雑食シタムクヒデス。コリマシタ。何デモ消化シ身ガ肥大シタト乗気ニナリマシタガ、今朝モ身ヲ撫デマワスト脂肪性デブタ太リ、ハレタル感アリ肥ヘタノデアリマセンカラ之ヨリ散歩ヲ励行シ、鍛錬ヲ再開スルト決心シマシタ。

実ハ十日会以来一回モ外ヘ出ズこたつニノミ倚ツテ日ヲ送リマシタ。併シ当年ハ珍シキ美味ニ有リツキマシタ。口福ノ年デス。最初ハ菊池君ノクラスノ会ニテ猪ノ肉ガ甚ダウマク驚キマシタ。次ニ松坂牛ノ豪奢版、其次ニ水戸ノあんこうノ共あへノ刺身、其次ハ若狭ノ鰈デス。京都デ幼時馴染ミシかれい若狭ノ産デ名物デス。西野君ガ小浜ニ工場ヲ有シ月々行クノデ送ツテクレタモノデス。味ハトモ角昔ナジミノ品デ喜ビマシタ。併シ若狭ノうるめハ鰈ヨリハ尚美味ト思ヒマス。弁当ニモ最モ多ク用ヒマシタカラ、之モ送ツテ貰ヒマス。十日会ノ後、家ヘ帰ル自動車ノ中デコノ話ガ出タノデス。同クラス会ニ往ク時ノ車中デハ阿部定一郎君ト割勘デ温泉行ノ約束ヲシマシタ、同君ハ妻ガ焼死シ自分モ火傷シタ人デス。（昭和女大デ）

上記ノあんこう料理ハ一回ノ相沢君ヨリ貰ヒマシタ。水戸ノ人デス。水戸ニ中村君ト云フ人ガ水戸ヘ来イト言ツテタコトヲ思ヒ出シテ其話ヲスルト中村君ハトウニ死ンダト云ハレテ驚キマシタ。其関係カラ観梅ニ来イト云フコトカラ相沢君ガ水戸ノ人達ニ通ジ愈本物ニナリ十一日ニ行クコトニシマシタ。併シ上野ヘ十時ニ行クコトヲシブリマスト前夜カラ我家ヘ来テ一泊セヨトナリ、其約束ヲシマシタ。僅カ四時間ノ水戸行ニ一泊トハ大変デス。併シ内デハ主人不在デ朝ネボウデ十時上野行ニ間違ヒガ出来ルト困リマス。小生今年ニナリテ鬚モソラズ十日ニ一度位デス。アマリデスカラ今日床屋ヘ行コウト思ヒマス笑ハレルデショウ。

一八六、越崎清二　宛

小樽市緑町三ノ四

（端書　三月七日）

拝啓　庭ノ梅ハ尽ガレ果テマシタ。近頃外出シナイノデ近処ノ梅ヲ見ルコトモナク日ヲ送ル中ニ季節ガ過ギマシタ。益御清栄慶賀申上マス。サテ老人ニモ夢ガ有リマス。他人ニオダテラレテ起ル夢モアリマスガ、此夏ノ北海道行キモ或ハ夢カラ実現スルカモ知レマセン。前回ハ貴宅デ御世話ニナリマシタガ、今ハオ子達モ多カラント存ジマス。ソレデ今度ハ令兄[1]達ヲ煩ハシ度イト考ヘマスガ如何デショウ。実ハ令兄所蔵ノ書画殊ニ絵巻物ヲ見セテモラヒ其中デ悠然ト眠ラバ如何、北海道ノ昔ニ返ルコトガ出来ルカト思フノデス。小生因ヨリ骨董書画ヲ解セズ、一向無風流ナレド縁アリテ多年御地ニ住セシ為メ昔ノ北海道ヲナツカシク思ウノデス。ソレデ例ヘバ本願寺上人ノ旅行ノ際ニ余市カラ海岸ヲ人ニ負ハレテ渡ルトカ札幌ニテ御酒下サレ、又ハ別院敷地見分ノ場ナドハ昔渡辺兵四郎[2]翁ノ話ニ聞イタ位ノモノヲ令兄御所蔵ノ絵デ見ラレルノデス。希ウハ日曜日緩々ト之ニ浸リ耽リ得ル様ニ日取リヲ定メ度イ。此端書ヲ書イタコトモ夢ノ実現ノ頃ニハ忘レテ居ルト思ヒマス。其頃ニハ前回ノ如ク盛田氏[3]アタリガ日程ヲ定メルト

①大正一一年卒、越崎宗一現昭生商事株式会社、常務取締役。

②初代小樽区長。

③大正一〇年卒、故盛田穣氏。元北海ホテル支配人。

思ヒマス。ソレデ御記憶ヲタヨリニ前以テ御聞キニ達シ置キマス。此端書モ夢ノワザデス。家庭デ世話ニナルコトハ恐縮デスガ、其家ノ生活ニ親シムコトモ一ツノ希望ナンデス。例ヘバ其家ノ漬物ナド特色アレバ面白イ。小樽デ小生ノ好物トナリシハ台鍋ハ別トシ、はたはた、がさえび、あんこう等当時ノ量産品デ安物デシタ。皆季節外デスガ、此様ナ趣味デスカラ御馳走ノ心配ハ御無用デス。北海道ノ野菜ガウマイカラ、ソンナモノデモ出シテ下サレバ結構デス。当年春以来猪肉、松坂牛、あんこう共あへ、若狭鰈ナドヲ得テ口福ヲ喜ビマシタガ、之ニ乗ジテ乱食雑食シテ大下痢ヲ起シコマリマシタ。食味ハ老人ノ楽シミデスガ大食ハ不可デス。ダガ又老人ニハ規制ハ窮屈デコタエラレマセン。近頃ハ底抜ケノオ人好ニナリ人ノ言葉ニツリ込マレルコトモ多ク飛ンダ失敗モヤリマス。可笑。可愛。

一八七、越崎宗一　宛

（端書　三月一九日）

拝啓　先般清二君ニ対スル書面御覧相成、之ニ対シテ御懇篤ナル御手紙忝ク拝誦シマシタ。北遊ノ節ハ快ク御迎ヘ可被下趣誠ニ難有存ジマス。最後ノ機会トシテ当夏ニハ是非トモ決行致度、希望ガ湧キ起リ戸井君等モ大イニ勧メテ呉レテマスガ老体ガ之ニ堪ヘルカガ第一条件デス。当人ハ無論アラユル場合ヲ予想シ覚悟モシテマスガ、四面ニ及ボス迷惑ハ当人ノ覚悟ノミニテハ如何トモナリマセン。先日水戸マデ参リマシタガ、案内ノ卒業生ガ出立ノ時ヨリ帰宅スルマデ絶ヘズ附キ添ヒヲ世話シテ呉レマシタ。聞ケバ其人ノ夫人ノ注意ニテ万一ノ場合ヲ慮リタル為メナル由デス。夏マデマダ時間ガ有リマスカラヨリ考ヘマス。銀鱗荘物語難有今通読中デス。畑久平一代記、昔シャモガ夷人ヲ搾取セシクダリナド最モ興味ヲ覚ヘマス。小樽ニ新人ガ頻リニ抬頭シタル頃ノ記事ヲ見レバ高橋直治翁ノ面影ガ眼前ニ現ハレマス。　頓首

銀鱗荘は先輩北海ホテル盛田専務のアイディアによる小樽の代表的観光旅館で余市に在った代表的漁場建物を移築して整備したものです。この由来を誌した銀鱗荘物語が出版されたのが昭和三十年九月ですからこの便りは翌年三月と思います。

一八八、板東虎市　宛

（封書　四月一〇日）

拝復　貴君ノ今ノ身ハ甚ダ御気ノ毒デス。昨日マデノ事ハ皆非トナリマシタ。頭山満ガ頭ヲ掻イテ逸散ニ姿ヲ消シマシタ。財産ヲ空費シ得意ヲ失ヒ残レルモノハ只自己ト後悔ノミデス。小生ハ常ニ信ジ且言ヒ来リマシタ。人間ハ先ヅ自己ノ非ナルコトヲ悟ルベシ、天地ノ間我程ノ馬鹿ハ他ニナシ、我ガ如キ馬鹿ニ生存ヲ許シ収入ヲ与ヘテ生活ヲ維持セシムル社会ヲ難有イト思フ。是ガ一。次ニ人ハ宜シク死シタリト思フベシ。死シタル者ニ苦モナク悔モナク恥モナシ、我身己ニ死シタリト思ハヾ、如何ナル艱苦モ艱苦ニアラズ、衆人ノ中ニ独立独歩シテ我ヲ主張シ得。是レ其ノ二デス。此二ツヲ貴君ハ悟ラズ反対ニ我ヲエラシト思ヘリ。是ハ十勝カ日高ノ田舎ニ生レ、周囲即社会ト云フモノヲ認メザリシ結果ナラント考ヘマシタ。或ハ又過去ニ於テ世渡リガ案外ニ出来タ為メ楽観シスギテ自惚レタノカモ知レマセン。オノレノマヅサヲ悟リシ人ニシテ始メテ他人ノエラサヲ知リ、之ニ頭ヲ下ゲルコトヲ知リマス。頭ヲ下ゲザレバ他人ハ世話モセズ相手ヲ一人前トモ認メテクレマセン。今後ハ只周囲ニ向ッテ平身低頭ナサイ。小生ハ今日迄辛ジテ生命ヲ継ギマシタ。一日一日ト生キ延ビマシタ。昨日ト一昨日ト二日散歩ニ出マシタガ、其距離ハ頗ル短カク十町ハ容易デアリマセン。昨夜モ人生ノ苦楽ニ付テ考ヘマシタ。此世デハ合理的解決ハ出来ナイカラ釈迦モ来世ヲ説イタカト考ヘマシタ。此世界ハ合理的ノミデハアリマセン。生キテ居ル間ニウマイ物ヲ沢山食フテオクベシト。是ノミ今ノ希望デス。

先生に端書一枚書くのに、どうしてもまとまらず、十枚ほど書き害う状態でした。

先生、僕も今は年をとりました。考えが変って居ります。天の将に大任を下さんとするや、と自惚れて、彼再起不可能と友に言われながら人生の再出発をしております。先生、あの世から御喜び下さい。まだ決勝点に着きませんが。

一八九、栗原寛　宛

（端書　四月一六日）

拝啓　春ニナルト温度急ニ高ク、今日ハ廿二度余、冬衣ノマヽノ老人ハ暑サニ困リマス。先日漸ク飯川君ヲ見舞ヒマシタ。先月八日退院シタノデス。其噂ハ既ニ御地ニ伝ワリ、ヨク御承知カモ知レマセンガ入院料五十万円ト聞クト、生命ト金トノ取替ヘゴトヽ云フ感ジヲ誰シモ抱キマス。併シ慶応ノ特科ハ普通ノ人ノ入院スル所デアリマセン。部屋代ガ一日三、四千円カラ九千円マデアリ、輸血シタ血ノ代金ガ十万、手術料ハ六万五千円デス。六時間半ヲ要スル手術デスガ久シク固形体ガ入ラヌノデ腸ガ癒着シ、之ヲ離スノニ最モ骨ガ折レタ由デス。年輩ノ主任医ハヘトヘトニ疲レタト申シマス。胃ハ全部取去リ、食道ト腸トガ直結シテマス。併シ生活ハソレニテ差支ナク既ニ入浴シ或種ノ魚肉モ食シテマス。唯膝ニ力ナク、起居ニ不自由デ又気

温ニ敏感デ、寒サヲ恐レル様デス。五、六月頃ニハ元気ニナリ七月ニハ小樽ヘ行キ度イト申シマス。小生モ同行スル旨約シマシタ。実行出来レバ万才デス。本人ハ頗ル明朗デ且元気デス。一面為スベキコトハ悉ク為シ終リアリ、洋服モ全部呉レテヤッタト申シマシタ。実ハ外套ナドハ重クテ着ラレヌノデ軽クシ、洋服モ新ラシク快キヲ着ル考ラシク見受ケラレマス。小生モ七月ニハ行キ度イト念ジマス。丈夫デ行ケタラ結構デスカラ無二ノ機会ト思ヒマス。併シ先日水戸ヘ参リマシタ。ソレハ相沢君ノ世話デスガ、奥様カラ老人ノ世話ヲスル上ハ一切ノ責任ガアルカラト注意サレ、相沢君ハ寸時モ離レズ注意シテ大ニ心ヲ使ヒ、見ルモ気ノ毒デシタ。老人ノ旅行ハ勿論自己ノ責任ナル事ハ自覚シテマスガ、周囲ニ迷惑ガカヽルコトハ考ヘネバナリマセン。自分デ思フヨリハ周囲ノ人ニハ一層危ク見ヘルト思ヒマス。ヨク考ヘネバナリマセン。今日ハ大正十五年ノ人々ノ卒業三十年会デス。責任ヲ以テ送迎スルト言ッテ呉レマス。

一九〇、冨永政資 宛

埼玉県大和局区内白子一三五七

（端書　四月二一日）

御端書拝見、書窓ヨリ見渡ス限リ青葉若葉ノ好季節トナリマシタ但小生ハ依然トシテ綿入レヲ着テマス時ニ暑キ日モアレバ今日ハ尚寒ク風邪ヲ案ジテ今温度ヲ計リ異状ナキヲ確カメマシタ。老人ノ身ノ哀レサデス。此端書ヲ書イタラ久振ニ散歩スルツモリデス。政美君退院スルト直チニ又元ノ生活ニ復シ出張トナリ親達ノ御心配ハ御尤モデスガ、之ハ多分医師モ承知ノ上ト認メマス外科ノ手術ハスメバアトノ回復ガ早イノダカラ心配ハアリマスマイ。但毎晩遅クナリ其上ニ時々酒宴又時ニ旅行トナレバ多忙過ギルカト思ハレマス。仕事ガ仕事デスカラ仲間内デハソレガ当然カモ知レマセン。奥様ガ疲レテ居ラレルコト充分推察出来マス。余所ノ事マデ世話シテ忙シイノニ我子ノ手術ニ心身ヲ労セラレタコトデショウ。速ニ回復ヲ祈リマス。但世話事モ少シ手控ヘスル必要ガアリマセウ。鮎ノ子ノ仕入レニ遠方マデ御苦労デシタ。マダ其上ニ再挙ヲ図ル必要ハアリマスカ。池ノ大サハ知リマセンガ邸内ノ様子デハ百カ百五十尾ガ沢山デ有リマセンカソレ以上飼ヘマスカ知ラン、泥ノ堀デ出来タ池デハ大キサガ知レマス。飼育シテ事業ニスルコト出来マスマイ。京都下鴨ノ神職ノ家デハ庭ニ池アリ鮎ガ年中泳イデマシタガ鮎ノ数ハ少シデシタ。大阪片岡氏ハ飼育ハ経費ノカヽル道楽ナリト申シマシタ。

当方ハ今チューリップノ盛リデ美麗デス其他庭桜ガ一面ニ花ヲ咲カセテマス。小生ハ全ク手ヲ出シマセンガ嫁サンハ時々近処ノ奥様達ヲ自慢デ引入レ見セテマス。近年ハばらガ主デス。其内ニ咲キ出シマセウ。向ヒノ家ハ日本橋ノ海苔屋山本ノ別宅デス。此処ハ面積広クばらガ沢山咲キソレガ見ヘマス。柿ハ御説デスガ、アノマヽニシマス。昨年長ク取ラズニ居タガ食ベテ見ルト中々美味デシタノデ、アレデ満足デス。肥料モヤリマセンカラ今年成ルカ問題デス。柿ノ木ノ下ニ北海道ノリリーガアリマス。柿ガ茂ルトドウカト心配デシタガ今年モヨク育チ既ニ特有ノ花ガ見ヘテマスノデ安心シマシタ。

一九一、蟇目英三 宛

西宮市清水町九ノ二

（端書　五月六日）

東京都大田区田園調布二ノ四〇発

拝啓　其後御音信ニ接シマセンガ御変リハ有リマセンカ。近来新聞紙上ニテ塩野義速報トカ申スモノヲ数回見受ケマシタ。面白キ広告振リト存ジ効果多カルベシト考ヘマシタガ、肝心ノ広告ノ薬ノ名ヲスグ忘レマスカラ此点ニ注意アリ度イト思ヒマス。尤モ新薬ノ名ハ記憶難キモノデスカラ小生ガ忘レルノカモ知リマセン。相場表デ見ルト塩野義ノミ割安デ七十円ニ近ク他ノ会社ハ皆高イ様デス。山之内ハ大正十年卒ノ岡田良太郎君ガ住友銀行カラ行キマシタガ今九十円マデコギツケマシタ。去年ノ秋大正十四年ノ人々ノ卒業三十年会ガアリマシタ。此会ニハ京都ノ新薬ノ森下君、あさひビールノ近藤君モ出席シマシタガ、席上小川又治君ガ中村滝ノ薬二種ヲ宣伝ニ配布シテ今回三井物産ガ経営スル由ヲ述ベマシタ。実ハ小川君ガ今社長トナリマシタ。近来此株大イニ暴騰シタノハ三井ノ声ガキイタノカト思ハレマス。其他卒業生ガ諸方面ニ居リマスカラ互ニ競争ニナルノモ已ムヲ得ナイデショウ。京都ノ新薬ガ喘息ノ薬ヲ売リ出ス由ヲ聞キ、森下君ニ頼ミ送ッテ貰イマシタガ注射薬デスノデ利用出来マセン。小生ノハマダ初期デ予防シ得ル程度ト思ヒマスノデ、服薬シテ工夫シナガラ治療シタイト考ヘテ居タノデス。尤モ喘息ニ薬ナシトハ承知シテマス。春以来次第ニ快方ノ様デスガ水ばなノ如キ啖ガ出マス。毎日午前中ハ水ばなト両方デ悩ミマス。便通アリテ瓦斯ヲ排出スルト楽ニナリマスガ、此啖ハ糸ノ如ク長クツヅキテ切レマセン。糸状菌デナイデショウカ。小生ノ考ヘデハ眼ノうみガ下ニ垂レテ口中ニ入リ此啖トナルノデナイカト疑フノデス。眼ニハやにガ出ルノデス。

塩野義製薬㈱の広告と株価に格別の御関心を示されております。当時製薬会社に関係ある同窓生の事にも及んでいます。

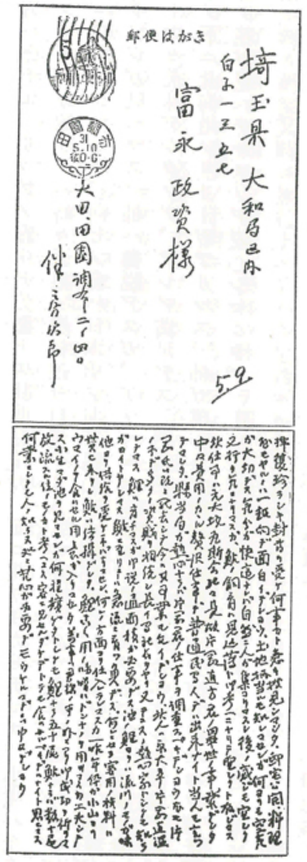
京都・日本新薬㈱社長　森下　弘氏（T一四）
東京・中村滝製薬㈱社長　小川　又治氏（T一四）
東京・山ノ内製薬㈱専務取締役　岡田良太郎氏（T一〇）
伴先生の病状は肺気腫のようにも思われました。

一九二、冨永政資　宛

埼玉県大和局区内白子一三五七

（端書　五月一〇日）

拝復　珍ラシキ封書ヲ受ケ何事カト急キ拝見シマシタ。邸宅公開、料理屋モヤルノハ一趣向デ面白イデショウ。土地柄当ルモ知レマセンガ何ヨリモ空気ガ大切デス。気分ガ快適ナレバ自然ニ人ガ集マリマスシ後ノ感ジモ宜シク又行ク気ニナリマスガ、鮎ノ飼育ハ見込薄ト御考ヘニナリテ宜シクト存ジマス。此仕事ハ元大阪瓦斯会社々長故片岡直方君ノ畢世ノ事業デシタ。中々費用ノカヽル贅沢仕事デ普通民間人デハ出来ナイト当人モ言ツテマシタ。県当局ガ熱心ナラバ片岡君ノ仕事ヲ調査スベキデショウ。尤モ片岡氏ハ既ニ死去シテ今ニ其事業モ無イデショウ。此人ハ京大卒片岡直温ノ子デ多クノ資財ヲ相続シ長イ間社長ヲヤリ又テニスノ熱心家トシテモ知ラレテマス。鯉ハ育チマスガ御説ノ通面積ガ必要デス。池ノ鯉ヨリハ流川ノモノガ味ガヨイト申シマス。鮎ニ至リテハ急流ニ育ツ魚デス。何レニセヨ客用ノ材料ハ他ヨリ供給ヲ受ケネバナリマセン。何レノ方面ヨリ仕入レラレマスカ、一昨年伴ガ小山ヨリ貰ヒ来リシ鮎ハ結構デシタ。鯉こく用ノ味噌ハドンナノヲ用ヒマスカ、工夫シテウマイノヲ食ハセル用意ガ入リマセウ。万事ハ奥様ノ手ノ内ニアリ御成功ヲ祈リマス。小生マダ池ヲ見マセンガ何程拡ゲタトシテモ鯉ナラ五十尾、鮎ナラバ数十尾放流スル位ノモノカト考ヘマス。客ニ見セルダケデトテモ食ハセルベキデハナイト思ヒマス。何業ニシテモ人ノ知ラヌ処ニ苦心ガ必要デ、モウケルマデニハ中々デショウ。



一九三、蟇目英三　宛

大阪市東局区内道修町三ノ一二
塩野義製薬株式会社

（端書　五月一四日）

東京都大田区田園調布二ノ四〇発

拝復　細々トノ御返事ヲ早速ニ頂キ難有存ジマス。御尊父様モ同様ノ症状ナド思ヒモヨリマセンデシタガ喀啖ノ様子ナドハ大ニ相似タリデス。塵紙デ間ニ合ハズ、新聞紙ヲ用意スル点ナド必要ニ出ヅルコト故全ク同然デス。自分ヨリモ人前ニ恥ジマス。殊ニ若キ婦人ハキタナガリマスノデ始末ニ悪イデス。道路ニ於テ啖ガネバツキテ切レヌ時ニハ通行人ヤ子供ノ眼ニ付クト思ヒ急ギマス。或時咳ヲスル内ニ力ガ抜ケタ様ニ思ヒ之ハ心臓ニ宜シクナイト感ジマシタ。併シ今ノ処心臓ニハマダ影響ナイト心得テマス。糸状菌ハ眼カラ来ルノデナイカト疑ッテマシタ。近来膿状ノやにガヨク出マス。併シ最近放送デ聞キマスト蓄膿症ハ眼ノ上ニモアルソウデスカラ其膿カモ知レマセン。ペニシリン注射ハ必要カト考ヘマス。使用シテ効果アル様ニ祈リマス。一昨年妻ノ死後、小生モ病気ニテ臥シ引続キ一年以上医師ニカカリ、東京御支社ノ御世話ニテ大学病院ヘモ二度行キレントゲンモ取リマシタ。肺ノ右ノ一部ニ故障アリトデシタガ、此症ハ小サクテ進行モセズトノ事ニテ今年正月カラ今マデ医師通ヒセズ、其内一寸見テモラウツモリデ居リマシタ。毎朝食事ノ後正午過ニ便通ガアル点ガ不快デス。前夜来瓦斯ガタマリ居ル処ヘ牛乳一合飲ミタル上ぱん食ヲシ、其際ニ紅茶ヲ二合程モ飲ミマスノデ鼻液ヤ啖ガ瓦斯ニ推上ゲラレテ出テ来ル様ナ工合デムセブノデス。正午過キニハ全ク不快ヲ忘レル様子デス。

七月ノ北海道行ハ行キ度イノハ山々デス。一生ノ思ヒ出デスカラ心ハアセリマス。併シ無論止メル人モアリマス。老人達ハ不賛成デス。然ルニ一部有志ハイヤオーナシニ引張リ出スカモ知レマセン。七月モスグ来マスカラ、決定ヲ急ガレテ心ガアセリ出シマス。

「大阪カラモ今ツキマシタ。京都カラ薬ガ来マシタ」

私の父も伴先生と同様の症状でした。父の来阪を機会に診断を受けさせた大阪中の大病院は何れも喘息性肺気腫といいその対策を構じて煙草もやめる事をすすめました。この診断にあきらめ切れぬ私は西宮の一開業医を訪問して相談した所喀啖検査をしてその結果葡萄球菌のある事を認めてペニシリンで治していただきました事をお伝えしました。

京都カラ薬ガ来マシタとは日本新薬㈱の森下弘社長から送られた薬の事です。

一九四、越崎清二　宛

小樽市緑町三ノ四

（端書　六月一四日）

拝啓　予定ノ七月七日①ハ追々近付キマスガ、寄宿舎焼失ト云ウ事件ハ重大視セザルヲ得マセン。悪イ時ニ起ッタモノダト存ジマス。学生達ノ士気ニ影響アリト存ジマス。緑丘会員トテモ

①小樽商大開学四十五周年記念式当日。

今ハ直接ニ関係ナクトモ第二出身ノ人ハ他ノ寮ヨリモ多イノデス。此人達ノ人気ハ如何デショウカ。此際ニ及ビテハ予定ヲ変更スルコト困難ト云ウノデ萬事其侭進行スルノデスカ。御観察ノ次第至急御一報ヲ願ヒ度ク存ジマス。多数ノ人ノ中ニテ貴君ノ御立場ヲ考ヘテ特ニ此事ヲ御願ヒスルノデス。参議院ノ選挙ガ翌日ト云ウコトモ決シテ都合宜シクハ有リマセン。之ハ予期シタコトデハ有リマセンガ、関係者ハ奔走シテ多忙ト存ジマス。飯川理事長ハ大手術ノ後郷里須賀川ニ帰リ静養中トノ噂アリ、ソレトノミ信ジテマシタノニ、意外東京ニ居リ去四月愛嬢[2]ノ結婚式ヲスマセ親ノ役目ヲハタシテホットシタトテ来月ハ是非御同道致シマショト申シマシタ。寄宿舎ノ件ハママダ子息カラモ聞イテマセンデシタ。

一九五、小貫武宛

（門司絵葉書　六月十六日）

御機嫌宜敷賀シ上マス。此度老漢ノ引続キ旅行ニ出発並ニ帰着ノ責任者トシテ奥様トシテ、寸分ノ隙モナク御ツトメ被下候御好情、厚ク御礼申上マス。飛行機ト自動車ニテ疲レル筈ナシ、ト存ジマシタガ、流石ニ疲レマシタ。今朝漸ク一、二礼状ヲ認メテアリマシタ。御暇乞ト云フコトハ自分デモワカリ、何処デモ申シマセンデシタガ、年モ年ナリ、考ヘ直スト人々ノ対面モ応接モ、悉ク深ク意味アリ、肝ニ銘ジマス。若返リ位ノモノデハアリマセン。長イ間種々オ世話下サレ誠ニ難有存ジマス。乍略儀御礼申上マス。

②現在埼玉県坂戸町・坂戸中央病院関根副院長夫人。

③七月六日北海ホテルでの祝賀会に出席された御両人をカメラに収めた私の記念アルバムには、伴先生の次のスピーチが記されてある。

「私が校長に就任した途端に世の中が不景気になる。私が辞めるとまた景気が良くなる。実に苦労を致しました」

「道産ん子」である家内の最も楽しみの一つは北海道へ渡ることでした。折も折先生のお供には看護婦的要素を必要としたものです。不充分だったでせうが先生もお悦び、家内も楽しみ、そしてアノ洞爺丸大禍を免ぬかれたのですから慶びこれに過ぐるものはありません。よいことをしたと思っております。

一九六、越崎宗一宛

（端書　六月二九日）

御書面忝ク御礼申上マス。好意アル人ノ熱心ナル勧誘ト尽力トニ動カサレマシタ。其上内部ニハ伴夫婦外ニハ医師ガ勧メマスノデ、終ニ神輿ガ動キ始メマシタガ飛行機便デ往復一週間トナルト大ニ勝手ガ違ヒテ宿意ヲ果スコトガ出来マセン。個人的対面デ平生ノ情ヲ叙ブル暇モ有リマセン。又若手諸氏ノ中ニ交リテハ老人ノ歩調（あしなみ）ガ合ハズ不便ト手数ヲ煩ハシ、御地ノ人々ニハ一段ト御世話ニ相成リ心外ノ至リデス。宜シク差控ヘルベキデ有ッタカト後悔ノ念モ湧キマス。併シ小生トシテハ多数ノ人々ノ好意ヲ感謝シ御暇乞ノ旅ダト思ヘバ又ナキ機会デス。何程長座シ何程語リタリトテ名残リハ尽クベクモ有リマセン。健康モ油断ナリマセンカラ少々早目ニナリテモ無事ノ内ニ切リ上グルガヨイカト思ヒ直シモシマス。凡テハ着ノ上成リ行キニ任セテ行動スルノミト考ヘマス。折角御好意ノ思召ニハ成ルベク添イタイ。窮屈ノ中ニ自恣モ欲スル所デスガ、我意ノ振舞ハ慎ムベキト心得テマス何分其都合デ宜シク御願ヒシマス。

小町谷純氏は小樽の弁護士で先生在樽時代には交友を厚くし特に碁をよくうたれた。晩年東北帝大教授をしておられた御子息小町谷操三氏の許に移られたが、この手紙によればこの年春更に東京へ移られたことが判ります。

小町谷老此度子息ノ退職ト共ニ東京ノ新邸ニ移リ来ラレテ四ケ月ニナリマス。小生マダ訪ネズ氏モ来ラレマセン。今ハ痢病ヲ発シタル由、先日端書ヲ差出シ詑ビマシタガ其文ニ曰ク遠クテ近キハ男女ノ道ト言フガ、近クテ遠キハ老人ノ交ハリカト思ヒマス。折角上京セラレテ却テ仙台ヨリ遠キ心地シマスト蓋一面ノ道理アリ、今度小樽ヘ飛ブノモ遠方却テ近シデス。

王曰、叟不遠千里而来、亦利吾国乎、孟子曰、王何必言利、只有仁義耳、千里ヲ飛ブヲ快挙トスレバ只平生ノ好意ニ酬ヒシトスルノミト言フモ快デショ、何ゾ身ノ苦ト老トヲ言ハシ、小生ハ期セズシテ人ノ好意ヲ得マシタ。其上学校ノ盛時ニ会シ多クノ人々ノ成功ヲ見ルハ実ニ吾幸ヒデ長生キノ得デス。

一九七、越崎宗一宛

（端書　七月一七日）

拝啓　御多用中ヲ此度モ何呉レト御好意ニ預カリ感謝之至リデス。何処デモ貴君ノ声ノ聞ユル処ハ朗カデス。朝里温泉ハ兼々噂ヲ伝ヘ聞イテ居リマシタ御案内ヲ頂キ、一浴シテ御馳走ニナリ美人ノ中ニ歓談スルハ老人ニモ稀有ノ機会デアリマシタ。北海ノ天地ハ到ル処、野草ヤ稚木ノ生スルニ任セ開拓ヲ待ツト云フ風景ニテ、何カ余裕綽々タルヲ覚エ人ノ心ガ寛ヤカニナリマスガ朝里温泉モ新天地デアリマシテ、今尚俗塵ヲ絶ツヲ感ジマス定山渓ハセヽコマシク思ハレマス。帰京之後彼レ此レト回顧シテ身ノ仕合ハセヲ思ヒ感謝シマス。御話ニモ出マシタ様ニ能登ノ七輪、戦火御見舞ノ衣料其他著書等々御好意ノ数々悉ク御心ノコモリタル御好意デス。一両日御宅ニ参リ蒐集品ヲ拝見シ度イト念ジマシタガ之ハ慾ガ深過ギマス事情ガ許シマセンデシタ。帰来身ニ疲労ヲ覚ヘ御礼状モオクレマシタガ、心ノ活動ハ活発デ正シク若返リタイト申

母校記念式で御滞在中に一夕、盛田専務と相図り先生を開業早々の朝里川温泉本湯ホテルへ御案内しました。その折支配人のママさんが昔その名をうたわれた名妓で先生とも旧知だったので大変話がはずみ先生も大層御機嫌でした。

最後の二通は母校四十五周年記念式御参列の前後の通信である

シテ可ナリト存ジマス。旅ハヨキモノ殊ニ好意ニ迎ヘラル、ハ難有モノト喜ンデマス。

一九八、木村慶七　宛

（端書　七月二二日）
東京都大田区田園調布二ノ二四〇発

拝啓　先日ハ山形屋ニ御集リ下サレ引続キ種々御配慮ヲ被リ難有存ジマス。乍延引厚ク御礼ヲ申上マス。

貴君ニハ実ニ久振ニ御面会ヲ得テ、大ニ懐シク存ジマシタ。天地ハ日々ニ変化シマス。殊ニ戦争ヲ経テ社会ハ一変シマシタガ、イツモ昔ハナツカシイノデスガ知人ニ対面スルト、一時ニ様々ノ事ガ思ヒ出サレマス。頭ハ稍白ク既ニ停年ヲ過ギラレタノデスガ、元気ハ旧時ヲ凌グ有様、只今何職ヲヤラレルカ存ジマセンガ、頗ル結構デス。小生モ割合ニ元気ノ上、今度ノ旅行ニ依リテ若返ルツモリデシタガ、帰京シテミルト暑サガ加ハリ一枚ノ礼状ヲ認メルコトモ大儀ニナリ、今日ニ及ビマシタ。御許シ下サイ。七月末ハ長雨ノ為メ土地ノ湿気多ク、暑気一層強イノデス。八月ニハ涼気ガ催シマスノデ、ウント奮発シ回復シタイト希ヒ居リマス。頓首

一九九、有我栄一　宛

（端書　七月二五日）
東京都大田区田園調布二ノ四〇発

拝啓　先般ハ御世話様ニ相成リ、誠ニ難有御座イマシタ。御蔭ニテ旅中ノ一夕ヲ愉快ニ過シマシタ。名簿デ見ルト北海道ノ各地ニ緑丘会員ガ隈ナク配布サレテ居マス。ソシテソレソレ重要又ハ意義アル地位ヲ占メテマスノハ壮観ト申スベキ点モ有リマス。流石ニ旧高商ノ使命ト之ヲ認識シテ努力セラレタル創立時ノ校長渡辺氏ヲ想ヒ起シマス。今度ノ選挙デハ此事実ガ充分ニ苦米地氏ノ為メニ効能ヲ発揮シテ首席当選トナリマシタ。今札幌ニ在ル緑丘会員ノ数ハ遙ニ小樽ヲシノグ由承ハリマシタ。其多数ノ人々ガ如何ナル仕事ニ従事シテルカ一寸想像モ出来マセンガ各自意義アル職業ヲ有シテ働クコトハ申スマデモアリマセン。実ニ以テ心強ク又頼モシキ次第デス。山形屋ニ集マリシ人々ニ依リテ其状況ヲ想見スルコトガ出来ルト考ヘマシタ。地方ハ地方デ東京トハ全ク異ナル様相ヲ呈シテ居ルノガ甚ダ面白キ点デモアリマス。扨小生幸ニ

御覧ノ如ク元気ニテ旅ヲ終リマシタ。若返リコソスレ疲労ナドスベシトハ思ヒマセンデシタ。帰京ノ後モ疲レタト云フ感ジハ毛頭モ起リマセンガ先ツ御礼状ヲト思ヒテ机ニ向ヒテモ字ヲ書ク気ニモナレマセン。

妙ダト考ヘマシタガ、ソレガ疲労デシタ。漸ク昨今ニ至リ其事ガワカリマシタ。老人ノ意気地ナサヲツクツクト感ジマス。此状延引右ノ如クデス御承知下サイ。

二〇〇、服部兵吾　宛

（端書　八月一三日）
名古屋市中川区花池町二ノ五六　東京都大田区田園調布二ノ四〇発

暑中御見舞被下難有御礼申上マス。先般来ノ酷暑ニハ全ク参リマシタ。此身ノ抵抗力ガ尽キルトキハ即娑婆ノ見納メト覚悟シマシタ。実ニ只息ヲスルダケデ思考力モナクナリ北海道ノ旅ノ礼状ガ一日一枚ヨリ書ケマセンデシタ。両三日前涼気一服稍生気ヲ取戻シマシタガ、昨今残暑又強ク用心シテマス。冬ニナレバ反対ニ寒サヲ思フトイヤニナリマス。併シ各地デ多クノ人々ノ好意ヲ受ケルノハ実ニ小生ノ幸福デアリマス。アマリ人ノ親切ニ狎レ過ギナイ内ニ遠慮スル気デ居マスガ、適当ノ時期ニ善処スルコトハ人間トシテ甚ダ困難デス。此点デ小生ノ過去ハ悔ナキモノニ近シト思ヒマス。併シ体力次第ニ衰ヘ諸ノ機能モ低下スル有様ハミジメナモノデス。如何トモナラヌコトデスガ恥カシイデス。但病人ヨリハマシデス。小樽デ寿原英太郎氏ヲ訪ネマシタガ半身不随デ不便デス。通信ガ書ケヌノデ困ルト申サレマシタ。此人ハ習字ニ勉メ字ノ上手デスノニ書ケヌノハ残念デショウ。高島氏ガ講義出来ルノハマダ仕合ハセデショウ。知人中眼ガワルク視ルコト出来ヌ人二人アリマス。之モ困リマス。只小町谷老ハ八十九カ九十歳デスガ元気デス。最近元気ナ筆ダト報ジテ来マシタ。其意味不明デスガ生命ニハ別状ナシトアリマス。元来用心深ク保養ニ注意スル人デスカラ小生ヨリ七ツモ上デモ此通リデス。最後ノ思ヒ出ニ郷里ヘ今一度行キ度イト希ヒマス。途中下車シツツ、緩々ト行ケバヨイト考ヘマス。特急ナラバ楽ナ筈デス。静岡名古屋デ一泊ト定ムレバ楽々ト行ケルト考ヘマス。或ハ池田ヘ飛ブノモヨイデショウ。併シ東京市中ハウカツニ出ラレマセン。自動車ノ交通地獄ガ恐ロシイ。併シ徒歩モセネバ用事ガ足セマセンデス。

二〇一、有我栄一　宛

（端書　八月二〇日夕）
東京都大田区田園調布二ノ四〇発

拝啓　開発白書ニ添ヘテ貴君ノ論文ヲ掲載セル北海評論二部御送付被下難有存シマス。御好情御礼申上マス。小生ハ経済ニハ疎キモ現下ノ我国ノ経済事情ハ悉ク手近ノ問題デ将来ヲ思ヒ期待ト憂慮トヲ抱キマス。瓦斯工業ハ大ニ発展セシメ度イモノデス。其原料瓦斯ノ存在量等御説明ニ依リ初メテ詳細ヲ知リマシタ。いかハ日本ノ漁業ノ大生産物デ獲レル以上ハ価格ヲ維持シ販路ヲ拡ゲネバナリマセンガ、小生ハ一面其生産量ヲ維持出来ルカト心配シマス。全体トシテ日本ノ漁業殊ニ漁民ノ将来ハ大問題デアルト存ジマス。農村人口問題ヨリモ重大デアル ト思ヒマス。漁獲方法ガ発達スレバ沿岸漁業ハ不振トナリ、漁民ガ食ヘナクナルコト明瞭デスガ、此大人口ヲ如何ニ救フカ将来ノ最大問題デアリマショ、漁民ノ移民ト云フ考モ出テ来マショ、彼等ハ海ヲ忘レルコト出来マセン。一面工業方面ヘ吸収シタイガ工業モソコマデ発展スルコトハ容易デアリマセン。小生独乙留学ノ頃其工業発達ノ為メ米国ヨリ移民ガ逆ニ帰リ来マシタガ、日本デハソンナコト考ヘモ及バヌデショウ。経済ノ事ニ携ハル人々ノ任務ハ益々重大デス。御自愛ヲ祈リマス。東京ハ此頃少シク涼シクナリ小生モ生気ヲ取戻シマシタ。辛シテ生命ヲツナイダダケデシタ。

二〇二、有我栄一　宛

（端書　八月二三日夕）
東京都大田区田園調布二ノ四〇発

御端書拝見シマシタ。重ネテ書籍御寄贈ノ御好意ヲ謝シマス。今モ繙読シテ居リマス。御引用ノ詩句ヲ書イタコトヲ思ヒ出シマシタ。桃花ノ詩デス。桃ノ花ハ厚手デ色彩モ濃ク腐朽スルノモ遅ク紅ノ色ヲ水ニ泛ベテ流ルヽノデ終ニ桃源郷発見ノ端緒ヲ開キシコト御承知デショウ。桜モ落花水ニ随ッテ流ルヽコトモ多イデショウガ支那ニハ桜ハ有リマセン。ソレハサテ措キ上ノ句ニハ必要アリマセン。意ハ下ノ句ニ在リ事業成功ノ容易ナラザルヲ思ヒ浮気心ヲ戒ムルツモリデ書イタノデショ。誰ノ詩カ記憶シマセン。大正十五年ノ人ノ為メニハ蘭菊異芬ト書キマシタ。蘭ト菊ト其他百花ハ皆其形ヲ異ニシマスガ、各ソレソレ芳香ヲ放チマス。卒業生達ハ人柄モ気風モ様々デスガ、必ラズ何カ特異ナ優秀ノ面ヲ有スルモノデス。ソレヲ古人ガ蘭菊異芬

先生のお閑の折に御覧願うつもりで北海道開発白書と、同年四月号の北海評論（小生論述の〝アメリカの天然ガス企業とドイツ石炭化学工業の紹介〟を登載）及び同誌六月号（小生論述の〝天然産物需給調整の一文、大漁貧乏解消論、いかとその各種製品の流通についての第一編〟を登載）をお送りしたのに対する返信で、漁民の将来を憂慮し、また更に我国の工業発展のテンポに対する御感想と経済人に対する強い期待とを述べておられます。

前掲「一九九」下欄所載の山形屋旅館のお書簡（昭和八年）に先生にお目にかかれたのは、一片の随筆流水去バ知ラズ」と題して、アルバムに伴ふ一歳長私は開発白書ニ添ヘテ貴君ノ論文ヲ掲載セル北海評論二部御送付被下難有存シマス。御好情御礼申上マス。小生ハ経済ニハ疎キモ現下ノ我国ノ経済事情ハ悉ク手近ノ問題デ将来ヲ思ヒ期待ト憂慮トヲ抱キマス。瓦斯工業ハ大ニ発展セシメ度イモノデス。其原料瓦斯ノ存在量等御説明ニ依リ初メテ詳細ヲ知リマシタ。いかハ日本ノ漁業ノ大生産物デ獲レル以上ハ価格ヲ維持シ販路ヲ拡ゲネバナリマセンガ、小生ハ一面其生産量ヲ維持出来ルカト心配シマス。全体トシテ日本ノ漁業殊ニ漁民ノ将来ハ大問題デアルト存ジマス。農村人口問題ヨリモ重大デアルト思ヒマス。漁獲方法ガ発達スレバ沿岸漁業ハ不振トナリ、漁民ガ食ヘナクナルコト明瞭デスガ、此大人口ヲ如何ニ救フカ将来ノ最大問題デアリマショ、漁民ノ移民ト云フ考モ出テ来マショ、彼等ハ海ヲ忘レルコト出来マセン。一面工業方面ヘ吸収シタイガ工業モソコマデ発展スルコトハ容易デアリマセン。小生独乙留学ノ頃其工業発達ノ為メ米国ヨリ移民ガ逆ニ帰リ来マシタガ、日本デハソンナコト考ヘモ及バヌデショウ。経済ノ事ニ携ハル人々ノ任務ハ益々重大デス。御自愛ヲ祈リマス。東京ハ此頃少シク涼シクナリ小生モ生気ヲ取戻シマシタ。辛シテ生命ヲツナイダダケデシタ。

各有芳ト申シマシタノヲ書キマシタ。同年卒業生西田英夫君ハ富山県人デ不二越製鉄ニ勤メマシタガ、此会社ハ一時頗ル花ヤカニ栄エマシタガ終戦ト共ニ蹉キマシタ。爾来大ニ苦心シテ今ハ鋼材工業ト称シ経営漸ク立直リシ由デス。此人戦火ニテアルバムモ焼ケ亡セマシタガ、右ノ蘭菊ノ文句ヲ記憶シ今一度改メテ書イテ呉レト望マレマシタノデ再ビ拙キ筆ヲ以テ書キ認メテ送リマシタ。蘭菊異芬各有芳ノ句ハ甚ダ適切ト今モ思ヒ居リマス。序ニ申送リマス。頓首

二〇三、冨永政資　宛

（端書　八月二三日）
埼玉県大和局区内白子一三五七

拝復　先日ハ重イ西瓜ヲ遙々御持参被下恐縮至極デス種ナシハ珍ラシク伜夫婦ト共ニ喜ビテ頂戴シマシタ。相当甘味モアリ第一新鮮ナノガ小生ニハ最モ気ニ入リマシタ。其前ニ食ベタノガ棚落デシタカラ一層其点ヲ感ジタノデショウ。久振リデシタノニ御粗末失礼御免下サイ。留守中ノ事仕方アリマセン。其後木村サンハ稲垣芳雄君ト角谷与之松君同伴自動車デ来マシタ。稲垣君ハ自動車販売シテマスカラ其車デ来タノデショ。角谷君ハ初メテ来宅シマシタ。訪問モ面会モ卒業以後初メテデス。昔話ヲイロイロシマシタ。木村氏ノ眼ハマダ相当ヒドク単独デハ出歩クコト出来ヌラシク。国許デハ矢張畑ナドヤリ居ルラシイ、大分長ク話シマシタガ時間ノ割ニ小生ノ頭ニ残ルコトハ有リマセン。死ンダ同僚ヤ病気ノ友人ノ話ナドデシタ。当方女中一週間ノ休ミヲ得テ国元ヘ帰リ嫁ハテニスノ仕合ニ軽井沢ヘ行キマシタ。家政婦ト小生ガ留守番デス。テニスハ仕合ノ都合デ帰宅ガオクレ女中ハ婚礼ガアルトテ二日遅レ明二十四日頃皆一度ニ帰宅スルコトニナリマショウ。急ニ寒クナリ軽井沢デハ驚イタカト思ヒマス。小林教授ガ英語学ノリズムト云フ六ッカシイ著書ヲ送リ呉レマシタ。全ク素人ニハワカリマセン。札幌カラハ開発計画ノ書物二三種送リ呉レ、ソンナモノヲ読ミテ時間ヲ消シマシタ。田中実君ハ上海帰リデス。英語ガ得意デ上海デハ活躍シタト云フコトデスガ引揚者トシテ職業ナク所謂三文新聞ヲ出シテ憶面モナク同窓カラ金ヲ集メマス。人間ハ純真デ厭フベキデハ有リマセンガ、其為ス所ハ面白カラズ今度ハ小樽マデ出カケ学校ヤ友人ノ事ナドヲ書キ矢張リ金ヲ集メタラシイ苦々シイガ、ヨセト云ヘバ食ヘナクナルノデ黙視シテマス金ヲ出サヌトスグニブツカリ来マス。大勢ノ中デ少数ハヤムヲ得マセンカナ。

べてみます」といわれた。私は恐縮の極みと、御辞退申上げたのです。しかるに、先生はこれをお忘れなく御帰京後、わざわざ御説明の労を賜わったのです。

同文に書き添えてくださった「蘭菊異芬各有芳」のすぐれた古諺を今日この書を通して大正十五年以外の卒業年次の方々にも知っていただくことは、思わざる賜物だと思っています。

胃袋ナキ飯川君ハ矢張リ元気デス。理事長ヲ退キ佐々木周一君ニ渡シマシタ。其受渡ハアザヤカニ行ハレマシタ。此人ニハ何カ眼立ツ仕事ヲシテモライ度イト希ヒマス。東京支部長モ上村甚四郎君ニナリマシタ。ドチラモ六カシイ地位デス。御営業ハ閑ナルコトアリ忙シキコトアリデスカ。其ノ内ニ忙シキ日ト閑ナ日トノ見当ガツク様ニナルノカモ知レマセン。池ノ水ノ温度ハ池ノ深サト関係ガ有リマセウ。貴君ハ小池飼育ノ試験ノツモリデヤルコトデス。小生ノ考ヘデハ少クモ四五〇坪ノ池ガ頭ニ来マス。京都下加茂ノ神官ノ家ハ何処ヲ堀リテモ鴨河ノ水ガ出ルノデ百坪余ノ池ガ出来テマシタ。貴宅ハ湧泉デ滝ニナルカラ面白イデス。更ニ利用方法ヲ考ヘラレタラヨイデショウ。近頃ハ中小企業方面ニモ大分ウルオイガ廻ツテ来タト云フコトヲ諸方カラモ聞キマス。

二〇四、冨永政資宛

埼玉県大和局区内白子一三五七

（端書　八月三一日）

拝啓　明日ハ二百十日、窓前ノ陸稲ニハ穂ガ見ヘ相デス。サテ前便御申越ノ件御親切ニ難有存ジマス。一家打揃ヒ盛業ノ模様ヲ見ニ行クコトハ大ナル愉シミデスガ、伜ノ自動車ハゴルフニ行クトキニハ附近ヲ通過シマスガ帰路ハ別ニナルソウデス。往キハ会社カラ出ルカラソウナルノデス。小生ハ独リデ電車デ行ケルト思ヒマス。ソレデ先ニ行キ幾時間カ談話ヲシテ居ルト、ソコヘ嫁ガ来テ伴レ立チテ帰ルト云フコトニシタラドウカト思ツテマス。御事業ノ宣伝効果ニハ伜ガ参ツタ方ガ宜シイガ、ソレハ又機会ガ有ルト思ヒマス。但小生此頃腎臓病デス無論慢性デス。恐ラク発病ハイツカワカラヌ程古イノデショウ。半年程前ニモ脚ガムクミ歩行ノ際足ノ裏ニ変ナ感覚ガシマシタ。脚気位カト当時ハスマセマシタガ此頃其むくみガ目ニ立チ検尿スルト蛋白ガ沢山出マス。老人ニ通有ノ腎萎縮デスカネ、今医師ニ通ヒ服薬シテマスガ若イ人ノ急性ノ場合ノ如ク食養生モ八ケ間敷言ハズ全治ナド期シモセズ、病人ノ心組デ居ル程度デス。ソレデ肉ハ控ヘマスガ強イテト云フ程デアリマセン。十日会ニハ出テウント食フツモリデス。鰻ハ一度食ベ度イト思ツテマス。生命モ左程ニ惜カラズ覚悟ハシテマス。併シ長生キスル方ガ宜シイシ新シキ物ニ接シ、殊ニ甘イ物ハ結構デス。最後ノ場面ハ淋シイガ知人友人ノ多クハ既ニ過ギ去リマシタカラ番ガ来レバ仕方ナイ唯尿毒症状ハ感服シマセン。

郷里ハ後モ前モ池デス池ノ中ヲ貫ク陸地ニ家ガ在ルノデス。其ノ池ガ両面トモ蓮池デスカラ幾百町歩モ有ツタデショウ。村有池モアリ私有モ官有モアリマシタガ花モ根モ取リ次第デス。盆ニハ村民ガ勝手ニ取リテ売リ出シマシタ。夕立ガ降ルト蓮葉ニ雨ガ叩キ大キナ音ヲ出シマシタ。蓮ノ花咲ク夏ニハ毎日池ニ注グ小流ニテ魚ヲ釣リマシタ。休暇中ノ日課ノ如クデス。今此池ハ水田トナリ蓮ハ少ク小流ハ水流レズ汚ナキ溝ノ如クニナリマシタ。嗚呼年若カヽリシ頃ヲ思ヒ出シマス。幼年ノ頃自由自在ニ野ヲ走リ廻ハリ日ガ暮レテモ遊ビニ呆ケテ帰ルヲ忘レシコトヲ、街ニハ近ケレドモ家ハ農村ノ農家ニテ娯楽ハ少ク単純ニ毎日同ジ様ニ日ヲ暮シマシタガ心ニハ何ノ屈託モナク、人間ノ成長ヲ妨ゲルモノハ一ツモ有リマセンデシタ。

二〇五、越崎清二宛

小樽市緑町三ノ四

（端書　九月一日）

拝復　去七月九日渡辺君①ト共ニ星風亭ヘ御来訪下サレシ節ノ写真、渡辺君ノ依頼ノ由ニテ御送付被下到着拝見仕リマシタ。此道ニハ全然素人ノ悲シサ腕前ノ批判ハ出来マセヌガ記念品トシテハ誠ニ結構デス。当時ノ雰囲気ハ充分ニ現ハレ居ルコトヽ存ジマス。渡辺氏宅ヘハ在校中一度訪問シテ棋ヲ打チシコトモ有リマスノデ父君②ノ気質モ存ジ居リマスガ、朝里温泉ニ乗リ出シテ御成功ノ由承ハリ又同温泉浴室ニテ暫時御話ヲ致シマシタ。小生ニハ同温泉ガ大ニ気ニ入リマシタ。追々繁昌ノ様子目出度存ジマス。小生近頃少シ異状ヲ感ジマシタ処、脚部ニむくみガ見、医師ニ診察ヲ受ケマシタ。蛋白ガ尿ニマジリ腎臓萎縮ノ老病ラシイノデス。併シソレハ既ニ久シキモノデスカラ驚キマセン。唯家族ガ食事ヲ八ケ間敷申スノデ困リマス。当人モ尿毒症ト云ウ躰裁ノ宜シカラヌ死因ヲ思ウト不愉快デス。御礼ヲ申上マス。床ノ間ノ懸物③ハ小生ノ筆デス。盛田氏ノ為メニ古人ノ詩ノ中カラ撰ンデ書イタモノデス。

二〇六、冨永政資宛

埼玉県大和局区内白子一三五七

（端書　九月一三日）

拝啓　イツシカ九月ニナリ台風モ無事ニ過ギテ涼シクナリマシタガ長イ間便リモシマセンデ

①昭和一一年、同期渡辺一夫君。兵四郎翁は祖父に当る。現在小樽潮陵高等学校教諭。

②渡辺俊朗氏。

③故盛田氏秘蔵の懸軸二幅。

シタガ、ソチラカラモ近来端書ガ来マセン。景気ハ如何デスカ。小生ハすねガ腫レ検尿ヲスルト蛋白ガ出ル、又近処ノ医師ニ見セルト肝臓肥大トノ事此方ハ慥カニ覚エガアリマスカラ療法ヲセネバナラヌガ近頃ハ何事モ面倒ニテイヤニナリ肝臓ノ薬ヲ服ンデ自宅療法ヲヤツテマシタガ、ヤハリ不安デスカラ又医師通ヒヲシマス。七、八月以来端書一枚ガ中々書ケナイノデ諸方悉ク御無沙汰デス。十日会ガ般若苑デ有ルノデ出席シテ気分ヲナホスツモリデシタガ車ノ都合ガ変ニズレタノデ終ニ欠席シマシタ。来二十日ニハ満八十二歳ニナリマス。ソレハ満足ニ思ヒマスガ祝ノ膳モ食慾ナキ故アマリ気ガ進ミマセン。家人ガ其日ヲ忘却シタラ、ソレニ任セテ置キマス。戦前カラ粟善哉ヲ食フコトヲ心ニ期シテマシタガ、今迄銀座方面ニ出ナイカラオ流レデス。原子核ヲ発見シテカラ天体宇宙ノ神秘ガ一段ト認メラレ望遠鏡モ大キクナリテ宇宙ガ更ニ大ニナリ、何兆光年ト云フ様ナコトヲ考ヘ出スト耶蘇教ノ神モ仏ノ観念モ動キ出シ、教理モ便リナクナリマスカラ仏教流ノ考ヘ方モ一寸見合ハセトナリ、只々宇宙ノ神秘ニ驚クノミデス。小説雑誌ナド馬鹿ゲテ読ム気ニモナリマセン。日々ノ新聞ヲ読ムダケデス。人ノ伝記ナドハ事実ノ記録デスカラ却テ面白イ様デス。近頃経済界ハ稍好況ノ様デスガ、好景気ハ風ノ如ク一定ノ筋ヲ通リ過ギマス。小生ノ持株ナドハ少シモ値ガ動キマセンデシタ。然ルニ最近下落スルト持株ハ大ニ影響サレマシタ。幸ニ売ル必要ガナイカラ平気デスガ伊東ノ久野ハ鉄道関係ノ会社ノ社長デシタガ、近頃事業不振ノ上ニ使ヒ込ミスル奴ガアリ社長ヲヤメマシタ。収入減シ生活ノ調子ヲ変ヘネバナラヌカト思ヒマス。併シ孫ハ来年三月デ立教ヲ出マスカラ、アトハヨメ入リヲ考ヘネバナリマセン。

八月ノ初ト思ヒマス菊池君カラ端書デ九月ノ彼岸マデニ家内ガ行クトアリマス。返事シマセンデシタガ嫁サンノ都合宜シケレバ来ラレテ面談スルニモ心配ハアリマセン。旧友人達皆老イ込ミ通信モ稀レデスガ沼津ノ友人ガ指ノ先シビレ出シ執筆出来ヌナドト言ツテ来マシタ。此人ハ脚ガワルク自動車ニモ乗リカネルカラ脳溢血ヲ心配スルノデス。マダ大丈夫ト思ヒマスガ当人ハ心配ガ先キニ立ツノデス。小樽ノ寿原英太郎氏ハ既ニヤリマシタ。見舞ヒマシタガ通信文ヲ書クコト出来ヌノニ困ルト申シマシタ。書道ヲ勉強シ字ガ上手デスノニ手紙ガ書ケナクテハ一番困ルト同情シマシタ。大分ノ知人ハ眼ガ見エナクナリマシタ。此人ハ碁ガ好キデスガ打テズ。人ノ打ツノヲ見テ楽シムコトモ出来マセン。飯川君ハ福島ノ田舎ニ居マスガ東京ノ孫ガ入院シテ奥サンガ手伝ヒニ行キ独リデコマル様子デス。此人ノ家庭ニハ何ノ心配モナク幸福デシタノニ近頃ハ多事デス運命ハ廻リ持チニナル様デス。

二〇七、冨永政資 宛

埼玉県大和局区内白子一三五七

（端書　九月二四日）

拝啓　先日ハ遠路遙々御来宅数々ノ珍味御持参被下誠ニ恐縮至極デス。鰻ト姫鱒ノ料理ハ御眼ノ前ニテ賞翫仕リマシタ、近来鰻ヲ食イ度イト希居リシコト其節御聞ノ通リ姫鱒ノ天ぷらガ又案外ノ美味ニテ驚キツヽ賞美セシコトモ御覧ノ通リデ両方トモ少シ度ガ過ギタ様ニテ後ニコタヘマシタ。其後両日帰宅仕リマシタ、姫鱒ヲ味ヒウマイト申シ女中ニモ別チマシタガ鰻ハ翌日ニ廻ハシ夕飯ニ丼ト致シ一同ニテ賞味シマシタ。其翌朝社長ニ見セルト申シテ宣伝文二枚ヲ持チテ出テ行キマシタ。大体ノ場所ハ了解セルモ家ノ外観ガドンナニナツテルカワカラント申シテマシタ併シ其内ニイツカ参上スルト思ヒマス。らっきよ一同ノ好物ニ付朝夕ニ頂戴シテマス。梅干ハ昨日嫁ガ出シテ食ベマシタ。梅干ハ前ハ無関心デシタガ此頃ハ時々食シマス。富永サンノハ酸クナイナド申シテマス。以上御礼大ニ延引仕リマシテ相スミマセン。奥様ニ宜シク御伝ヘ下サル、様御願申上マス。当年ハ鮭漁宜シキ様子ニ見受ケラレマス。荒巻ハ価ガ高過ギル恐レガアリマスガ本当ノ荒巻ノウマサヲ人々ヘ知ラセ度イト存ジマス。塩引ニテモ北海道ノ茶漬ハ松前料理トカ申シマス。タマニハ珍味トシテ賞味サレマス。御研究如何。実ハ近年本当ノ荒巻手ニ入リマセン。函館ノ知人ハ注文シテ取寄セタ所本物ナリシ由デスガ非常ナ価デシタ由、卒業生一人石狩ニ居リ昨年箱根ノ会ニ一尾寄贈シマシタガ途中手間取リ臭クナリ食ベラレマセンデシタ。誰レデスカ鍋ベルトワカリマスガ先方モ特別ニ注意シナイト荒巻ガ塩引ニ化ケマス。コンナコト書クト台鍋ガ恋ヒシクナリマス。アノ翌日菊池夫人ガ来ラレマシタ。両人共随分シヤベリマシタガ若イ人同志ノ関係ニハ安心シテマスカラ心苦シクハ有リマセンデシタ。自分ノ主人ハ悪クハ言ヒマセンワイ、ソレデヨイノデス。昨日ハ又意外ニモ国元ノ親セキガ来訪之モ長クイロイロ談シマシタノデ疲レマス。今日肝臓手当ニ注射ノ為メ出カケマスト途中左近司氏ニ逢ヒマシタ。此人ハ心臓ノ注射ニ同ジ医師ニ行キシ帰リデシタ。一夜狭心症ノ発作ニテ苦シミタル由ヲ申サレマシタ。苦悩十時間ニ及ビ死ヌカト思ツタ由デス。老人ハ皆各病ト苦□□スルモノデス。小生ハ肝ト腎デス。運動ハ気ヲ付ケルベキ由ヲ言ハレマシタ。

小樽ニ居ル頃一五会ト云フノガアリマシタ。正月五日ニ出来タ会ト云フ意味デス。ソノ会ノ残党ガ東京ニ七人居ル由ニテ久振リニ逢ヒ度ク一会ヲ催スト云フノデ栗山晋作ガ骨ヲ折ツテマス。発起人ハ興亜石油社長野口栄三郎（元三菱銀行支店長）板谷宮吉両氏ラシイ其他ニハ林友作（元郵船支店長）浅川真砂（元一銀ノ支店長石川島造船副社長）志賀虎一郎（日銀支店長）栗山氏（野口氏ノ会社ノ子会社長）其他一人伊豆ニ居マス会費五〇〇円ハ発起人負担ノ考ノ由場所ナドマダ未定デスガ野口氏ハ常磐津ヲヤリ板谷氏ハ踊リデス。両人共ニ芸ヲ見セルノデ金持ノ義太夫ノ如ク弁当持トナルノデナイカト思ヒマスガ身体ニ差支ナケレバ出カケルツモリデス。何レ新橋カ築地デ相当ノ家デショウ。夜オソクナルト困ルノガ小生ノ近状デス。

二〇八、栗原寛宛

（端書　九月三〇日）

拝啓　愈御多忙期ニ入リマスガ益御清勝奉賀マス。御地ハ近頃快晴ノ日ガ割合ニ多キ様デスガ、今ニナリテハ遅スギマス。当地方不相変雨天多ク先日ノ台風ガ、被害ナク過ギシガ仕合セ位ノモノデス。然ル処小生爾来健康モ何トナク面白カラズ、不快勝デ其ノ為メ思ワズ御無沙汰ニナリマシタ。肝臓ガ肥大シ腎臓ニモ故障アリ、其上悪クスルト肺ニモ古傷ガアリマス。之レガ動キ出スト面白ク有リマセン。病臥ハ致シマセンガ医師ヘ注射ニ行ク外ハ散歩モセズ、従テ陰気ニナリ勝チヲ免レマセン。サテ貴君ニハ老生ヲ慰メ喜バセテヤラントノ御志ノ事、札幌ニテモ承リマシタ。誠ニ忝ナキ御好意デ思ヒ出シツヽ始終喜ンデ居リマス。又七月ノ旅行ノ際ニモ寸分ノ隙間モナク御気遣ヒ下サレシコトヲ、今ノ現状ヲ思ヒ合セテ御尤モノ次第ト存ジ又難有イ事ト存ジマス。此機会ニ重ネテ御礼申上マス。自分デモ長生キニ過ギタカト思ヒ惑フ位デスカラ、生命ニハ未練ハ無イツモリデスガ、病苦ヲ考ヘルト矢張リ無事ヲ祈ル気ニナリマス。之ガ実情デスガ、諸方ノ好意、好情ヲ思ヒ合ハセルト、老生トシテハ実ニ意外ノ事バカリ、満足此上モナキ次第デス。実ニ迂拙ノ身ニ過ギル喜ビデス。此上ニ迷惑ヲカケヌ様、徐々社交ヲ差控ヘ静カニ暮スガ適当カト考ヘマス。中学時代カラノ友人僅カニ三人残リマシタガ、一人ハ殆ンド盲目ニ近ク、一人ハ高血圧ニテ用心怠リナキ状態デス。之ガ老ノ常態ト思フ外ハアリマセン。

頓首

二〇九、越崎清二宛

小樽市緑町三ノ四

（端書　九月三〇日、一〇月一日消印）

拝啓　御地モ近頃割合ニ晴天多ク温度モ相当高キ日モアル様デスカ。今トナリテハ既ニ遅ク却テ農民ヲ恨マシムルモノカト存ジマス。愈九月モ今日限リデスガ十月ニ入ルト二週間程毎年快晴ガ続キ天狗山ガ紅ヲ呈スルガ毎年ノ例ナリシコトヲ明カニ記憶シテマス。其頃ニハ日曜日ニ若キ学生カラ老人ヲマジエテ茸取リニ行ク人多カリシコトモ記憶シテマス。落葉松ノ茸ガ珍味デ味噌汁ニ宜シク一家皆喜ンデ食ベマシタノデ今モ憶ヒ出シマスガ、当年ハ盛田氏方ニテ一朝図ラズモ此珍味ヲ饗セラレ、旧友ニ逢ヒシ心地ニテ早速箸ヲ取リテ賞美シマシタ。夏ノ旅ノ喜ビデシタ。小生ガ大正元年始メテ赴任シタトキ河原氏①ハ電燈会社ノ支配人デシタガ、仲間ト共ニ定山渓ニ行キ舞茸ヲ買ヒ来リ数人シテ一ケヲ分チタリト話ヲシマシタノデ聞イテ驚イタコトモ忘レマセン。之モ北海道ノ山ノ幸デス。併シ戦争中飢饉状態ヲ経テ山モ狩リ尽シ天産大ニ減少シタカト思ヒマス。山ハ可ナリ水産ノ減少ハ大ニ憂ウベキト考ヘマス。水産ノ減少其モノヨリモ漁民漁家ノ前途ハ其数ノ多キダケニ日本国ノ前途ノ大問題ト存ジマス。沿岸漁不振ノタメ遠洋ニ切リ換ヘサセテモソレガ為メ漁獲ヲ増シテ結局不漁ノミトナレバ方法全ク尽キル次第デス。海ノ資源モ決シテ無尽蔵デナイ様デスナ。大正時代鯡漁華カナリシ時代ヲ考ヘルト昆布モ帆立モ豊富ナモノデシタガ、正月ノ膳ニモ数の子ヲ見ズ昔ノ慣習トシテ人ノ話ニ伝ハルダケデナイデショウ乎。為政者トシテハ大ニ留意スベキデスネ。

夏ノ旅ニ五年後ノ五十周年ヲ期シ大ニ元気ヲ保持センコトヲ約束シマシタガ、爾来健康意ノ如クナラズ今ハ肝ト腎ト最モ大切ノ機関ニ異状アリ、毎日気分晴レザルコト天候ノ如ク、端書一片モ書カザル日ノミガ打続キ諸方ヘ御無沙汰シテマス。長ガ生キモ十分楽シンダノデスシ未練ハ無イト云ウ理屈デスガ病苦イヤデス。第一銀行ノ明石氏②ハ数年若イノニ新聞広告ニナリマシタ。友人中失明シテ盲ニ近キ者モ幾人カアリマス。ソレニ比スレバ仕合ハセデスガ気分ノ晴レヌモ面白クナイモノデス。今ハ注射ヲシテマス③。

①故河原直孝氏、元小樽市長。

②元第一銀行頭取、故明石照男氏。

③おそらくこれが私の頂戴した最後のものであったと記憶されます。十一月十九日先生は御夫人の後を追はれ、翌昭和三十二年七月四日には飯川理事長亦先生に相次ぐ結果となりましたが、今は泉下にあってこの書翰集の成ったことによろこびを共にせられているであろうことを信じ、衷心からご瞑福を祈り上げます。

二一〇、冨永政資 宛

埼玉県大和局区内白子一三五七

（端書　一〇月七日）

拝啓　十月ニナリ九日ハ郷里ノ祭礼デス。昔ノ伏見全町ノ氏神デスカラ売店ヤ興行物デ賑カデス。社ノ門ハ昔ノ桃山城ノモノヲ移シタモノデスカラ大キク華麗デス。境内モ頗ル広ク大木ガ多イ、秀吉ガ築城ノ時伏見九郷ト呼バレタ村落ヲ一丸トシテ各所属ノ社ヲツブシタカラ其代リニ建テタト云ハレテマス。御同様ニ郷里ノ祭礼ニハ深キ思出ガ残リマス。時節ガ丁度松茸ノ出盛期ニ当リマス。東京震災ノ時ニハ汽車ノ便悪ク東京ヘ送レナイノデ松茸ガ氾濫シ親類何処デモ松茸ガ出テ困ツタコトモアリマス。サテ鰻ノ茶碗蒸ヲ御馳走下サル由御思召誠ニ嬉シク是非参リ度イト思ヒマス。電車デ成増ニ行キ其先ハタキシーニスレバ楽ダト考ヘテマシタ。近頃向ヒノ家ノ柿ノ木ガ沢山成リ色ヅキ初メテ眼ニ入ルノデ貴宅デモ紅クナル頃ニ行ケバ最上ト思ヒマシタ。然ル処数日前床屋ニ行キマシタ。髪モヒゲモ延ビテ不愉快デタマラズ、又久シク出ナイノデ脚ノタメシヲ兼ネボツボツト出カケマシタ。故アリテ一寸遠イ処デス。一停留所ヨリ少シ長イ位デス。往キハ先ヅ無事デシタ。一、二回立チ休ミシタノミデス。鉄道ノガードノ下カラ床屋ノ店ヲ見テホツトシマシタ。サテ帰路ハ上リデス往キハ下リノミデスガ上リ路デハ足ハ割合ニ動クト思ヒ歩ミ慣レタカラ楽カト思ヒマシタガ、坂ニナルト一寸疲レマス。終ニ路傍ノ入口ノ階段ニ腰ヲオロシマシタ。立休ミハシテモ石垣ナドニ腰ヲオロサヌノガ自信デ自慢デシタガ終ニレコードヲ開キマシタ。昨日医師ニ相談スルト出テハイケナイト申シマシタ。肝臓ガ肥大シテマス当分様子ヲ見マスガ一寸行カレマセン。甚ダ残念デス。

三十棒ト云フ雑誌ガ有リマス。井上北魚ト云フ老俳人元ハ朝日新聞関係者デスカラ其一類ノ随筆ナドヲ集メテマス。茶話程度ノ安イ雑誌デス。九月号ニ鮎麗水トテ目黒区下目黒三丁目岡田幸吉氏ノ庭ノ池ニ鮎ト姫鱒ト「タナゴ」鯉鯉モ飼ツテ居ルト出テマス。自然水ラシイガ水道ノ水ヲ出スト池一杯タメルニ六時間ヲ要スルトアリマスカラ大キサハワカリマショウ。主人ハ土建業者デ多忙ラシイ、庭石ヲ買入レテ置キタル処其引取方ヲ請求サレ詮方ナク庭ヲ作リタルガ動機デ、伊勢ノ五十鈴川ノ小石ヲ取リ寄セ箱根其他ノ木ヲ集メタ由デス。主人ノ慰メニ過ギマセンガ近処ノ名所ニハナルダロウトアリマス。最初ハ魚ガ死ニ代リヲ買フニ多忙ナリシ由デス。

二一一、蟇目英三 宛

西宮市清水町九ノ二

（端書　一〇月某日）

拝啓　其後御無沙汰仕リマシタ。七月ニ北海道ヘ旅行シテ帰リテカラハ猛暑ヤ其他種々ノ事由ニテ葉書ヲ書ク気ニモナレズ諸方ヘ同様ニ御無沙汰ヲシ其上散歩モ殆ンドセズ今迄外出シタノハ数ヘル程ニ過ギマセン。一日脚ニ腫レノアルノヲ発見シ医師ニ通ヒマシタガ近処ニ住ム医師ガ診察シテ肝臓ノ肥大ヲ告ゲマシタ。此ノ人ハ伴ノ友人デ北大出デス肝臓ハ在樽時代カラ肥大シタコト記憶ニアリマス。当時格別気ニシマセンデシタケレドモ亡兄ガ肝臓癌デ死ンダコトヲ思ヒ出スト恐シクナリ、腎臓ハ一寸見合ハセテ肝臓ノ注射ヲ二、三日置キニシテマス。其他ニ貴社ノメチラニンヲ服用シテマス。今マデ結果ハ判然シマセンガメチラニンハ伴ガ半ダース会社カラ持チ帰リクレマシタノデス。其他ニ小生ニハ気管枝ノ部分トカ肺ニ古傷モアル由ナレドコレハ一向ニ変化ナクイツモ同ジダト申サレマシタガ今ハ如何カ知リマセン。兎ニ角啖ガ出テ面倒デス。此ノ啖ハネバリテ切レナイノガ特徴デ一時喘息ト騒ギマシタガ、今ハ喘息ハドコカヘイッタカト云フ様ナ有様デス。併シ以上併発ニテ兎角気分爽カナラズ歩行スレバフラツク様ニテ老人ノ身ガイヤニナリマス。考ヘレバ少シ長生キニ過ギタラシイガ実ノ処立派ニアキラメモ出来ズ殊ニ病苦ヲ思フト現状維持ノ方ガマダマシデス、ココデ気分ヲ引キ立テテ闘病トヤラヘ進マンカト存ジ居リマス。我身ノ病気ノミ書キ読ミヅライデショウガ御免下サイ。女房ガ亡クナリテカラ、矢張リ時々不自由ヲ感ジマス。殊ニ衣料デハ暖気ニ向フトキハヨイガ寒サニ向フトキ次々ト季節ノ物ヲ整エルノガ面倒デス。品アリテモ所在ガ知レズ忘レテシマイ、無キ品ハ買エバヨイガ出カケルニ憶怯デス。体裁ハカマワヌガ出来ルナラ相当ノ品ニテ相当ノ品位アル様ニシタイ。人ノ前デ気ガ引ケマス。住ノ方ハ二階住居デイザト云フ時上下ニ不便ナダケ、食ハ御馳走充分、時ニハ過ギテ野菜ガ不足スル位デス。但シ此ノコロハ我侭ヲスルコトニ定メマシタ。入浴ニハ申シ分ナシ既シテ小生ノ境遇ハ言分ナシト申スベキデショウ。

諸方ノ好意ヲ謝スルノミデス。

皆様に寄せられた端書、封書は二一一通がここに収容され、私への端書が一番最後になりました。しかしこれで終いであったとは思われません、まだまだ執筆のお力があったと思われます。

それにつけても御夫人亡きあとのお淋しさ、ご不便さをお察し申し上げるのみです。

この端書の末尾に「諸方ノ好意ヲ謝スルノミ」とありますが何かを暗示するかの様に思えてなりません。

伴房次郎先生年譜

〔一〕参考事項

明治七年（一八七四―当歳）
九月二十日　京都市伏見区向島中島町四四に父惣十郎、母リャウの二男として出生。生家は農家（地主）であり、父惣十郎は早くなくなり、母リャウに育てられた
〔明治八年八一八七五〉一月八日小学生徒の学令、満六歳から十四歳までとなる〕
〔明治十年八一八七七〉四月十二日東京大学を設立、理、法、文、医の四学部を置く〕
〔明治十一年八一八七七〉東京大学法、理、文三学部に選科を設置〕
明治十四年（一八八一―七歳）
四月　向島町在の小学校に入学
明治十八年（一八八五―十一歳）
四月　高等小学校に入学
明治二十二年（一八八九―十五歳）
四月　京都府尋常中学校（京都府立第一中学校・現洛北高等学校）に入学
明治二十七年（一八九四―二十歳）
三月　京都府尋常中学校卒業
明治三十年（一八九七―二十三歳）
七月　第四高等学校第一部法科卒業
九月　京都帝国大学英法科入学決定するも法科の開設遅る
〔明治三十年六月二十二日京都帝国大学開設と決定するも具体的には、明治三十二年八一八九九〉九月十一日京都帝国大学に法科大学および医科大学を開校。二月七日中学校令（尋常中学校を中学校と改称）、高等女学校令、実業学校令公布〕
明治三十一年（一八九八―二十四歳）
九月　東京帝国大学法科大学法律学科入学
明治三十五年（一九〇二―二十八歳）
七月　東京帝国大学法科大学法律学科（英吉利法兼修）卒業
八月　四　日　京都帝国大学法科大学講師嘱託　東京帝国大学
明治三十六年（一九〇三―二十九歳）
十二月二十一日　任京都帝国大学法科大学助教授　内閣
陞叙高等官七等　内閣
明治三十七年（一九〇四―三十歳）
三月三十一日　叙従七位　宮内省
四月　八　日　京都帝国大学総長理学博士久原躬弦氏長女澄路（すみじ）と結婚
明治三十八年（一九〇五―三十一歳）
一月　一　日　長男素彦誕生
明治三十九年（一九〇六―三十二歳）
二月二十六日　陞叙高等官六等　内閣
四月三十日　叙正七位　宮内省
十二月　八　日　二男季夫誕生
明治四十一年（一九〇八―三十四歳）
五月　二　日　陞叙高等官五等　内閣
六月十九日　民法、商法研究ノ為満三箇年間英、独及ビ仏国ヘ留学ヲ命ズ（八月八日出発）　文部省
九月　十　日　叙従六位　宮内省
明治四十五年（一九一二―三十八歳）
六月　十　日　帰朝
七月十三日　任小樽高等商業学校教授　陞叙高等官四等　内閣
（小樽高等商業学校に単身赴任）

〔七月、明治天皇崩御・大正と改元〕
九月三十日　叙正六位　宮内省
大正三年（一九一四―四十歳）
九月二十九日　陞叙高等官三等　内閣
十一月　十　日　叙従五位　宮内省
大正四年（一九一五―四十一歳）
十一月　十　日　大礼記念章授与セラル　賞勲局
大正五年（一九一六―四十二歳）
一月二十八日　叙勲六等授瑞宝章　賞勲局
大正八年（一九一九―四十五歳）
十二月　二十日　叙正五位　宮内省
大正九年（一九二〇―四十六歳）
三月二十九日　叙勲五等授瑞宝章　賞勲局
八月十七日　小樽高等商業学校長渡辺龍聖欧米各国出張中校長代理ヲ命ズ　文部省
大正十年（一九二一―四十七歳）
六月十七日　陞叙高等官二等　内閣
十一月二十八日　任小樽高等商業学校長兼任同校教授　内閣
大正十一年（一九二二―四十八歳）
一月三十一日　叙勲四等授瑞宝章　賞勲局
大正十三年（一九二四―五十歳）
十二月二十七日　叙従四位　宮内省
〔大正十四年六月六日　学生新聞「緑ヵ丘」第一号発刊、十月十五・十六日　軍事教練反対事件おこる〕
大正十五年（一九二六―五十二歳）
一月二十七日　叙勲三等授瑞宝章　賞勲局
四月　一　日　本校内に第十四臨時教員養生所設置、伴房次郎これが管理に当る
昭和三年（一九二八―五十四歳）
六月十九日　陞叙高等官一等　内閣
十一月十六日　大礼記念章授与セラル　賞勲局
昭和五年（一九三〇―五十六歳）
二月　一　日　叙正四位　宮内省
三月三十一日　第十四臨時教員養成所廃止
昭和八年（一九三三―五十九歳）
一月十九日　叙勲二等授瑞宝章　賞勲局
昭和十年（一九三五―六十一歳）
二月　一　日　叙従三位　宮内省
四月　二　日　依願免本官並兼官　内閣
四月二十二日　叙正三位（特旨ヲ以テ位一級被進）　宮内省
五月二十五日　小樽高等商業学校名誉教授ノ名称ヲ授ク　内閣
昭和十四年（一九三九―六十五歳）
十月二十三日　東京市大森区調布千鳥町六四二へ移転
昭和二十一年（一九四六―七十二歳）
一月　十七日　二男季夫死去
昭和二十四年（一九四九―七十五歳）
七月　七　日　小樽商大開学式に出席
昭和二十九年（一九五四―八十歳）
四月　八　日　伴房次郎先生夫妻の金婚式を緑丘会員一同東京・椿山荘で祝う。
十一月二十六日　伴夫人澄路逝去　法名　如是院真順澄照大姉
昭和三十一年（一九五六―八十二歳）
〔六月二日　第二寮火災にて焼失〕
七月　七　日　母校小樽高商四十五周年記念式典に参列。
十一月十九日　伴房次郎先生肺癌で逝去。自宅にて葬儀。
法名　光誉院釈知照真如居士

研究目録

内外論叢（京都帝大法科大学機関誌）所掲

英米ノ商法典編纂ニ関スルチャルマー氏ノ演説（二巻四号、明三六・八）

選択債権ニ付テ（三巻五号、明三七・一〇）

◎売主ノ不履行（四巻一号、明三八・二）

小切手ノ後日附（四巻一号、明三八・二）

外題ノ変更（四巻一号、明三八・二）

墺国民法ニ於ケル婚姻約束ノ違背（四巻一号、明三八・二）

瑞典国一七三四年ノ法典ト丁抹新売買契約法草案（四巻二号、明三八・四）

牡蛎中ニ発見シタル真珠上ノ権利（四巻四号、明三八・八）

死体及ビ墳墓ノ法律関係（四巻六号、明三八・一二）

◎実行行為ト物権契約（五巻一号明三九・二）

遺失物ノ意義（五巻二号、明三九・四）

目的物ノ性質ニ関スル醋誤ト瑕疵担保トノ関係（五巻三号、明三九・六）

間接代理ニ関スル通説ノ改革ニ付テ（五巻五号、明三九・一一）

第二八回独乙法曹大会（五巻六号、明三九・一二）

京都法学会雑誌（京都帝大法科大学機関誌）所掲

善良ノ風俗ニ反スル既判力ノ濫用（一巻二号、明三九・二）

◎時効停止ノ意義（一巻三号、明三九・三）

◎債権者ノ遅滞ニ関スル一疑問（二巻二号、明四〇・三）

果実ノ収得（二巻五号、明四〇・六）

◎賃借権ノ譲渡及転貸ヲ論ズ（二巻八号、明四〇・九）

時効雑題（三巻一号、明四一・一）

契約ノ結合、合成契約及び混合契約ニ関スルエンネッチェールス氏ノ新見解（三巻三号、明四一・三）

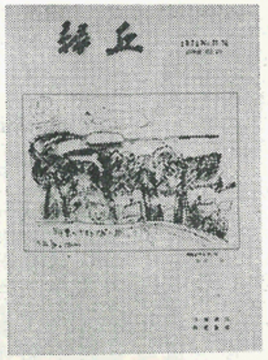
【◎を付したのは、論説欄に掲載のもの、他は雑録欄に掲載のもの】

（小樽商大学長実方正雄先生の提供）

「熱河で散った米沢四郎氏」を読んで

―暗殺隊長銃殺と虚空への発砲―

中野清一



「熱河で散った米沢四郎氏」私が新京に赴任して間もなく米沢君が事務長として来任しました。（その前任者は根本龍太郎氏〈現建設大臣〉）承徳副県長に栄転した時にも私は建国大学にいました。同君を待伏せ暗殺した八路軍系共匪を捕える探索行に私は蔭で動きました。

ある農民（暗殺成功のニュースを本隊へ伝えに行く伝令でした）を捕えることが出来、それが糸口になって農家潜伏中の暗殺隊の隊長をひきだしました。承徳県庁近辺の街路で銃殺することになったのですが、私の同僚二人（何れも戸張竹風先生の崇拝者であり、その関係もあって米沢君を尊敬していた人たち）が銃殺行に参加。私も誘われましたが、殺してやり度い気持と米沢君はあくまで説得で共匪を抑える方針で一貫していた気持をよく知っていた私だけに隊長を生かしておいて説得を続けてみたい気持とのヂレンマに苦しみ、承徳まで行き乍ら銃殺の現場には立会いませんでした。それだけに今度の石母田氏の一篇中に「夫人は涙に溢れた眼で……虚空に向けて轟然一発、また一発……」の辺りでは私は胸にこみあげてくるものあり、眼がくもりました。

米沢君は身に寸鉄をも帯びていなかったとその当時耳にしていた私には、夫人が空に向けての二発は、今は亡き夫君に代って、相手なき大空に向って放ったもの、夫と妻との無限の愛情宣言の轟音ともうけとれました。（大一五）

緑丘通信

☆十一月十五日は伊藤整の一周忌、この日に合わせて、札幌と函館で、『伊藤整・亀井勝一郎文学展』が北海道文学館、北海道新聞社などの共催で開かれた。会場は札幌・㊥デパート、函館・棒二森屋であった。

伊藤整のコーナーには同氏の生家をはじめ小学校時代の通知箋、川崎昇とはじめた雑誌「青空」や「雪明りの路」から「年々の花」までの初版本、チャタレー裁判関係諸記録なども陳列されていた。緑丘「小林多喜二特集」「伊藤整特集」の二冊も同文学展に展示されていたが会場は連日満員であった。

☆北方文芸（札幌）は特集・伊藤整を発刊した（十一月号）

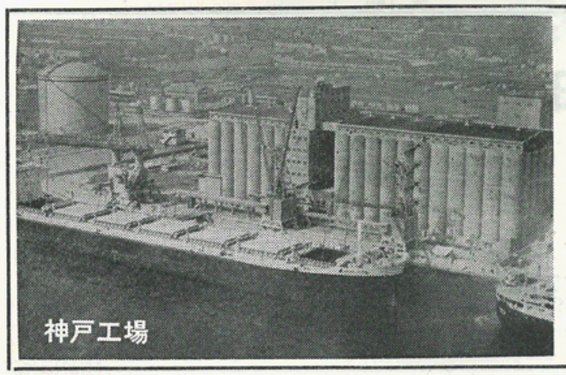
☆季刊誌「四季」の第七、八合併号（十月刊）は伊藤整追悼号である。

遺稿「遠い明治のお正月」
絶対の身方
塩谷村の整さん
伊藤君の思い出
子の山行の思い出
鳴海仙吉
伊藤さんの詩
菜の花
最後の心情吐露
伊藤整年譜

川端康成
更科源蔵
春山行夫
田中冬二
田中克己
大木　実
堀川　潭
伊藤　礼
曽根博義

この年譜は三〇ページにわたる詳細な記録で十月一日「四季」で終っているが、今後伊藤整の文学を研究する人にとって欠かせない貴重な資料である。

☆十二月四日（金）午後六時、東京有楽町の朝日新聞ホールで開催、これを記念して小樽商科大学の校歌、学園賛歌、進軍歌等を吹き込んだソノシート六〇〇円で販売。



食品コンビナートの
パイオニア

製粉・油脂・ぶどう糖・食品・飼料・倉庫

昭和産業株式会社

取締役社長　松本浩三

本　社　東京都千代田区内神田2丁目2番1号
工　場　鶴見・神戸・船橋・上尾・水戸・太田

五十年ぶりの羊蹄山

越崎　宗一

僕は庁商の四年生のときすなわち大正七年夏休みに鹿児島七高（造士館）の親戚H君とともに羊蹄山に登った。忘れもしないが、この年には有名な米騒動が起って神戸曲辰鈴木よねさんが襲われて逃げ出したと新聞に報ぜられた。そんな話をしながらHさんと半月湖の脇から登山道路を辿った。半月湖にあった売店から「六根清浄」と焼印を押した六角の杖を買いこれをついて夜中を登り頂上で御来光を拝さんとするのであった。真暗な道を若さにものをいわせて無我夢中でガムシャラに登った。頂上に近くなって所謂胸突八丁は仲々シンドかった。九合目の石室に辿りついたころには霧が深く視界が全然きかずガッカリした。

以来僕は山麓地方を通るたびに羊蹄の勇姿を仰ぎつつも遂に登る機会を失し今日に及んだ。

それが実に五十有余年ぶり（正確にいえば五十二年ぶり）で昭和四十五年九月六日に年令満六十九才で海抜一八九三米の羊蹄山に再び挑むこととなった。自信があったわけではなかったが、小樽市教育委員会と小樽山岳会の共催でベテランリーダーが揃っているので何とか荷厄介にならぬていどにと思って参加したものだ。

一行は約三十名、殆どが若者で男女半々ずつ位だった。比羅夫駅前に勢揃いして懐中電灯を照らしながら出発したのが零時四十五分、国道五号線に出てさらに登山道路に向い半月湖に近い駐車場でいよいよ登高の身仕度を整え、リーダーの後に従った。道は登る程に険しく五十年前よりちっとも良くなっていない。

五合目で大休止、握り飯を一つだけ頬張り、リュック枕にゴロ寝する山の夜明けは早い。

薄らっと明るくなる、この辺までは麓と同じ森林地帯だ。もう懐中電灯の明りはなくとも道は辿れる。一歩一歩と足も膝も重い。七合目で中休止、もう陽は上って羊蹄の投影が山麓の平野にクッキリと見えた。木の丈がダンダン短かく灌木地帯になる。

さらに前進、九合目に達した時は折からの珍らしい晴天と、すばらしい眺望に足は釘付けになり感心ばかりして休止また休止。昔はこの辺に小さな石室があったように思う。

九号目から頂上へ――もう列はバラバラ、自分のペースで進む外はない。十歩進んでは休み五歩進んでは止まり体力の限界をつくづくと感じた。

午前七時、頂上に達した。御来光には間に合わなかったが、頂上でこの日ほどよく晴れ渡った日は珍らしいという。五十二年前には折角頂上に達しても霧が深くて何も見えなかったのに比べると、このたびは何という幸運に恵まれたことであろう。

頂上に『羊蹄や連山はるか雲の上』（昭和三十五年八月二十八日）と書かれた十呎ほどの杭が立っていた。その傍らに亜鉛屋根葺きの山小屋が建っていて夏期には番人が詰めているという。付近には高山植物が群生していたがフレップの赤い小粒の実が可愛らしかった。一休みして七、八人の有志で噴火口を一周した。ニセコアン・イワオ・ニト・チセの連峰、さらに反対側では洞爺湖中ノ島がクッキリ浮かび、その先遠くに駒ケ岳の雄姿、さらに火山岩を踏み越えて行くと恵庭樽前が遠望され、急に北海道が狭く感じられた。何の目的で山へ登るのか、山がそこにあるからだという。僕は絶好の眺望で十分満足した。

羊蹄のような険阻な道は下りが問題である。登りでエネルギーを出し切っていたから下りは膝がガタガタでいうことをきかない。これを膝が笑うという。僕の場合は笑い放しだった。それでもどうにかこうにか騏尾に付して比羅夫駅に辿り着き、一杯のビールで乾杯した時は腸に泌みわたるほどうまかった。

そこで汽車に身を横たえながら次のような歌が口から突いて出た。

（星影のワルツ調で）
登る坂道　つらいけど
下る坂道　なおつらい
別れにビールで乾杯しよう

元気で登るじゃないんだよ
元気で登るじゃないんだよ
山があるから　登るのさ

（大一一　郷土史研究家／小樽）

監査法人　池田昇一事務所

代表社員　池　田　昇　一（昭4）

札幌事務所　札幌市北4条西20丁目3番地　電話（61）4201（代表）
東京事務所　東京都千代田区内神田2丁目5番19号　共同ビル（神田橋）7階　電話（252）2741（代表）
大阪事務所　大阪市北区高垣町1番地　電話（372）5887（代表）

「緑丘」45年度 申込者氏名（四）

（十一月二十五日　到着迄）

(あ) 阿部忠、青木慎吾、浅田厚、荒川正男、相磯成令、新井章一
(い) 今井慎一、磯貝祐司、稲田憲、伊藤幸平、石川孝一、池田雄亮、一柳悦蔵、岩本寿雄、五十嵐世次、伊勢田美三郎
(う) 内海唯利、馬林進
(え) 越前谷順治
(お) 大井康雄、大沢三男、大塚守之、大村博、奥井康夫、大家敏彦、近江龍三、小野小二郎、岡林宏、岡本喜智子
(か) 河上鎮男、河西豊太郎、川田健二、門脇逸司、片山寿男、神田徳造
(き) 木谷忠夫、木村惇、菊田小太郎、北村太治郎
(く) 国弘勤之亮、栗原勇次郎、久保大亮、桑野泰次郎、功刀素重
(こ) 越山文哉、今野吉之助、小寺三郎、小島典春、今野道夫、小柳信輝、木立哲夫、木幡清甫
(さ) 沢村重一、佐藤忠夫、五月女要作、佐藤弟三、笹川州也、沢井道成、桜田総之丞
(し) 新崎鈎、従二建二
(せ) 瀬尾幸三郎、関沢伊織
(た) 谷村龍雄、高山貞一、田口俊夫、田森久雄、竹内富蔵、田中康夫、武智次郎、高橋健次郎
(つ) 都築実
(と) 道善宇内、冨永政資、苫米地英彦、中園武雄
(な) 内藤義信、中瀬秀一、中川精一郎、中村次雄、中野醇子、長井彰
(に) 西田豊彦
(の) 野島広一
(は) 林武
(ひ) 平間義
(ふ) 藤原愛子、船津皐二、藤本哲英、藤本孝吉
(ほ) 本間大司、堀池善弥
(ま) 前田重郎、松本要一、牧野正治
(み) 三日月朗、水越金二、水垣敏正、水野憲
(も) 百田嗣郎、望月鷹雄
(や) 山吹芳英、山中茂、屋代栄三郎、山口淳司、矢野健太郎
(ゆ) 弓削実
(よ) 吉田忠正、吉田茂平
(わ) 亘光雄、若松舜

京阪神・山陽より一泊の旅に最適の観光温泉地

山陰東郷温泉

鳥取県立公園　湖畔のいでゆ

国際観光旅館・日本観光旅館

露天風呂　鶴の湯

TEL 松崎（08583）2－0311
テレックス　5795＝693

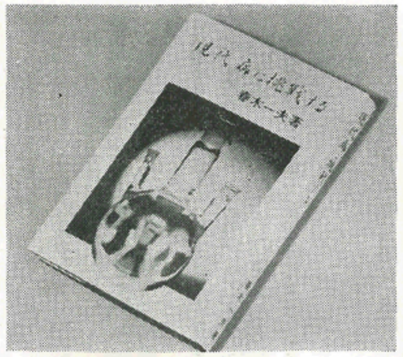
山田善之助（昭九卒）

大阪直営案内所　大阪市南区難波新地3千日デパート5階
TEL 633－8876・631－3131　内線208

日本新薬株式会社刊

「現代病に挑戦する」

中野清一



最近、数冊の社史を読む機会に恵まれた。物語り風に仕立てるのが社史の最近の傾向だが、特に興味が深かったのは、日本新薬五十年の歩みを記録した「現代病に挑戦する」であった。B6版、本文一八六頁だから大冊とは言えないが、その含みは広く深く、単なる社史以上の内容を湛えている。芦屋在住の作家、春木一夫氏の筆になったものだが、同氏が標榜されたフイクションを交えぬ経済小説以上の出来栄えである。ここで私自身の過ぎ去った思い出二つを書くことを許して頂きたいが、福岡の大学での最後の年、経済史の論文を大学に出そうとしてドイツ中世の都市勢力の財政的な基盤を探り当てようとしたことがあった。古いドイツ語を読む苦労は多かったが、各都市の多くの企業の経営を中心にした社会活動の記録が相当残されており、それに目を通した上で企業記録の積み重ねの中から都市経済史の姿を浮き彫りにしていく作業は楽しかった。この私の古く楽しい思い出はやがて広島大学時代のやや新しいが苦々しい思い出につながる。新修広島市史全七巻の仕事を手伝った。残念な事に広島地方には大企業の場合でさえ経営史の名に値する記録は殆んど見当らなかった。地味ではあるが貴重なこの種の記録なしに生き生きとした経営史、経済史はおろか社会史、文化史が書かれる筈がない。筆が思わず横道にそれたが、かような思い出を持つ私にとっては、「現代病に挑戦する」は大きな喜びであった。血が通い肉も豊かな日本史が生き生きと呈示されている思いがした。

この書物の半ば近くは日本新薬の主力商品であったサントニンをめぐる苦斗史を書き綴っている。昭和三十年頃までの日本が「回虫王国」だった事を想起するなら、この苦斗史はやがてまた庶民疾患の治療史であり衛生史でもある。苦斗はサントニン結晶を抽出すべき植物を外国から入手する辺りから始まる。二グラムほどの種子を北欧の知人から入手したのが昭和二年、それに先立って入念な海外文献の渉猟の努力が何年間か払われている。種子を手に入れてからは、日本で始めての植物の事だから栽培法をめぐっての苦斗が展開される。日本植物史、栽培史上の貴重な一コマが描かれていく。しかも試験栽培時代、従って企業に赤字のみをもたらす苦悩の時期が八年間も続く。サントニン結晶二・四グラム採取に漕ぎつけるまでになお二年有余の歳月を費している。ユニークな栽培史に開発史、技術史が接続していく。僅かであれ結晶を手にした前社長市野瀬潜氏（現社長森下弘氏の岳父）は原植物を「みぶよもぎ」と命名する（昭和四年）。四年経った昭和八年、森下弘氏が入社されたのだが、その頃からサントニン自給を目ざしての「みぶよもぎ」増殖史が繰り広がられる。一千町歩の農地確保を目標にしたものの、六年間経過した昭和十四年に漸く三百町歩の栽培反別に漕ぎつける。日本で、日本人の手でという民族的な執念の歴史が展開されているのだが、この根性史の中には、委託農家には収獲ゼロの場合にも最低保証金を提供するという内容でのユニークな経営指導史や植物から結晶を抽出する機械の開発史が鮮かに織り込まれている。最近の流行語を借りて言うなら、システム化された多角度的な歴史がそこに読みとられる。

農作物に施す肥料が化学肥料に転換する昭和三十年頃はサントニンが栄光の座を離れる宿命の年でもあった。この転換期を迎えて森下社長は会社の新しいバックボーンの発見養成に心をくだく。神経痛、ロイマチスの治療薬アミピロが昭和二十九年につくられる。しかも純国産新薬として送り出されるのだから、主力商品の内容はうつり変ったが日本人経営者の執念史、根性史はそのまま見事にうけ継がれていく。根性に支えられてのパトンタッチはやがてまたローヤルゼリー製剤アピその他へとわたされていく。三十年代後半に入ってからは狭心病や脳卒中に立ち向う新薬の創製に全力投球をし始める。

昭和四十四年、創立五十周年を迎えた時の森下社長の挨拶の言葉の中に「未来を夢見ることによって今日に生き、その踏み台として過去を持つ」（一八五頁）という一節が見られるが、歴史が歴史でありうる拠り所を心憎くも捉えているこの姿勢こそ日本新薬の半世紀の歩みに類い稀な精彩を与えた賦活剤だったに違いない。ドイツのビーティヒハイム市長からベルツ賞を贈られた（昭和四十三年）事に象徴される国際交流史上の大きな事績も同社の研究史・開発史・経営史が渾然一体―相互に有機的に絡み合うことで、それぞれがダイナミックに展開されてきた姿の自然の流露でこそあったと深くうなづかれる。

（大一五　広大名誉教授）

異動

栄転

亀井尚一（昭一八）
東京銀行カラチ支店長（心斎橋支店次長）
c/o The Bank of Tokyo Ltd
Qamar House Bunder Road
Karachi Pakistan

室　秀夫（昭八）
三菱商事取締役大阪支社副支社長

三崎嘉郎（昭一一）
東洋不動産社長（三和銀行常務）

進藤　彰（昭一一）
日産緑化株式会社取締役大阪営業所長（堺営業所長）
大阪市北区梅田二　第一生命ビル

粟野俊助（昭一二）
丸紅飯田食糧本部長（北米支配人兼丸紅飯田米国社長）

星野貞（昭一六後）
日商岩井製鉄原料第一本部長兼務常務取締役

堀川一郎（昭一六後）
雪印乳業株式会社東海事業部長
名古屋市中区流川町一丁目十九番地（☎四六〇）

竹中正親（昭三一）
大阪北日立家電株式会社取締役営業部長

下斗米安蔵（昭一一）
雪印乳業株式会社東北事業部長（同社東京支店長）

森　隆郎（昭八）
富士運輸㈱東京駐在員（日正海運株式会社）

磯西将治（昭一八）
雪印乳業㈱営業第一部長（名古屋支店長）

岡本元次（昭一二）
高崎林業株式会社取締役（東栄段ボール株式会社）

一谷秀男（昭八）
北拓建設㈱東京支店顧問（北拓建設取締役）

堂城不二人（昭二）
北海道科研工業株式会社
札幌市手稲稲穂一四七番地―四

角　晌（昭三四）
㈱悠建築設計事務所（マルカキカイ㈱）

小島和夫（昭一一）
日本甜菜製糖㈱総務部長（人事部長）

桜　重雄（昭一七）
住友海上火災保険㈱大阪支店梅田営業所長
大阪市北区芝田町五七西阪急ビル一〇階

津島正雄（昭一七）
雪印乳業株式会社九州事業部業務部長（本社監査役室）
福岡市網場町一―一

平岡貞雄（昭三一）
株式会社長谷川歯車（㈱河合楽器製作所）

恩村政登（昭二〇）
北海道炭砿汽船㈱北海道支社清水沢炭砿（空知炭砿㈱）

佐藤忠夫（昭一六後）（☎一六〇）
雪印乳業㈱関東支社アイスクリーム販売部（関西事業部）
東京都新宿区本塩町一三番地

石原和昌（昭三五）
中小企業金融公庫静岡支店（富山支店）
静岡市追手町一番六号

常岡　亮（昭七）
有限会社冨田吉蔵商店福岡支店（日本電気硝子㈱藤沢工場）
福岡市千代栄町二四番

住所変更

津島正雄（昭一七）
福岡市屋形原中ノ原八二五―七

佐藤忠夫（昭一六後）（☎一五六）
東京都世田谷区経堂四丁目一六―一四

石原和昌（昭三五）
静岡市大岩四三一ノ一　中小公庫静岡寮

村山重三郎（昭一一）
札幌市琴似三条五丁目六三六

常岡　亮（昭七）（☎八一五）
福岡市大橋本町四〇三番ノ三

広岡一男（大八）（☎一四五）
東京都大田区田園調布本町二二ノ三

一谷秀男（昭八）
川崎市細山二二八―一一

岡田一次（昭一二）（☎〇四七）
小樽市松ケ枝一丁目二五番三号

堀川一郎（昭一六後）（☎四六四）
名古屋市千種区東明町五丁目二六第二いとう荘二〇五号

森　隆郎（昭八）（☎二二一）
横浜市神奈川区松見町四丁目九四四ノ二　松見苑マンション一〇二号

磯西将治（昭一八）
東京都世田谷区下馬町五丁目二十一―十三

岡本元治（昭一二）（☎一七七）
東京都練馬区石神井台二―二九―四九（表示変更）

香木正雄（昭一六後）
小樽市奥沢三―一―一七

内山三郎（昭一六後）
札幌市大通西二十七丁目　拓銀アパートN一二二号

相田正（昭一六前）（☎一七一）
東京都豊島区高田町一―三六―一三―四〇一

津久井七雄（大一五）（☎一五〇）
東京都渋谷区宇田川町六番十一ノ一三〇二　原宿パークマンション

志摩角美（昭一三）
札幌市山ノ手一条七丁目二八四番地

事務所移転

松村克己（昭一六後）
大阪市南区順慶町通一ノ四二
松村株式会社

岡田政次郎（昭二）（☎一〇〇）
東京都千代田区一ツ橋一丁目二番二号　新住友商事ビルディング

TEL（東京）二一七―五〇一八
（株式会社サミットストア常勤
TEL四〇七―三一八五）

社名変更

矢野正康（昭一五）（☎一〇二）
株式会社セーキ（㈱清記商会）
東京都千代田区九段北一丁目三番六号（セーキビル）

「小樽商科大学学園歌」ソノシート

商大グリークラブによる学園讃歌、進軍歌、校歌ソノシート（ビクター）六〇〇円
申込みは「緑丘」編集部へ

上段　小島　小沢　三浦　吉田　渡辺　佐藤孝　栗本　中川　金子　中村　川田　福地　菅野　平田　石塚　五十嵐　上勢原　浅原　横井

中段　森松　中島(学)　石塚(夫)　森松(夫)　宮北　藤倉　井藤　上野　柴田　岡野　堀池　落合　原田　越前谷　善如寺　宮崎　川井　高橋　吉川　伊東　川原　大村　北村

下段　藤倉(夫)　熊谷(嬢)　熊谷(夫)　越賀谷(夫)　中村(夫)　岡野(夫)　松尾(先)　原岡(先)　善如寺(夫)　渡辺(夫)　浅原(夫)　川夫(夫)　中島(夫)　北村(夫)　伊東(息)

(写真欠) 室谷(先), 水垣, 学長

昭五会
卒業満40年記念全国大会

八月二十五日・二十六日

全国景勝地転々、二～三年毎の全国大会も早や幾回。次回は再び(或は小樽では最後?)母校小樽にてが一昨年の前大会地京都比叡山にて議決されてから諸準備連絡忙殺、早くもその日が訪れた。

昭和四五年八月二五日残暑未だきびしい地獄坂を復習し乍小樽母校に正午集合。夏休み中にもかゝわらず学長、中島事務局長の御臨席と数々の御厚意を得て地元組森松氏以下の献身的御準備万端の下に学校会議室『第一会場』に久方振りの顔合せ。遠く関西組数名始め東京、東北、道内組等全出席者六一名の大盛況久潤を叙す(内、夫妻家族組十三組先生等来賓六名)卒業二十五周年の豪華大会以来母校集合二度目乍らすっかり変った。新参加初顔合せの名のり挨拶組もあり懐し嬉しの喜びが全館にみなぎった。

午後一時開会、型の如く進む、地元幹事開会の挨拶、学長歓迎御挨拶と学校の現状、全国幹事の報告と議事、祝電披露と級友消息、審議(弔慰基金運営ルールの小改訂、次回大会の日時と場所、記念事業としての小樽村(仮称)開設計画の件。議決は明朝食後としてスピーデーに運ぶ。午後二時『第二会場』たる校庭の戦没者記念碑前に着席。同級物故者既に六十二名を数え特に前回大会以降の逝去者「小間賢治、後藤保雄、渥美静雄、堀江卓次、中島健一、高橋文雄」六氏の黒枠写真の飾られた野天会場も全く整い、清楚に厳粛。母校グリークラブ員拾数名の

玄人はだしの印象的合唱を前後に加え司会石塚君の開会挨拶『鎮魂』に始まり全員の黙祷、菊花献花礼拝の新型式慰霊祭。今日の佳き日再び相見得ざる若き日の盟友、鄭重にしのび追悼にふける。

続いて碑前に『白い丘』で有名になった松尾先生の碑の由来一席、終って新設の「北斗寮ここにありき」の記念碑始め新校舎見物、痛々しさも若干感じつゝ我々は最高の佳き往時を持った事の自惚を語る。午後三時用意のバスに乗込み小樽市内ありし日の古戦場観、指呼の間に札樽国道大倉山―円山明後年のオリンピックジャンプ場を経て今や人口百万の大都市札幌市内の発展振りに目を見はりつゝ月寒メーン会場選手村を経て(無音?地下鉄試運転中に面会)(駅前集中暖房工事等珍らしい)一路支笏湖へ、今回オープンの見事なハイウエー乍ら行き交う車も少く誠に快適、但し『この辺熊が出ます御注意下さい』の立札にびっくり。車中名物トーキビ、特製アイスクリームに間食お握り迄の万全親切配給に大はしやで、バスガールの説明も聞きとれぬ位。

五時支笏湖畔に出る。残念乍ら厚雲で大回転会場恵庭岳並にオコタンペ湖は割愛、『第三会場』たる湖畔鹿の湯クラブに五時半着。幽邃境支笏湖も誠に今昔の感。割当の部屋入り、良き温泉で汗を洗い落し本大会記念の揃いの浴衣で午後六時半大懇親会が開かれる。各地お土産も加えてお膳もローカル盛り沢山、来賓原岡先生(誠に童顔御健康が嬉しい)の米寿記念品贈呈に始まり室谷、松尾三先生の御元気に一同驚き且つ喜ぶ。型の如く酒もはずんで余興も加わり『今は早や』での散会は午後九時半、二次会痛飲組も数少く囲碁麻雀組が精々、山の湯こんこんたる支笏湖と共に眠る。東京と余り変らぬ熱夜にびっくり。

第二日八月二六日、早朝早くも湖畔散歩を終えた連中如何に早起きかと野次られ乍ら八時一同朝食の座につく。食後の会議に時間もたっぷり、記念事業の小樽村(仮称)設立構想パンフレット配布の説明質疑、アイデア夢賑やかに飛出す。懐しの旧友大勢で老後の集落セコンドハウス村を造り自然と花、山と海を一緒に楽しまん。千葉外房に良き土地を物色した。進行率三〇%、何れ後詳報で募集開始云々で各自談論風発。拾時再びバス便乗。樽前山五合目迄登り支笏湖をふりかえる。霞煙去来しきりにてアイダイ模湖の山岳気分、高山植物、爆発軽石の印象で、バスはUターン、千才街道の発展振りをアメリカ村式と評しつゝ十二時半真駒内羊ケ丘牧場着。北海道味タップリの広い丘の大展望「羊群声なく牧舎に帰り」の北大校歌のバックミュージックがピッタリ、羊が幸福そう、二階会場で名物ジンギスカン、前庭のアイヌ部落小屋展示等で最後の名残り惜しみつゝ午後二時バスにて札幌大通着三時茲に大会終了す。

直ちに奥地観光出発組帰京組等々再び他日の元気な再会を約して散る。フリー旅行の主流内地組十一名は翌二十七日旭川勇駒別経由で、正午早くも北海道の屋根大雪山旭岳姿見池畔着、高度千米に立つ誠に今昔の感、相憎の小煙雨、雲の中の高山植物園を歩くが羽化登仙の趣も寒さ加えて一同ヘキヘキ、そこそこに午後二時下山天山峡泊組や奥地行札幌行等又散りぢりに別れる。翌二十八日からはすっかり晴れて阿寒知床北海道地のはて満喫の筈。紀念写真帳もその後送られて今各自スナップ交換に忙しい。終りに地元札樽組の皆様に大変なお骨折り御世話になったことを厚く御礼申上げ又の会合を楽しみましょう。

(昭和四五・一〇・五北村記)

四十五年　秋の叙勲

勲二等瑞宝章
杉山昌作(大一一)

勲三等旭日中綬章
竹村吉右衛門(大一〇)

勲四等瑞宝章
内藤保広(大九)

勲五等双光旭日章
吉田利和(大九)

勲五等瑞宝章
戸井正三(大八)

大西猪之介教授特集号一冊五〇〇円(送料込)残部僅少につき品切れの節は悪しからず。

雇用、信用調査は日本調査へ

日本調査株式会社

専務取締役　三浦儀三郎(昭5)

本社　大阪市西区京町堀5丁目124　電話(448)4121
支社　東京・名古屋
事務所　札幌・仙台・金沢・広島・高松・福岡・鹿児島

昭和十年卒 三十五周年記念 全国大会

昭四五・一〇・一〇―一一 於小樽市

集合

十日定刻午後二時頃には続々と懐しの顔が揃う。地獄坂を緩つくり登って来る者、車で校門をくぐる者。中にはどうしても名を想い出せない者もいる。

「ヤー、ヨク来テクレマシタ」と最高級の歓迎の声を掛けてはみたものゝ矢張り名を呼ばないことには当方の気持の十分の一も表せない。受付の徽章に目をやりヤット想い出す始末。世話人より先に来て山上グランドへ行って来た者もいる。皆にとって待っていた其の日が来たという感じであった。

記念碑建立の概説

松尾教授より御説明を頂いた。吾等の「マツタン」の面目躍如たるものがあり、随分と御苦労なされた御様子が、その淡々たる語間に溢れ参会者一同感激の面持で拝聴した。

慰霊祭

松尾教授の説明を了へ休憩室を出て緑丘会本部事務局長中島与市先輩の案内で校庭の一隅に建つ記念碑の前に整列した。

谷黒正二君の黙祷を捧ぐる辞があり、引続き全員で黙祷、校歌を斉唱して恩師、級友の冥福を祈った。

恩師・級友の霊前に捧ぐ

伴房次郎元校長外二十三の御霊、戦死者秋山日出男君外十四の御霊、病死者阿部武道君外二十九の御霊の前に共に学び共に訓へを受けし者相集い謹んで申し上げます。

吾々昭和十年三月小樽高商卒業生は三十五周年を迎へるに当り懐しの学園に集合且つ北海道在住恩師の御参加を頂き去りし青春の想い出を語ると共にその再会の喜びの宴を張らんとしております。

冀くは亡き師よ亡き友よ吾等と今明日の行動を倶にせられん事を。

茲に御冥福を祈り弔慰の黙祷を捧ぐるものであります。

昭和四十五年十月十日

小樽高商昭和十年卒業生
全国大会参加者一同

校内巡覧

中島先輩の案内で懐しの各教室を廻った。「此の道は百点より零点に通ずる道であります」「一年D組カワシマミチオ君」「御起立願います」「レイテンデス」とやられた第二合併教室を通った時にはまざまざと三十八年前二学期始めの「経済」の時間を想起し感無量の思いであった。南亮三郎教授の御健勝を祈る。

市内遊覧

バスで祝津・花園公園等を廻る。快晴に恵まれドライブは快適であった。祝津では沖を通る舞鶴―小樽定期船「すゞらん丸」を見送る。バスに乗りソロソロ学生時代の昔の気分が盛り上って来た。

懇親会

平磯岬に立つ昔時の鍊御殿「銀鱗荘」を懇親会と宿泊の場とした。今井君の司会で先づ同期生代表の挨拶を野村君、恩師代表の挨拶を室谷教授から頂き、祝盃の音頭は元応援団長斎藤誠夫君にとって頂いた。出席の五教授に記念品（小樽焼）を贈呈後賑やかに開宴した。唄ったり、躍ったりすることなく皆話に無中の様子であり時折アチコチより爆笑がおこり、和気将に靄々たるものであった。

試験にはロクな点をよこさなかったとの抗議にたまり兼ねてか木曽教授が立って申訳をなさる。今は点は甘いとのこと。マチルドさんも引張り出された。ニコヤカに挨拶されたが、それが仏語。司会者の今井君はスカサズ通訳を中沢君に指名、彼は更に松尾教授にお願いしヤット仰言ったことが解った。巧まざる演技となった事が却ってホ、エマシク一同腹をかゝえて笑った。

原岡教授は八十八才の御高齢ながら大変お元気で長寿を保つ秘訣をお伺いしたところ「クヨクヨスルナ」ということで感銘を深めた。

八時半頃万才の音頭を四国の菊地君にとって頂き五教授を送り出した後又愉快に飲み続け無事第一日目を終了した。兎に角三十五年振りに会う者が多いので話は尽きない。然し酒量は減った。

翌朝幹事を周章させたのは腕時計とネクタイピンの紛失届けである。早番の番頭、女中さんが総出で探して貰ったが見当らない。諦めて貰うより仕方がないと思っていたらナント時計は靴下の中から、ピンはポケットから出て来た。ヤレヤレである。両君の名は特に秘します。

握飯を持ってゴルフ組の出発後又飲みながら歓談した。量はそれ程ではないが昨夜からの引続きの酒である。相当の修業であったろう。朝食を了へ再会の日を約して思い思いに解散した。

皆が夫々枢要の部門で活躍されており話しぶりにも飲みぶりにも重厚さを見せておりますことには得も言はれぬ心強さを感じ全く去り難い別れ難い気持で一杯であった。五年後とはいわずなるべく早く又会い度いものである。

（川島記）

出席者（◎印家族同伴者）

（恩師）
原岡武、室谷賢治郎、松尾正路、木曽栄作、太黒マチルド

（級友）
阿部貞夫、安達常夫、赤木純三、五味彰、長谷川武、林健三、平間義、池田孝一、今井治男、石田英夫、石黒敏夫、伊藤雅男 ◎諫早甲一、金沢功治、川島道雄、菊地典夫、北村匡弘、北村忠、北岡逸吉、小峰親武、小森留吉、小森三郎、小山俊勝、小梁川重彦、日下部吉五郎、宮靖壱、中島昭一 ◎中村実、仲尾弥之助 ◎中沢嘉男、二瓶正男、新山学、西岡安一郎◎野口正二郎、野村信一、大原孫七、大島三郎、大杉定治、斎藤雄治、斎藤誠夫、坂井昇三、瀬下雅也、杉本敏夫 ◎角江重保、高橋弘、田村清美、田中慶四郎、谷黒正二、俵谷孝一、梅田正二、浦弘、内田岩市、若月雅司、山本秀雄、山内恕、北村正久 （以上六六名）

宮脇音次（大一一）

合糖株式会社専務、宮脇音次氏（七十三才）は十月二十二日午後十一時四十五分、腹部大動脈瘤のため東京お茶の水の東京医科歯科大附属病院で死去。告別式は二十八日午後二時から港区、青山葬儀所で行なわれた。

遺族、世田谷区尾山台一の一三の二〇、宮脇操未亡人

蓁目キミ

編集部蓁目英三母（八十才）十一月十三日老衰で死去。余市町乗念寺で告別式挙行。実方学長、中島緑丘会事務局長、緑丘会札幌支部長、大阪支部長（代）京都支部長（代）のほか約二百余名のご焼香を受く。

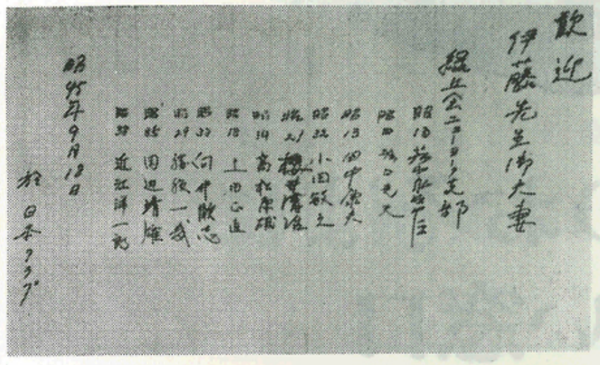
緑丘会各支部及び会員、同期会の供花、弔電を賜りました事に対し厚く御礼申し上げます。（蓁目英三）

緑丘会ニューヨーク支部会開催

去る九月一八日、一一年振りの残暑未だ衰えぬニューヨーク、日本クラブに於て、母校、伊藤森右衛門教授御夫妻及び、マルカキカイ㈱若山永太郎副社長をお迎えし、総勢一三名集まり開催された。

粟野支部長急用の為欠席され、代って田中康夫幹事長（S一三）の伊藤教授御夫妻歓迎の挨拶、出席者の自己紹介があり、和気あいあいのうちに会は進んだ。

伊藤教授は文部省在外研究員として、七月三一日羽田を発ち、バンコック、テヘランにてアジア生産性機構の調査を終え、トップマネジメントの国際比較をテーマに、ハーグ、ロンドンでの研究の後、ニューヨーク入りされたものである。尚、教授はニューヨーク、ナッシュビルの各大学にて研究をされ一一月帰国される予定である。

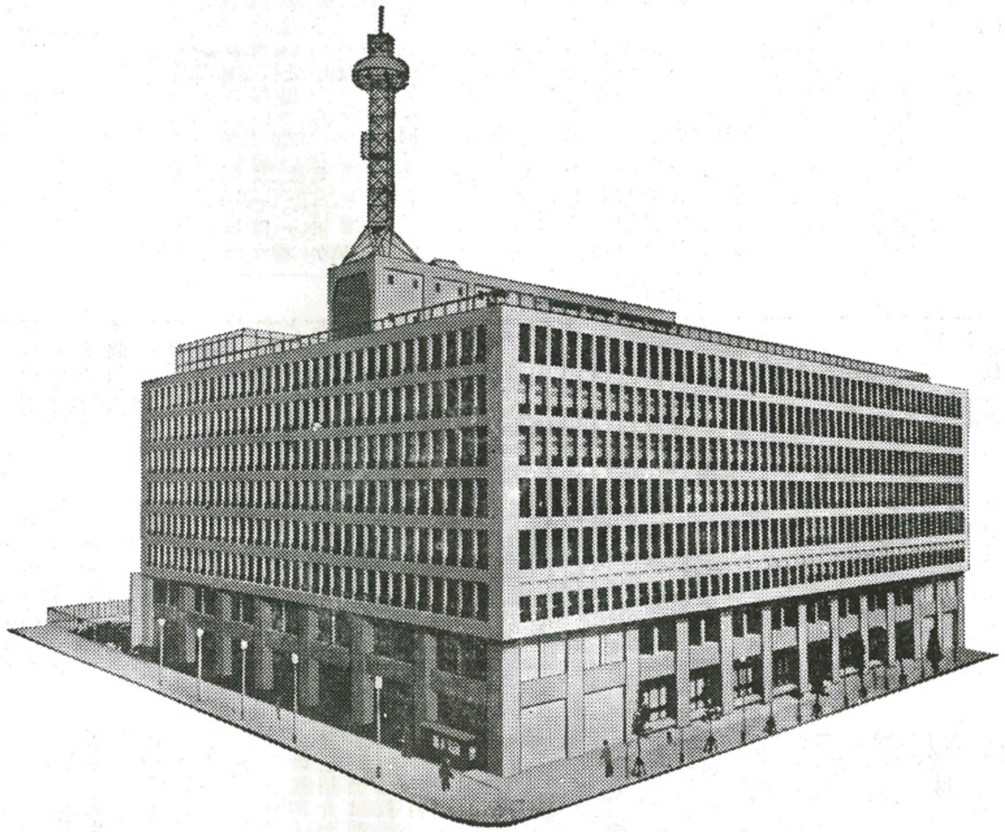


リセッションの影響が米国経済底辺にまで浸透中のこととて、話題はリセッション回復見透し、繊維問題、カーメーカー日本進出動向、公害問題発生の起源、日米経済の行方、北海道開発と尽きる事なく、伊藤教授のマクロ、田中氏の実践、日経特派員高松氏の先端的感覚が夫々のテーマにぶっつけられ、誠に意義深い議論が沸騰した。ニューヨークならではのものである。

話題は尽きず、母校懐古、伊藤教授から最近の母校に就いて詳しい情況説明があり、特に学生部長としての御苦労談は現代大学の問題を浮彫りにしてくれたが、幸い我母校は伊藤教授の対人的御指導の甲斐有って優秀な後輩を世に送り好評を得ているとのことである。

最後にニューヨークの長老、数奇の人生を歩まれ、現在日本クラブ理事もされている堀口氏から、この様な機会がなければ、多忙の要職にある緑丘人は仲々一堂に会する事は難しく、是非又ニューヨーク支部へお立寄り願い度い旨、挨拶があり、四時間余の会を閉じた。出席者は上記寄せ書の通り。（田辺靖雄記）

学校法人 野又学園 理事長 学長 野又貞夫（大正十二年卒）
函館短期大学・函館有斗高等学校
函館大学 同付属幼稚園・函館女子商業高等学校
同付設調理師学校・函館保有専門学校



あなたのおそばに
明るい窓口

東海銀行

耐火煉瓦・不定型耐火物・クレー(製紙用)

各種工業窯炉の設計施工

OYT 大阪窯業耐火煉瓦株式會社

専務取締役　松　村　義　公 (大正15年)

本　　社　大阪市北区梅ケ枝町164(宇治電ビル)　電話 (364) 3524代
東京支社　東京都千代田区大手町2の8(日本ビル)　電話 (270) 8961代
九州出張所　北九州市八幡区山王町1丁目　電話八幡(67) 3070
工　　場　岡山県　日生工場・三石工場・吉永工場・岡山クレー工場

営業品目

・ネオントランス・点火トランス・各種小型変圧器
・車輌用蛍光灯・デフロスタ・各種自動車用品
・各種SCRインバータ・各種半導体応用機器

S-Light

株式会社 **三陽電機製作所**
総発売元 **三陽商事株式会社**

昭和16年卒　常務取締役　中川和行
昭和16年卒　取締役 営業部長　高田　勇
昭和34年卒　生産部 事務課長　原　明久
昭和36年卒　大阪事務所 所長代理　千田遼一

本社・工場	岐阜市上土居字狭間81	31-6311代
札幌事務所	札幌市美園八条2丁目	82-0838
仙台事務所	仙台市連坊小路331	56-7418
東京事務所	東京都豊島区東池袋1丁目35番	971-0106代
金沢事務所	金沢市東山3丁目3番32号	52-9474
大阪事務所	大阪市阿倍野区三明町2丁目8番	621-2155代
広島事務所	広島市本川町2の6番10号	32-4645
九州事務所	福岡市古門戸町10番18号	29-5824

爽かな剃り心地

緑丘人のおヒゲ剃りには

資生堂スーパー・ポアン

——ステンレス替刃——

トーモクの段ボール

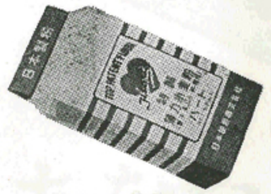
東洋木材企業

取締役社長　手　取　貞　夫

東京本社　東京都千代田区丸の内二の十八(内外ビル五階)　電話 (212) 6811
工　　場　手稲工場・綱島紙器工場・大阪紙器工場・小牧紙器工場・新潟紙器工場・山形紙器工場
営業所　小樽・釧路・函館・仙台・静岡

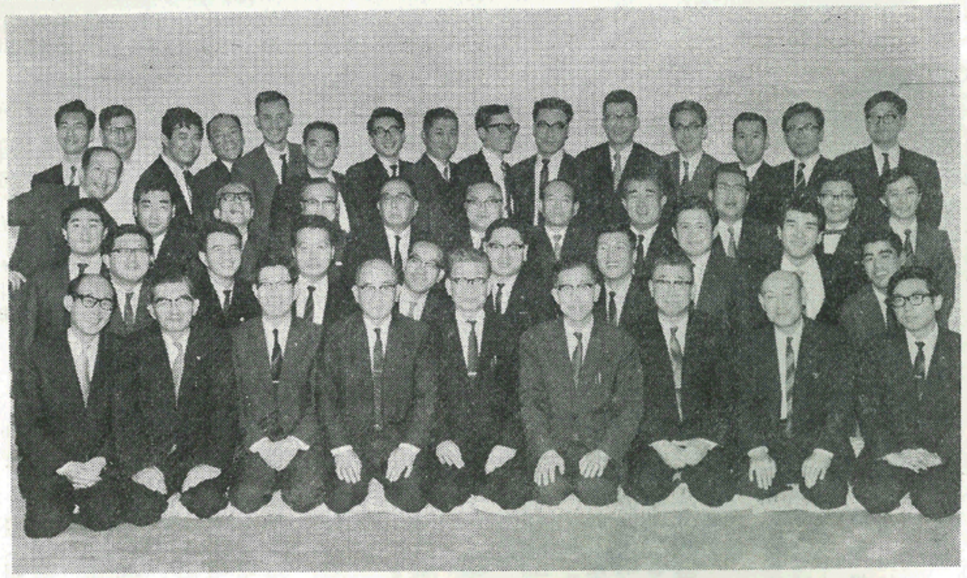
広告マッチと美術印刷・紙工品
株式会社 三優社
京都市下京区寺町通松原下ル
TEL (361) 8171 (代表)
取締役社長 山村太兵衛 (昭12)
是非一度皆様からの御用命を……特別奉仕

マックスファクター
北海道販売株式会社
社長 石崎静夫 (昭和8年卒)
本社 札幌市北6条東3丁目 電話大代表(72) 1161番
営業所 札幌・函館・室蘭・旭川・帯広・釧路・北見・苫小牧・小樽


東京都渋谷区千駄ケ谷5丁目27番5号
日本製粉株式会社
取締役社長 伴素彦
みんな健康粉食で……
小麦粉なら ハートED (ビタミン入)

名古屋支部総会開催

六月二十三日午後六時　於料亭円庄



緑丘会名古屋支部定時総会は去る六月二十三日午後六時より市内テレビ塔西側の料亭円庄に於て開催されました。

当日母校実方学長をお迎へして参集する会員四十五名のかってない多数の出席者で盛会を極めた。

中田代表幹事司会のもとに浜井支部長の挨拶があった。役員改選の結果支部長は留任、副支部長には新に水越金二氏（昭十九年卒）代表幹事に中田秀郎氏（昭二十二年卒）の夫々の就任の件に関し全員賛成拍手裡に決定されました。

次に実方学長より母校の近況について詳細懇切な御報告があって益々母校の隆昌さを実感として受取ることが出来ました。

前々支部長の増田常次郎氏（大十五年卒）の乾杯の音頭で懇親会の幕は切っておとされました。桜庭康次氏（昭七年卒）、谷川勝典氏（昭二十六年卒）の御好意によるコーラとサツポロビールが追加されてアルコール系は充分、円庄の美人ネーサン達のサービスで、ホロ酔ひ時分に中田幹事の名司会で各自の自己紹介に移り、四十五名全員が終った頃は宴酣と相なりました。

支部長が卒業時誰にも断わらず持ち帰った歴代の応援団長旗を囲んで、進軍歌、校歌の大合唱が高らかに、テレビ塔前広場に拡がっていった。昔の若さに返って、往年の馬力を振りしぼった頃は既にテレビ塔の灯も数少く名残を惜しんでいるようであった。

当日会員御出席者は次の通り

増田常次郎（大15）日本電子計算㈱
白倉　幸男（昭2）㈱中部品川製作所
栗原勇次郎（昭5）㈱富士工務店
桜庭　康次（昭7）中京コカコーラ㈱
鎌田兼五郎（昭7）㈱岡本ベニヤ製作所
吉田　曠（昭5）愛知県信用保証協会
金沢　功治（昭10）中京相互銀行本店
阿部　貞夫（昭10）中京コカコーラ㈱
森本　秀勇（昭12）中京電機㈱
浜井　清一（昭12）東和金属㈱

GSK 後藤段ボール株式会社
取締役社長 斎藤利一 (昭11年)
本社・工場 岐阜県本巣郡巣南町美江寺650
電話 (巣南) <058328> 2311－5番
本社郵便番号 501－30

江口　博（昭16）東洋燃料㈱
山田　鳳蔵（昭17）丸丹産業㈱
平田　澄男（昭18）中京電機㈱
磯西　正二（昭18）雪印乳業名古屋支店
田森誠一郎（昭18）日綿実業名古屋支社
篠田　正義（昭19）東洋木材企業㈱
中田　秀郎（昭22）丸高㈱
佐藤　誼夫（昭23）三井鉱山名古屋支店
桜井　純一（昭23）吉村商店
古川　光雄（昭23）菱和調温工業名古屋支店
鳥栖　六郎（昭23）石塚硝子㈱
福島　弘芳（昭24）滝定㈱
北山勇喜夫（昭25）㈱ノリタケ
笹原　武（昭25）協和銀行笹島支店
谷川　勝典（昭26）サツポロビール名古屋支店
川畑　広（昭30）雪印乳業名古屋支店
外村三帰也（昭33）雪印乳業名古屋支店
尾崎　清治（昭34）東京銀行名古屋東支店
剱物二三男（昭34）㈱リコー
吉川　浩（昭34）大同生命保険相互支店
稲生　史郎（昭35）東京銀行名古屋支店
佐藤　充弘（昭36）東海銀行
植木　公従（昭36）東京銀行名古屋支店
石井釟三郎（昭39）大成建設名古屋支店
中島　俊夫（昭39）三菱商事名古屋支社
仲野　豊（昭40）北酸月販㈱
浅田　孝之（昭41）中京コカコーラ㈱
芋坂　優一（昭42）北陸銀行
三島　茂之（昭44）トヨタ自動車販売
森　孝夫（昭44）愛知製鋼㈱
大沢　充（昭45）日精工業㈱
菱田　幸二（昭45）豊田通商㈱
小南　隆行（昭45）東海銀行桜通支店
後藤　三郎（昭45）㈱ユアサ
斎藤　正弘（昭45）丸紅飯田名古屋支社

一、名古屋支部会員の未納の皆さんへお願い
名簿代　五〇〇円
総会写真代　三〇〇円
未納の方は左記へお振込み願います。
北陸銀行金山橋支店　口座九二九三　緑丘会名古屋支部へ

一、緑丘会の皆さんへ
名古屋支部会員名簿（昭和四十五年五月現在）三十部余分があります。
御希望の方は右記へ御振込願へれば御送りします。

広告掲載料

全頁（二三㎝×一六、五㎝）
一回　一二、〇〇〇円
年間　六〇、〇〇〇円
½頁（一一、五㎝×一六、五㎝）
一回　六、〇〇〇円
年間　三〇、〇〇〇円
¼頁（五、五㎝×一六、五㎝）
一回　三、〇〇〇円
年間　一五、〇〇〇円

●医薬の発展につくす

現代病に挑戦し
今日と明日の健康を
つくる日本新薬

健康こそ何よりもまさる幸せと考える私どもは脳卒中、心臓病、交通傷害など社会の進歩とともにふえる病気にとりくみ、すぐれた治療薬を開発みなさまの健康でゆたかな暮しづくりにご奉仕しています〝健康メーカー〟《日本新薬》のこれからにご期待ください。

現代病に挑戦する
日本新薬KK
日本新薬株式会社　本社／(601)京都市南区西大路通八条

45・NI−3

温めるだけでビュッフェの味が楽しめる

世界の味

MCC
TRADE MARK REG.

新発売

7ヶ国の味シリーズ

フランス　ビーフシチュー
ハンガリア　グラッセ
ロシア　ボルシチ
ギリシャ　ビーフヌードル
日本　すきやき
イタリア　ミートソース
インド　ビーフカレー

エム・シーシー食品株式会社
取締役社長　水垣敏正

本　社・神戸市長田区苅藻通五丁目十五番地　〒653 電話 神戸 (078) 67−1245番(代)
東京事務所・東京都中央区明石町十二番地　〒104 電話 東京 (03) 543−2835番

富山支部総会

新支部長金岡達郎氏(大14)に決定

九月三日(金)　於　大重亭

緑丘会富山支部総会を九月三日午後六時から富山市大重亭レストランで開催した。県内在住会員二三名の内十三名が出席した。

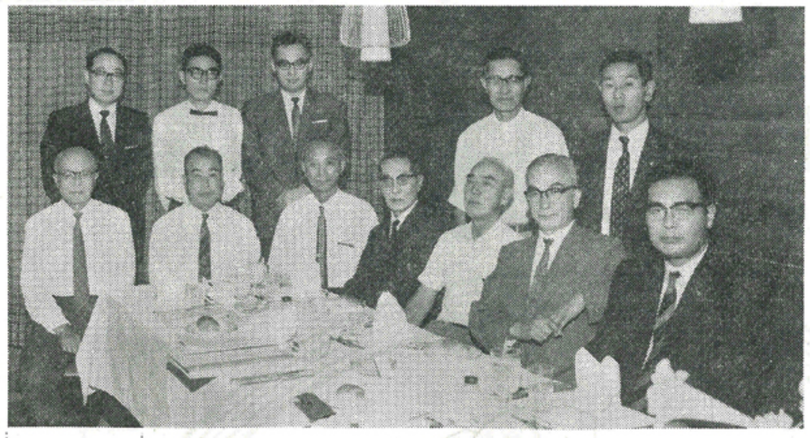
神沢重治（大一一）幹事の挨拶に次いで会員からそれぞれ寸感を吐露された。

ニューフェースの杉沢富之助氏（昭一六・丸紅飯田富山支店勤務）を中心に久々の懐古談、話題はつきず、談笑裡に夕餐を共にして八時散会した。

尚新年度役員として故藤瀬支部長の後任として金岡達郎氏（大一四）を、幹事世話係に新庄隆氏（昭三二）を互選した。

〈出席者〉

大一一　神沢重治（北陸コカコーラボトリング）
大一一　和田佐一郎（高岡製紙株式会社）
大一二　小泉清幸（清光女子高校）
大一三　野界作成
大一四　金岡達郎（北陸電気工業㈱）
大一五　西田英夫（不二越運輸㈱）
昭　四　上勢清次（ウエセオイル）
昭一六　上沢富之助（丸紅飯田富山支店）
昭一六　楠木茂（北陸銀行）
昭一六　林友一（税理士）
昭三〇　柴田勇吉（北陸銀行）
昭三二　新庄隆（北陸銀行）



（後列右から）楠　上勢　柴田　八島　新庄
（前列右から）杉沢　神沢　小泉　和田　金岡　西田　野界

編集後記

伴房次郎先生書簡集(下)をお届けします。これで十年前の約束を果すことが出来ました。(上)(中)(下)の三分冊が完結と同時にアート頁をさらに二頁加えて単行本（限定一〇〇冊）も美麗装本ケース付で製作中。目下申込受付をしておりますが、残数僅少ですので品切れの節は悪しからずご諒承下さい。

末尾の研究目録は母校学長実方正雄先生の御提供によるもので、沢山の書簡を御提供下さいました緑丘会員各位に対しましても厚く御礼申し上げます。

前号編集後記でも申し上げましたが、書簡中に沢山の緑丘人名が出て来ますが残念乍らこの「緑丘」の申込みなきため伴先生の書簡に記録された自分の氏名をご存知ない方が多数居られますので恐れ入りますが同期の方でお互にお教え下さいますようお願い申し上げます。

次号は伴先生の追憶号を発刊予定。

『訂正』前号一四頁表題「僧俊寛の人格」は「僧俊寛の人権」に訂正。三一頁二段末尾「インド棉貿易」は誤りにつき削除願います。

工業用プラスチックのすべてにかけて20年の経験が生きている

旭化成工業㈱
積水化学工業㈱
チッソ㈱
特約代理店

田中弥株式会社　(12月1日社名変更)

取締役社長　田中弥三郎（大12）

本　社　大阪市東区北浜2丁目74番地　TEL(203)4451代～8
東京営業所　東京都千代田区神田淡路町2丁目19番地　TEL(251)5258代
出張所　名古屋市・福岡市・新宮市

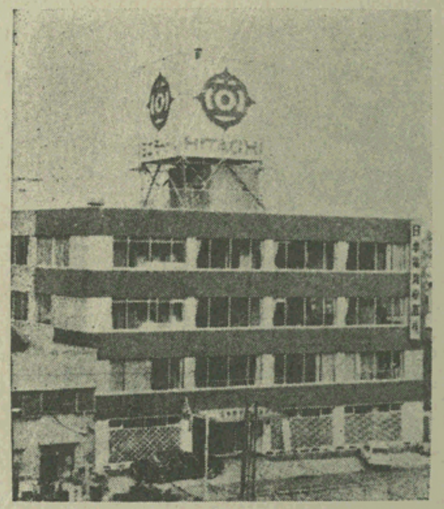
≪営業品目≫

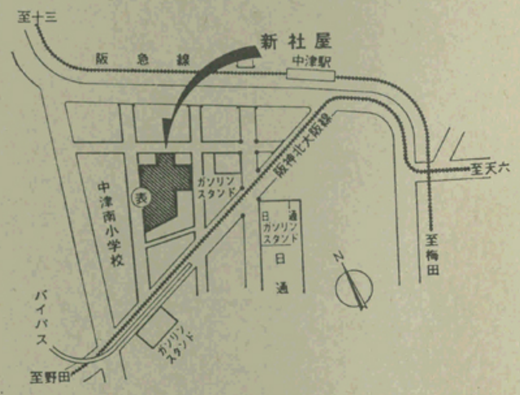
電気工事
各種工事設計施工
高圧受配電設備
低圧配電設備
冷暖房設備
電気配電相談

日立冷凍機
パッケージ型空調機
各種冷凍機
各種暖房機
除湿機ショーケース
冷機応用品一般

日立汎用機
各種搬送機械
ホイストクレーン
各種ポンプ
送排風機
電機圧縮機

日立商品
業務用電気品
ホイスト
モートルブロック
変圧器熔接機
電動工具
各種電動機





日本電気機器株式会社

取締役社長　天野雅司（大正15年）

本　社　〒531　大阪市大淀区中津南通4丁目7－5　TEL大阪(452)1271(大代表)　夜間(452)1371～5 1270
神戸営業所　〒652　神戸市兵庫区三川口町3丁目12－4　TEL神戸(55)3393～5
鹿島出張所　〒314　茨城県鹿島郡鹿島町大字宮中2481　TEL鹿島(2)~~1244~~ 0325